

設置の趣旨等を記載した書類

1. 医療技術学部 臨床検査学科設置の趣旨及び必要性

(1) 本学の沿革等

北海道医療大学（以下「本学」）は教育基本法、学校教育法及び本学の建学理念に基づき、専門の学術を教授・研究し、有能かつ良識ある専門職能人を養成し、社会の発展に寄与するとともに国民の保健・医療・福祉に貢献し、国際文化の向上を図ることを目的として1974年4月に薬学部（薬学科、衛生薬学科）を開設した。以来、本学は、1978年4月に歯学部、1993年4月に看護福祉学部（看護学科、医療福祉学科）、2002年4月に心理科学部（臨床心理学科、言語聴覚療法学科）、2013年4月にリハビリテーション科学部（理学療法学科、作業療法学科、2015年に心理科学部言語聴覚療法学科を改組し、言語聴覚療法学科を開設）を設置し、多様な領域の医療人の養成を行ってきた。さらに、より高度な教育・専門分野に対応するために全学部に研究科（修士課程及び博士課程）を設置し、大学院教育を行ってきた。また、学部横断的な教育・研究を担う重要研究拠点として、アイソトープ研究センター（1982年）、動物実験センター（1988年）、個体差医療科学センター（1990年、現予防医療科学センター）、個体差健康科学研究所（1994年、現健康科学研究所）、大学開発教育センター（2007年）、北方系伝統薬物研究センター（2009年）、がん予防研究所（2015年）を設置してきた。同時に、臨床現場で活躍する医療人や福祉専門職の多様で高度な理論と実践を学ぶ場として、心理臨床・発達支援センター（2003年）、認定看護師研修センター（2005年）、薬剤師支援センター（2010年）、地域包括ケアセンター（2016年）を設置して医療や福祉における専門分野の幅広い人材育成を行ってきた。

また、時代の要請である国際交流の推進及び、地域社会との連携を目指し、2000年にはNICEセンター（National and International Collaborative Extension Center）を設置した。この組織は、2016年に国際交流推進センター及び地域連携推進センターに改組して様々な国際交流事業や地域連携事業を総合的に行うことを位置付けた上で、多くの保健・医療・福祉に関する公開講座の開催に加えて、北海道とロシアサハリン州との交流事業への積極的な参加および、北海道滝川市や地元当別町との包括連携協定の締結に基づく市立病院の専門職向け講座の開設など、従来にない国際交流や地域連携活動を幅広く実践している。

本学の建学43年の歴史は、社会のニーズに沿った医療人としての人材育成に取り組んできており、教育理念の「保健・医療・福祉の連携・統合教育の推進」と行動指針の「学生中心の教育並びに患者中心の医療を推進」に加えて、行動目標の「新医療人育成の北の拠点」を目指して、地元北海道はもとより、日本全国さらには世界に向けて人間力と臨床力に秀でた人材を送り続け現在に至っている。

(2) 医療技術学部 臨床検査学科の開設目的

本学は医療系総合大学として、薬剤師、歯科医師、看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、臨床心理士の専門職能人を養成してきた。近年、加えてチーム医療や多職種連携の担い手として保健・医療・福祉領域で活躍できる医療人材の養成に特に重点を置いている。医療技術学部 臨床検査学科（以下「本学部」）が設置される札幌あいの里キャンパスには北海道医療大学病院ならびに地域包括ケアセンターがあることから、保健・医療・福祉を学ぶためには適した場所である。また、新入学生が本学を志望する一番の理由である「医療系総合大学」という特色を生かし、全学部学生が小グループに分かれて、様々な課題に取り組む多職種連携教育に力を入れている。チーム医療や多職種連携による医療を推進する上では、様々な職種との円滑なコミュニケーションが大切であるが、それに加えて科学的根拠に

基づいた検査データの共有が必須である。本学部を開設する第一の目的は、後述する優れた臨床検査技師の育成であるが、それに加えて多職種連携教育に本学部が加わることで、より実際のチーム医療に近い状況を作ることができ、多職種連携教育がさらに強化されることが期待される。

本学では、医療人としての豊かな人間性と高い倫理観、医学と臨床検査に関連する高度な知識・技術を基盤として、検査データの適切な管理能力、他者とのコミュニケーション能力、そして課題の発見と解決能力、自己研鑽能力を涵養し、臨床検査の現場で指導的役割を果たし、また、教育や研究の場で地域的・国際的な視野で活躍できる臨床検査技師の育成を目的として、以下の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、学生の教育にあたる。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学医療技術学部卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 生命の尊重を基盤とした豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を身につけている。
2. 臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。
3. 保健・医療・福祉の各分野の役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚とそれを実践するための専門性と協調性を身につけている。
4. 臨床検査のスペシャリストとして、進歩や変化に常に関心を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。
5. 臨床検査学領域における様々な問題や研究課題の発見と、解決に向けた科学的思考と的確な判断ができる能力を身につけている。
6. 多様な文化や価値観を尊重し、地域的・国際的な視野で活躍できる能力を身につけている。

（３）背景

臨床検査は検査データという客観的な情報を提供することで、科学的根拠に基づいた医療の確立に大きく貢献した。その提供者である臨床検査技師が、現代医療において欠かせない職種であることは疑いのない事実である。しかしながら、近年は医療の高度化・複雑化さらには検査現場の多様化によって、今後、今まで以上に高度かつ広範な知識と技術が臨床検査技師に必要となることが予想される。以下にその概要を述べる。

【医療の高度化】

近年の目覚ましい医療技術の進歩は、診断や治療効果予測の情報としてゲノム配列を活用する、いわゆる、ゲノム医療を現実のものとした。また、今までは検出できなかった微量成分や微細異常を検出する技術の登場は、診断や治療の成績向上に大きく貢献した。今後はビッグデータの活用と人工知能（AI）の導入によって機械が人間より正確な診断を下すことが可能になると考えられている。しかし、重要なことは最初の検査データの質が最終的な診断の質に直結することであり、このことは言い換えれば、その提供者である臨床検査技師の能力が診断に大きく影響するということである。精確さが要求される臨床検査は、医療分野の中でも世界的な規格化・標準化が進んだ分野である。この分野に関して日本は諸外国に比べやや遅れてはいるものの、現在、国内で国際規格 ISO15189 の認定検査室が急速に拡大している。この重要性は平成 28 年度診療報酬改定で新設された「国際標準検査管理加算」や国の政策として進められている「がんゲノム医療」の中核拠点病院指定条件である「外部機関による技術能力についての施設認定（第三者認定）を受けた臨床検査室を有していること」からも伺える。従って、これからの臨床検査技師には、先進的な臨床検査に対する知識と技術の修得は勿論のこと、精確な検査データの取得に必要な精度管理能力など臨床検査の規格化・標準化、グローバルスタンダードに適應する力が求められる。

【チーム医療、活躍の場の拡大】

医療制度改革による病床機能の再編により、臨床検査技師は従来の臨床検査業務に加えて、感染制御、栄養サポート、糖尿病療養指導、災害派遣医療（DMAT）など、病棟臨床検査技師や救急検査技師としてチーム医療への参画、医師や他医療職ならびに患者を対象とした検査相談や検査説明、臨床研究支援など活躍の場が急速に拡大しつつある。そして、今後予想される重要な活躍の場の一つが地域医療である。

【地域医療、在宅医療における臨床検査の現状】

高齢化社会を迎えるにあたり質の高い医療の提供に加えて、「治す医療」から「治し、支える医療」への転換が叫ばれている。平成 19 年度内閣府のアンケート調査では 60%以上の国民が自宅での療養を望んでおり、その実現のためには多職種が連携して在宅医療や介護連携を推進することが必要である。このような状況を受けて、平成 27 年「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律附則第三十二条第一項」に基づく「臨床検査技師等に関する法律施行令（昭和 33 年政令第 226 号）の一部改正」によって、臨床検査技師が診療の補助として医師又は歯科医師の具体的な指示を受けて検体採取行為を行えることになった。在宅医療に関する全国調査によると臨床検査技師が在宅医療に関わっている施設は約 6.6%と少ないものの、在宅医療で臨床検査を受けた人の 98%は必要性に肯定的であり、満足度は平均 91.5 点（100 点満点）、そして自由記述コメントには「通院困難の理由から自宅での検査が必要」との記載があった旨、報告している（在宅医療チームのための臨床検査、監修 臨床検査振興協議会から引用）。また、平成 29 年に報告された札幌市の在宅医療需要に関するアンケート調査（対象者数 5,000 人、有効回答率：44.4%）では、通院困難となった場合の在宅医療選択者は 20.5%であり、在宅医療患者数の将来推計は 2035 年に約 12,000 人と 2013 年に比較し約 2 倍に増加することを報告している。在宅医療への臨床検査技師の関わりが低い理由として「測定機器がない」が 42.1%と最も多い理由であったが（在宅医療チームのための臨床検査、監修 臨床検査振興協議会から引用）、ベッドサイドでの検査を可能にした POCT（point of care testing）機器の登場や生理機能検査機器の小型化によって多くの検査項目が在宅医療でも可能となった。このようなことから在宅医療への臨床検査技師の活用は、今後の高齢化社会へ対応するための重要な選択肢の一つであることは間違いない。特に北海道は地域が広大であり、冬季期間は移動が大きく制限されるなどの特殊な地域性を有し、同時に高齢化が全国的に見ても著しいことから、札幌、旭川圏などの都市部を除き、地域医療が中心となる面積が圧倒的に大きい。このような特殊な地域性を有する北海道では特に在宅医療の推進が必要である。

（４）教育の必要性と目的

医療の高度化、チーム医療の推進、検査機器の小型化などの技術進歩にともない、臨床検査技師に求められる知識や技術は、今まで以上に高度専門化し、また、他職種や患者との円滑なコミュニケーションが求められている。例えば、ヒトゲノムプロジェクトにより開発された次世代シーケンス技術によりゲノム情報を網羅的に解析することが可能となり、癌ゲノム医療として個々の患者に最適な抗癌剤の選択、いわゆる遺伝子パネル検査として実際に医療として実施されている。さらに、日本癌治療学会からの意見書（ゲノム医療実現に向けて、人材育成に関する意見書）にはゲノム医療の実現に必要な人材として「的確な病理検体処理、核酸抽出と品質管理、解析ができる臨床検査技師」が挙げられており、解析を担当する臨床検査技師は、より専門性の高い技術や知識を身に付ける必要があることが記載されている。しかしながら、高度な専門技術・知識を持った臨床検査技師の育成に向けては、3 年制の短期大学や専門学校教育では十分な時間を割くことは困難であり、高度専門職業人養成を目的として大学院教育をも視野に入れた大学 4 年制教育が必要とされる。大学教育は、中心となる教育体系が専門学校とは大きく異なり、大学設置基準に基づく多岐にわたる教員によって構成されているので、既存の知識に留まらず、開発中の最先端の知識や技術を修得できることや、研究も卒業単位として組み込まれているため、自己問題解決型の臨床検査技師の養成が可能となることなどそのメリットは大きい。

北海道においてもこの数年、多くの看護系やリハビリテーション系のコ・メディカル養成教育が3年制専門学校から4年制大学、更には、大学院に移行して医療の高度化に対応しつつある。

北海道医療大学は、臨床検査技師を養成する北海道で初めての4年制私立大学となる。本学部学生には臨床検査技師として必要な専門知識と技術を修得させることに留まることなく、社会学、人類学、心理学や経済学などの幅広い教育による医療人としての人間性の形成とチーム医療や在宅医療に必要な他医療職や患者とのコミュニケーション能力の修得、さらには本学部の主要な研究対象である「臨床検査学」をテーマとした卒業研究やアドバンス科目を通して、臨床検査に関する最新の知識と技術、自己研鑽能力、科学的・論理的思考と問題解決能力を修得させることで、臨床現場において指導的役割を果たせる高度専門職業人、そして教育・研究者として次世代を担う臨床検査技師ならびに、臨床検査研究を牽引する人材の養成を行う。

受験生には、大学卒業者と専門学校卒業者との相違をより明確に理解してもらうことが必要であり、給与面での待遇（一般的に大学卒業者の臨床検査技師は給与的に2,500～10,000円の優遇）は勿論のこと、4年制大学卒業者の就職面での選択肢は、病院、検査センター等の医療機関に加えて、医薬メーカー等の総合職、研究職や行政機関への就職も可能であること、卒業後の大学院進学への道も開け、将来の進路の幅が大きく広がることを折に触れて伝えていく。

なお、臨床検査技師の必要な数についての指針は、厚生労働省が毎年出している医師・歯科医師・薬剤師のような人口10万人対比の数は示されていない。本学が独自に日本臨床衛生検査技師会の名簿を元に算出したのが資料1である。

北海道は、設置条例により14の振興局に分けられ、道庁の総合出先機関として各振興局に総合振興局が設置され、地域政策、保健環境、産業振興に関する事務・事業などが実施されている。各振興局は、広大な面積を有しているため、面積的には道外の一つ一つの県に相当し、最大の十勝振興局(10,800km²)は、新潟県(10,360km²)とほぼ同じであり、最小の檜山振興局(2,630km²)でも東京都(2,200km²)よりもその面積は大きい。そのため、移動距離、移動時間も道外の都府県と異なり、医療の過疎化の重要な原因の一つとなっている。

したがって、北海道と道外他地区とを同様な基準を持って比較することは困難であり、振興局ごとの特性を考慮することが必要である。

北海道全体における人口10万人当たりの臨床検査技師の対人口比は56.7人と全国平均46.7人を上回っている(2015年 日本臨床衛生検査技師会入会会員数より算出)。しかしながら、道内の振興局ごとに観ると全国平均を上回る振興局は5振興局(石狩、胆振、渡島、上川、釧路)のみであり、他の9振興局は全国平均以下である(2016年 北海道臨床検査技師会名簿)。道内の臨床検査技師は札幌をはじめとする旭川、函館、釧路などの道内中核都市に多くが勤務しているため北海道全体では対人口比は全国平均を上回るが、郡部の9振興局においては36.7人と全国平均値を大きく下回っている。また、道内の179市町村中、72市町村では臨床検査技師数は0であり、地方においては臨床検査技師の大幅な不足が顕著である。

実際に本学が行った聞き取り調査では、北海道内の地方都市においては新規卒業者を対象とした臨床検査技師の求人に対して応募が少なく、業務に困難を覚えているという意見も聞かれた。また、札幌市内の大学病院検査室においても次代を担う臨床検査技師の不足を懸念する声やより専門的・研究的な知識や技術を持った人材が不足している意見もあった。

北海道内の臨床現場における臨床検査技師の不足感は大きく、本学の高度専門職業人養成への期待は大きいと感じられる。

北海道においては、臨床検査技師の養成校は主に3年制専門学校であり、4年制大学としては北海道大学医学部保健学科が唯一あるものの、その定員は37名に限られており、研究・教育能力を併せ持つ高度専門職としての臨床検査技師を育成する施設の数としては十分とはいえない状況である。

本学が医療技術学部臨床検査学科を設置することは、北海道・東北の3国立大学併願者、他の医療系・理系大学を志願している受験生のみならず、北海道・東北の臨床検査技師養成専門学校を志

願している受験生も併願すると思われ、60名の定員は確保できるものと判断する。(詳細は学生確保の見通しに記載した。)

－資料1－ 人口10万人対比臨床検査技師人数(都道府県別、道内市町村別)

(5) 教育研究上の到達目標

【研究対象とする主たる学問分野】

本学部は臨床検査技師の養成を目的とするため、主たる学問分野は「臨床検査学」であるが、臨床検査はいくつもの専門分野に細分化されるため、臨床検査学を網羅する複数の分野について研究をおこない、その成果を社会に還元するとともに、その手技や手法を学生に教授する。具体的な研究分野は「生体機能解析分野」、「生体成分分析分野」、「生体防御機能解析分野」、「生体分子病理解析分野」、「感染機構解析分野」である。

【到達目標】

本学部の教育研究上の到達目標を以下に示す。

本学部学生の到達目標を以下のとおりとする。

- ① 臨床検査技師国家試験に合格できる知識と技術を身に付ける。
- ② 多職種連携・チーム医療における臨床検査技師の役割を理解し実践できる能力を身に付ける。
- ③ 臨床検査に関連する基礎を修得し、それを基盤とした先端的研究を通して科学的思考に基づく問題解決能力を身に付ける。
- ④ 卒業後も生涯にわたり自己研鑽をする意欲と能力を備え、臨床検査の現場だけではなく教育・研究の場においても指導的役割を果たすための能力を身に付ける。

本学部教員の到達目標を以下のとおりとする。

- ① 臨床検査関連学会において、年1回以上の研究成果発表を行う。
- ② 研究成果を学会発表や論文を通して社会に還元し、臨床検査の発展に貢献する。

2. 学部・学科の特色

本学は、薬学部、歯学部、看護福祉学部(看護学科、臨床福祉学科)、心理科学部(臨床心理学科)リハビリテーション科学部(理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚療法学科)の5学部8学科からなる医療、福祉系の総合大学で、地元北海道を中心に全国各地から学生が集まっている。臨床心理学科を除くいずれの学科も医療、福祉の専門職として卒業後国家試験受験資格を得る。臨床心理学科については、日本臨床心理士資格認定協会の第1種認定校であったが、今後は、修士課程修了者を対象に、2017年9月に施行された公認心理師国家資格受験資格を得ることとなる。いずれも卒業生は高い合格率を持って社会に巣立っており、多くの者は現場の中核として働いている。この度本学が申請する臨床検査学科の卒業生は、保健・医療・福祉現場において当該国家資格有資格者とし業務に就くこととなる。さらに将来的に、より高度な専門職能人養成のために、大学院設置を目指している。

2005年1月28日に公表された中央教育審議会答申は、「我が国の高等教育の将来像」の第2章の3「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」において、「新時代の高等教育は、全体として多様化して学習者の様々な需要に的確に対応するため、大学・短期大学、高等専門学校、専門学校が学校種ごとにそれぞれの位置付けや期待される役割・機能を十分に踏まえた教育や研究を展開するとともに、個々の学校が個性・特色を一層明確にしていかなければならない」としている。特に大学は、全体として、以下7つの機能を併有するが、各大学は、選択により、保有する機能や比重の置き方は異なるので、どの分野に比重を置いた経営戦略を立てていくのか明確化する必要があるとしている。

本学部は、本学の沿革からもまた、今後の展開についても、②高度専門職業人養成に該当することとは明確である。将来的には大学院設置も併せて検討している。

- ① 世界的研究・教育拠点
- ② 高度専門職業人養成
- ③ 幅広い職業人養成
- ④ 総合的教養教育
- ⑤ 特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育、研究
- ⑥ 地域の生涯学習機会の拠点
- ⑦ 社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）

－資料 2－ 在学生の出身地分布状況及び卒業後の居住状況

－資料 3－ 卒業生の進路状況（学部別）

－資料 4－ 卒業生の国家資格取得状況

【医療技術学部 臨床検査学科の特色】

近年の目覚ましい医療の進歩は、今まで発見できなかった微細な異常の発見を可能にし、治療できなかった病気の治療を可能にした。そこには臨床検査技術の進歩が大きく貢献したことは間違いないが、それに加え進歩した技術を最大限に活かし、精確な検査データを迅速に提供する臨床検査技師の存在が必要不可欠であったことも事実である。このような医療の急速な進歩は医療職の多様化と専門化をもたらし、医療形態を医師中心からチーム医療へと変化させた。また、地方の過疎化や高齢化といった社会状況の変化は、地域医療や在宅医療への転換、医療と福祉の連携といった医療形態の変化をもたらしている。今後、臨床検査技師は病院検査室に留まることなく、医療の進歩そして医療形態の変化へ柔軟に対応する必要がある。以上を踏まえて、本学部は、以下の4つの特色を持った教育を行う。

① 先進医療知識と技術による教育

臨床検査に対する基礎的な知識・技術はもとより、実際の医療現場で用いられている検査技術および先進医療を見据えた新たな検査技術に対する知識・技術の修得が必要である。これを実現するために、校舎内には臨床検査を理解・実践する上で必要となる基本的な機器はもちろんのこと、臨床検査の現場で使用される高精度な超音波画像解析装置や自動分析機器、がん細胞などの形態学的判定能力を効率的に養うためのバーチャルスライドシステムを整備した。さらにはゲノム医療や個別化医療、再生医療等の先進医療を見据えた遺伝子解析装置、質量分析装置や細胞培養設備等を整備した。学内実習、卒業研究そしてアドバンス科目でそれら機器を積極的に学生に使用させることで、臨床検査に対する科学的視点と問題解決能力を実践的に教授する。本学部には医療や臨床検査に関する先進的な知識や技術を実践的に教授できる教員が揃っており、また、健康科学研究所やがん予防研究所などの先進的な研究所を設置している。これら施設や設備を有効に活用し、かつ、人的な連携をとりながら、本学部の学生の教育に活用していく。

② チーム医療、在宅医療を推進する実践教育

都市部への人口集中と地方の過疎化の進展による医療の地域格差や高齢化によって、地域医療や在宅医療の重要性は今後さらに増加する。本学部では、在宅医療の基本的理解と臨床検査の必要性について、在宅医療を専門とする看護福祉学部教員との連携を図り、実践的に教授する。また、あらゆる医療で必要とされるチーム医療の重要性を早期に理解し、自らの専門性との医療職種との役割を熟知し、協調してチーム医療を展開できる臨床検査技師の育成が必要である。1年次に行われる「多職種連携入門」では、学部の垣根を越えたクラス分けをおこない、他職種の理解と連携の大切さを理解させる。2016年度「多職種連携入門」の受講学生アンケートでは、「多職種との協力の大切さに気付いた」「人間関係の大切さをあらためて知った」「モチベーションが上がった」などの

意見があり、1年次の本科目が、多職種連携の重要性の早期の理解と今後の学習の動機付けに寄与していることが示された。また、2-3年次に行われる「保健医療福祉学演習」、「チーム医療・コミュニケーション演習」、「医療リスクマネジメント演習」では、チーム医療の中心である患者の理解とコミュニケーションの方法、患者と接する際のリスクマネジメントに関する知識と実技を修得させる。これらの1-3年次にまたがる教育科目は、医療機関でチーム医療を経験し、それを実践的に教授できる本学部の教員はもとより、チーム医療、社会福祉、在宅医療、心理カウンセリングなど多様な専門を有する本学の全学部の教員と連携を図り教育を遂行する。さらには、2年次、3年次に行われる学外実習では、自らの専門性を持って、医療現場で臨床検査技師が参画する実際のチーム医療について主体的に調査させることで臨床検査技師の役割について理解させる。また、1-4年次に行われる臨床検査の専門科目（医学概論、臨床検査管理学、関係法規など）においてもチーム医療についての講義を行うことで意識の向上に繋げる教育を遂行する。

③ 患者への思いやりと確かな倫理観を培う教育

臨床検査技師と患者とは一時的な接触が多いため、信頼関係が築かれにくく、トラブルが発生しやすい。また、認知症や障害を持つ患者と接する機会も多いことから、患者の身体的、心理的状态を理解し良好な関係を形成できるコミュニケーション能力や倫理観を持った臨床検査技師の育成が必要である。本学部では患者との良好な信頼関係を築くための対人援助や傾聴といった心理学に基づいた知識を教授する。そして認知症、身体障害、発達障害や精神障害を持つ患者への理解を模擬体験によって促し、臨床検査技師教育では珍しい福祉施設での体験実習により、患者の気持ちに共感できる豊かな人間性を培う教育をおこなう。本学の看護福祉学部教員および心理科学部教員との連携を図り教育を遂行する。

④ 新たな分野で臨床検査技師の能力を活かす教育

臨床検査技師の能力は臨床検査の分野で活かされてきたが、大学4年制教育への移行とともにその活躍の場は医療機関だけではなく製薬、試薬、食品、検査・健康機器、治験企業など多様化している。そのため臨床検査の知識や技術を基盤として、新たな分野で活躍できる幅広い知識を持つ臨床検査技師の育成が必要である。本学部では卒業研究やアドバンス科目により幅広い知識・技術を教授するとともに、食品関連資格の取得を想定した科目を設定した。本学部には健康食品管理士や医療情報に関する知識、資格を有する教員を配置し幅広い教育を遂行する。

3. 学部・学科の名称及び学位の名称

本学部は、「医療人に求められる豊かな人間性と確かな倫理観を備え、臨床検査学の高度な専門知識と精確な技術の修得により、科学的根拠に基づく医療・医療技術の変化に対応する能力を涵養し、臨床検査のスペシャリストとしてチーム医療・多職種連携を担い、医療検査技術を通して地域・国際社会に貢献できる人材を育成する。」ことを教育目的としている。したがって、学部名称は『医療技術学部』とし、学科名称は養成する専門職能人を適切に表現できる『臨床検査学科』とする。また、専門職能人になるための国家試験受験資格を取得できる教育課程を学修することから、学位の名称は『学士（臨床検査学）』とする。

なお、学部、学科及び学位の英文名称は以下の通りとする。

	和文名	英文名
大学名	北海道医療大学	Health Sciences University of Hokkaido
学部名	医療技術学部	School of Medical Technology
学科名	臨床検査学科	Department of Clinical Laboratory Science
学 位	学士（臨床検査学）	Bachelor of Clinical Laboratory Science

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

本学部は、次の教育理念・目標に基づき、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した身に付けるべき能力を修得させるため、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）のもと、高度な臨床検査技師を養成することを目的とした体系的な教育課程を編成する。科目とディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーとの具体的な対応関係を資料5 医療技術学部臨床検査学科カリキュラムマップに示した。また、資料6 医療技術学部臨床検査学科履修系統図には科目履修の順序と配当年次を示し、学習した知識と技術を年次を追って発展させ体系的に修得できるように教育課程を編成した。

医療技術学部の教育理念

本学の教育理念を基本として、最先端の科学的知識を基盤とした臨床検査の専門職育成をはかる教育を推進する。科学的専門知識と技術の開発・教授にとどまらず、「考える力」を培い、課題解決能力を有する人材を育成すること、保健・医療・福祉の連携・統合を意識し、臨床検査にとどまらない広い視野を備えた専門職能人を育成することにより、地域・国際社会ならびに人類の健康と幸福に貢献することを本学部の教育理念とする。

医療技術部の教育目標

1. 医療人としての豊かな人間性と高い倫理観を育てる全人教育
2. 高い専門知識と技術を身につける教育
3. チーム医療の一員として協調性を持って職責を果たす力を身につける教育
4. 生涯にわたり自ら研鑽し向上する意欲を身につける教育
5. 問題提起と解決能力を身につける教育
6. 地域的・国際的な視野で活躍できる能力を身につける教育

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した身に付けるべき能力を修得するために、医療技術学部へ入学した学生に対し、医療技術学部の教育理念・目標に基づき、以下の方針のもとで教育を実施する。

1. 1年次には、医療人としての豊かな人間性と幅広い教養を養う全学教育科目、さらに、チーム医療に求められるコミュニケーション能力を養い、多職種連携に関する理解を深めることを目的とした全学部学生が合同でおこなう科目を配当する。また、人体の構造や機能を学ぶ基礎医学科目や早期に臨床検査分野に対する動機付けを図るための臨床検査学の基礎に関する専門科目を配当する。
2. 2年次には、臨床検査に対する理解を深め、専門知識を豊富にすることを目的とした臨床検査学の講義および実習科目を配当する。
3. 3年次には、臨床検査技師に必要な技術を修得することを目的とした臨床検査学及び関連する実習科目、さらに医療現場での臨床検査に関する知識を深め、臨床検査技師としての自覚を培うことを目的とした臨床実習を配当する。また、臨床の現場で実際に臨床検査技師が関わるチーム医療や在宅医療の理解、患者への接遇、リスクマネジメントの重要性を学ぶことを目的とした科目を配当する。
4. 4年次には、研究を通して、科学的な思考による問題解決能力やプレゼンテーション能力を養うことを目的とした卒業研究を配当する。さらに、創造性、思考力、生涯にわたり自己研鑽する意欲を備え、指導的役割や教育・研究を担う臨床検査技師としての能力、同時に、先進・高度化する医療に対応できる能力を養うことを目的とした科目を配当する。
5. 国際的な視野で活躍できる力の育成に向けて、1-4年次にわたって英語の科目、そして1年次に初修外国語（ドイツ語、中国語、ロシア語）を配当し、さらに、英米哲学の問題理解（人間と思想）、グローバルな観点からの自然環境・社会経済の変化と感染症（医療社会史）、欧

全学教育科目

全学教育科目は、本学の教育目標を達成するために、全学共通の視点で提供された授業科目であり、教養教育、基礎教育、医療基盤教育の3群よりなる。全学教育科目は、「導入科目」、「教養科目」、「外国語科目」、「健康・運動科学科目」、「情報科学科目」、「自然科学科目」、「医療基盤科目」で構成する。必修科目17科目、選択科目13科目の合計30科目からなる。

全学教育科目の多くは1年次に配当されており、本学部の教育上の到達目標やディプロマ・ポリシーを踏まえて、多職種連携、チーム医療に必要な医療基盤教育科目、医学・科学の理解に必要な自然科学科目（物理学、化学、生命科学）、情報科学科目、導入科目を必修科目とし、さらに、国際的な視野を持ち活躍する能力を身に付けることを目的として英語は1-4年次にわたり配当する必修科目とし、英語以外の外国語科目および異文化の理解を目的とした教養科目を選択必修科目とした。

教養教育

幅広く深い教養と豊かな人間性を支える科目からなる。いわゆる人間力、社会力を培うことをねらいとし、導入科目と教養科目の2科目群に区分される。

① 導入科目

大学で学ぶ態度・習慣、自然科学の基本的な知識と技術を身につける。

必修科目：基礎ゼミナール（自然科学概論演習）、文章指導（日本語の表現）の2科目

② 教養科目

人間力の中心（教養のコア）をつくる科目であり、人間力の基礎を築くことをねらいとする。多様な文化や価値観を尊重する能力など、生きていくための幅広い力をバランス良く身につけるために、人間と思想、人間と文化、人間と社会の3科目群に区分される。

選択科目：人間と思想（哲学）、人間と文化（医療の人類学）、人間と社会（医療の法学）等の7科目

基礎教育

専門教育を学ぶための基礎を作る科目からなる。外国語科目、健康・運動科学科目、情報科学科目、自然科学科目の4科目群に区分される。

① 外国語科目

外国語の学習を通して、国際性と異文化理解能力を身につける。

必修科目：英語 I（オーラル・イングリッシュ A・B）、英語 II（英語 IIA・IIB）、英語 III（医療英語基礎）の5科目

選択科目：初修外国語（初級ドイツ語）、初修外国語（初級ロシア語）、初修外国語（初級中国語）等の6科目

② 健康・運動科学科目

健康や運動に関する基礎的知識を修得するとともに、健康を日常的に支える能力を養う。

必修科目：運動科学演習（運動科学演習）の1科目

③ 情報科学科目

現代の生活を支えるコンピュータ技能とその活用方法を学修する。

必修科目：情報科学（情報科学）、統計学（基礎統計学）等の4科目

④ 自然科学科目

基礎知識の補正ならびに専門科目を理解するための土台となる物理学・生物学・化学を学修する。

必修科目：物理学（物理学）、化学（化学）、生物学（生命科学）の3科目

自由選択科目：自然科学入門（基礎数学）、自然科学入門（基礎化学）、自然科学入門（基礎生物学）の3科目

医療基盤教育

医療全体に共通する基本的内容の科目である。あらゆる医療の現場で求められる倫理観、共通の態度・習慣や、患者個人に合わせた医療の基本姿勢を身につける。また、チーム医療を実践するうえで必要な他の専門職との連携・統合の基礎を学修する。その過程で他職種を理解し、早期に共通言語を獲得できるように配慮する。

必修科目：多職種連携（多職種連携入門）、医療倫理（基礎医療倫理学）の2科目

専門教育科目

専門教育科目は「専門基礎科目」と「専門科目」で構成する。

臨床検査技師に求められる知識と技術を修得するための科目である。「臨床検査技師等に関する法律施行令第18条第3号及び同号ニに定める厚生労働大臣の指定する科目」はすべて必修科目としている。さらに、本学部の教育上の目標やディプロマ・ポリシーを踏まえた上で必要な科目を選択科目や自由選択科目として加えて構成した。履修の順序は、1年次から3年次にかけて年次を追って臨床検査関連科目の「基礎」、「総論」、「各論」、「技術・方法論」、「学内実習」を学習できるよう科目を配当し、3年次後期には医療機関での「臨床実習」、そして4年次の「卒業研究」へと体系的に学習できるような展開となっている。

専門基礎科目

専門基礎科目は臨床検査技師となるために必要とする医学と臨床検査の基礎的な知識と技術を修得する科目であり、必修科目21科目からなる。

① 人体の構造と機能

マクロ的、ミクロ的や分子生化学的視点から人体の構造や機能について、講義や実習を通して学修する。

必修科目：解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ、生化学Ⅰ・Ⅱ等の9科目

② 医学検査の基礎とその疾病との関連

臨床検査や医学全体の理解と病気の成因について学修する。

必修科目：医学概論、病理学、臨床検査学入門Ⅰ等の6科目

③ 保健医療福祉と医学検査

社会保健、医療、社会福祉、公衆衛生の現状やそれに関する制度、法規について、講義や実習を通して学修する。

必修科目：公衆衛生学、公衆衛生学実習、関係法規の3科目

④ 医療工学及び情報科学

医療機器で使われる電子回路や機器の工学的な構造、ならびに医療情報の基礎とその活用について講義や実習を通して学修する。

必修科目：医療情報科学、医用工学概論、医用工学実習の3科目

専門科目

専門科目は、臨床検査技師として必要とされる知識と技術の習得を目的とした「臨床病態学」、「形態検査学」、「生物化学分析検査学」、「病因・生体防御検査学」、「生理機能検査学」、「検査総合管理学」、「医療安全管理学」、「臨地実習」、高度な医療への対応と科学的思考、問題解決能力を養うことを目的とした「卒業研究」で構成される。必修科目は50科目、選択科目は11科目の合計61科目となる。

① 臨床病態学

疾患の種類や病態、その診断や治療のために必要な臨床検査と結果の解釈について学修する。

必修科目：臨床病態学 I・II・III 等の 4 科目

② 形態検査学

細胞・組織の形態や性状をマクロ的、ミクロ的視点から観察し、異常の有無を判断するために必要な知識・技術について、講義や実習を通して学修する。

必修科目：臨床血液学 I・II、臨床病理検査学、臨床細胞診断学等の 8 科目

選択科目：医療分子機能科学、分子細胞病理学の 2 科目

③ 生物化学分析検査学

体液中の成分や遺伝子の質的量的変化を分析するために必要な知識・技術について、講義や実習を通して学修する。

必修科目：臨床化学 I・II、遺伝子検査学等の 11 科目

選択科目：先進医療検査学、遺伝子・染色体分析科学の 2 科目

④ 病因・生体防御検査学

微生物の培養・同定検査、抗原抗体反応を利用した検査を行うために必要な知識・技術について、講義や実習を通して学修する。

必修科目：免疫検査学 I・II、微生物学、医動物学等の 11 科目

選択科目：免疫細胞生物学、感染生物学、食品衛生学の 3 科目

⑤ 生理機能検査学

生体臓器の機能や形質的異常を判断する心電図や超音波検査などの原理や操作方法、結果の解釈を行うために必要な知識・技術について、講義や実習を通して学修する。

必修科目：臨床生理学 I・II、画像検査学等の 6 科目

選択科目：実践超音波検査学の 1 科目

⑥ 検査総管理学

臨床検査機器の原理や用途、検査結果の管理など臨床検査を総合的に管理するための能力、ならびに、チーム医療や検査現場での患者への対応に必要な対人援助の知識・技術について、講義や実習を通して学修する。

必修科目：検査機器学、臨床検査管理学の 7 科目

選択科目：保健医療福祉演習、チーム医療・コミュニケーション演習、医療リスクマネジメント演習の 3 科目

⑦ 医療安全管理学

臨床検査技師の責任及び業務の範囲を理解し、感染管理及び医療安全に配慮して、適切に検体検査を行うために必要となる知識・技術について、講義・実習を通して学修する。

必修科目：医療安全管理学演習の 1 科目

⑧ 臨地実習

医療現場で臨床検査技師からの直接指導による業務の実体験、チーム医療における臨床検査技師の役割を調査することで、臨床検査技師としての態度、資質、行動を育成するとともに、学内教育で修得した知識と技術を統合させて臨床検査の実践能力を学修する。

必修科目：臨床実習の 1 科目

⑨ 卒業研究

学内での講義・実習および臨地実習で修得した知識や技術を基盤とし、問題提起から研究テーマを見だし、実験計画の立案、結果の解釈、プレゼンテーションなどを通して、より高い専門的な知識や技術の修得、課題の解決能力と科学的・論理的思考の形成を培うとともに生涯にわたる自己研鑽と向上心の育成を行う。

必修科目：臨床検査研究セミナーの 1 科目

自由選択科目

食品に関する認定の受験資格や任用資格を得るための科目を配当する。

自由選択科目：健康食品学の 1 科目

－資料 5－ 医療技術学部臨床検査学科カリキュラムマップ

－資料 6－ 医療技術学部臨床検査学科履修系統図

5. 教員組織の編成の考え方及び特色

本学部の教員組織は、臨床検査技師という専門職能人の養成を教育目的としていることから、その専門教育課程に対応できるよう臨床検査技師、医師、歯科医師の資格を取得した専任教員で主に編成する。臨床検査技師である専任教員は認定資格の取得など十分な実務実績もしくは教育実績を備えた教員とする。また、それぞれの専門領域を教授できるよう教員を適切に配置する。「全学教育科目」及び「専門基礎科目」を担当する教員については、本学が長年にわたり保健・医療・福祉分野の専門職能人を養成してきた実績を生かし、十分な教育経験を持つ既設学部の一般教育係教員ならびに基礎・臨床医学系教員を兼任教員として積極的に活用する。

専任教員配置と特色

本学部は、完成年度までに 19 名の専任教員を配置する。教員整備の年次計画としては、開設年度の 2019 年度に 18 名、2020 年度に 1 名が就任予定である。配置する 19 名のうち 11 名が臨床検査技師の資格を持ち、そのうち 9 名が博士の学位を有する。いずれも臨床検査に関する実務経験もしくは教育経験を十分に備えている。職位の内訳は、教授 9 名、講師 8 名、助教 2 名である。年齢構成は、完成年度の 3 月末時点で 30 歳代 2 名、40 歳代 6 名、50 歳代 4 名、60 歳代 6 名、70 歳代 1 名である。平均年齢は、52.3 歳であり、教員の年齢構成に特に偏りはなくバランスのとれた配置になっており、教育水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がないものとする。

研究体制

専任教員の主な研究領域は生化学、免疫学、血液学、微生物学等の基礎領域から、臨床化学、臨床生理学、臨床免疫学、臨床病理学、遺伝子検査学等の臨床実践領域まで多岐にわたる。医療技術学部は「生体機能解析分野」、「生体成分分析分野」、「生体防御機能解析分野」、「生体分子病理解析分野」、「感染機構解析分野」の 5 つの研究領域に大別し、専任教員をいずれかの研究領域に配置させ研究を進めていく。さらに、学際的色彩が強く、技術進歩が早い臨床検査学という研究分野の発展を推進させるために、医学、歯学、薬学、臨床福祉学、臨床心理学、看護学、リハビリテーション学などを専門とする既設学部の教員と有機的に連携していくこととする。

なお、定年年齢は「定年規程」により定められており、専任教員の場合は 65 歳となっているが、学部等の増設の場合は当該学部等の完成年次末を定年年齢に読み替えることとされている。

－資料 7－ 定年規程

6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

① 教育方法

「4. 教育課程の編成の考え方及び特色」に記載したように、臨床検査技師教育に必要な科目を 4 年間で履修できるよう、各年次に講義、演習、実習をバランス良く配置し、体系的で、きめ細やかな教育体制を取る。

1) 配当年次

カリキュラムは全学教育科目と専門教育科目をくさび形に配当し、初年次から専門教育科目を履修させることで、早期に専門分野に対する動機付けを図るようにする。1 年次には全学教育科目を多く配し、学年進行とともに専門教育科目の比重を高くする。また、専門教育科目については、1 年次に

基礎医学系科目、2年次に臨床医学系科目と臨床検査系科目の講義と実習、3年次に臨床検査系科目の実習と臨床実習、4年次にはより専門性の高い臨床検査系科目、臨床検査の総合的理解を目的とした臨床検査系科目、卒業研究を配当した。専門科目は「基礎」、「総論」、「各論」、「技術・方法論」を踏まえた上で、「学内実習」、「臨床実習」へと体系的に学習できるような展開となっている。2年次前期および3年次後期には医療現場での対人援助、在宅医療や社会福祉分野での臨床検査技師の将来的な活躍を期待した演習科目を配当し、また、4年次には食品関連認定資格（健康食品管理士、食品衛生管理者、食品衛生監視員）の受験資格もしくは任用資格の取得のための選択科目を配当している。

2) 授業形態に適した学生数の設定

授業は講義、演習、学内及び学外実習によって構成される。学部共通科目として開講する全学教育科目や専門基礎科目、専門科目の講義、演習、実習については、概ね60名規模を想定しているが、全学教育科目の演習（英語I）および専門科目の一部の実習（臨床化学実習、臨床血液学実習、臨床生理学実習など）においては、その講義・実習内容に応じて教育効果を考慮し、20-30名程度のグループに分けて、教員1名が1グループの指導にあたる。また、前記の各グループを更に小グループに分けた場合には、各グループを指導する教員が小グループの指導にあたる。なお、スモールグループディスカッションを目的としたグループの指導は、グループ数に依存せず担当教員が指導にあたる。カリキュラム作成においては、一人の教員が同一講に2つ以上の講義もしくは実習を担当することがないように適切なグループ分けと教員の配置をおこなう。なお、全教員がオムニバス方式で担当する科目や4年次通年にわたり全教員が担当する臨床検査研究セミナーに関しては、上記の講義もしくは実習を担当する教員との重複がないように空き講を有効に活用する。学外の医療機関等で行う臨床実習については、臨床実習施設側との事前調整のうえ、実習指導者数に対して適当な学生数を配置することとする。

—資料8— 医療技術学部臨床検査学科授業時間割

3) 状況学習を用いた実践的コミュニケーション能力の育成

医療人としてのふさわしいコミュニケーション能力を育成するために、初年次からコミュニケーションに関する科目を開講し、複数年次にわたり段階的に学習が進められるように配置している。授業では、学生同士によるロールプレイ、客観的臨床能力試験（Objective Structure Clinical Examination: OSCE）などといった手法を用いて実践的状況をつくり学習させる。

4) 学部・学科を越えた多職種連携教育の実施

保健・医療・福祉の現場で様々な専門職種との連携を図るためには、各専門職種の果たす役割を理解し、互いに連携して職務を遂行できる能力を育成することが必要不可欠である。授業では、本学の医療系総合大学の特色を活かして、既設学部の教員の協力を得ながら他の専門職種の役割について教授するほか、「多職種連携」での学部・学科を越えた授業を通して、他の専門職種との連携・協働の重要性について理解を深める。

5) e-ラーニング、クリッカーシステムの活用によるアクティブラーニングの実施

学生の自学自習支援や教員との双方向性コミュニケーションの促進を図るための教育ツールとして、e-ラーニングの導入を積極的に推進する。学内にe-ラーニングシステムを整備し、教員は担当授業に対応したe-ラーニング教材を開発、配信していく。また、学生の主体的・能動的な学習活動（学生参加型授業）の促進を図るために、クリッカーシステムを導入し、教員は学生の理解度を確認しつつ授業を進行させる。

6) R-CPC 形式授業による検査結果の解釈と説明する能力の涵養

検査結果を正しく理解し説明できる能力を育成するために、専門教育科目の授業では単に知識や技術を伝授するに留まることなく、日常検査で遭遇する様々な検査結果から科学的思考に基づいて症例を推測・検討するR-CPC（Reversed Clinico Pathological Conference）形式の授業を積極的に取

り入れる。

7) 卒業論文指導

学生は4年次通年にわたり指導教員のもと、少人数で各専門分野での研究法の学習、研究を実施、結果の解釈と考察をおこない、研究結果の発表ならびに卒業論文の作成にあたる。これにより、自主的な学習能力と探究心を養い、臨床検査学の発展に寄与できる基本的能力を涵養する。

8) 学習支援室の設置とオフィスアワー制度の導入

学習支援室を教員研究室に隣接して設置し、普段から学生が授業に関することや学生生活全般に関する質問や相談を気軽にこなえる体制をとる。加えて、本学ですでに導入しているオフィスアワー制度を本学部においても採用し、学生からの相談に応じることとする。

9) 学生相談室の設置

本学では、学生が様々な問題に直面した際に適切なアドバイスをし、問題解決を図る目的で保健室内に学生相談室を設置する。相談には臨床心理士資格を有するカウンセラーが週1日体制で対応する。

10) ホーム教室制の導入と利用時間の拡大

学生間の円滑なコミュニケーションを促進するために、学年次ごとの教室を設置する。また、学生が授業終了後から22:00まで教室を使用できる環境を整えることで学生の学習を支援する。

② 履修指導方法

1) 新入生オリエンテーションの実施

入学時に新入生ガイダンスを実施し、履修方法に関する事項の他に、学生生活に必要な事項、総合図書館の利用方法等について説明をする。また、入学式直後に1泊2日の日程で宿泊研修を実施し、早期に学生生活に順応できるように動機付けを図る。

2) 学生担任制度の導入

学生生活全般や修学上の諸問題に対する指導助言を行うために、各学年に数名の学生担任を配置する。学生担任は、担当学生の履修科目と受講状況、成績等を常に把握し、個別にきめ細かい指導助言を行う。

3) カリキュラムガイダンスの実施

各学年で各学期初めに、教務スタッフや学生担任を中心に授業日程、履修方法、進級条件等についての指導を行う。

③ 卒業要件

卒業要件は、本学に4年以上在学し、所定の授業科目について、下表の合計126単位以上を修得すること。

学部名	学科名	全学教育科目		専門基礎科目		専門科目		合計
		必修科目	選択科目	必修科目	選択科目	必修科目	選択科目	
医療技術学部	臨床検査学科	23単位	6単位	21単位	0単位	72単位	4単位	126単位

④ 履修モデル

本学部の履修モデルは資料に示すとおりである。臨床検査技師のみを希望する場合、臨床検査技師に加え食品衛生管理者もしくは食品衛生監視員の任用資格、健康食品管理士の受験資格の取得を希望する場合の履修モデルをそれぞれ示す。

－資料 10－ 健康食品管理士の履修モデル

－資料 11－ 食品衛生管理者・食品衛生監視員の履修モデル

⑤ 履修科目の年間登録上限（CAP 制）

学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1年間に履修科目として登録することができる単位数の上限を原則 46 単位としている。

7. 施設、設備等の整備計画

ア 校地、運動場の整備計画

医療技術学部を設置する札幌あいの里キャンパスは、札幌市北区の石狩川流域の文教地区に位置し、自然豊かな教育環境である。キャンパス内には北海道医療大学病院、地域包括ケアセンターを有し、当別キャンパスへの移転を完了する心理科学部（収容定員 564 名）の使用施設を改修し、医療技術学部（収容定員 240 名）学生を迎えるにあたって余りある食堂等のキャンパス・アメニティを整えている。なお、札幌あいの里キャンパスの校地総面積は 28,576.31 m²で、空地には、学生が休憩できるようベンチ等を設置している。

交通面においては、JR 学園都市線「あいの里教育大」駅から徒歩 5 分といった利便性に優れ、当別キャンパス「北海道医療大学」駅とは 18 分のアクセスとなっているほか、キャンパス間をコミュニティバスが運行している。

体育館、サッカー・ラグビー場、野球場、テニスコート等の運動場用地は当別キャンパスに設置しているが、授業科目（運動科学演習）における使用にあたっては、第 1 学年の前・後期とも、週に 1 日の当別キャンパス登校日を設け、全学合同科目（多職種連携）、自然科学及び情報処理演習科目等と併せて開講する。

イ 校舎等施設の整備計画

本学の総校舎面積は 73,916.52 m²で、内、医療技術学部が使用する校舎については、設置基準上の必要な校舎面積 3,966 m²に対し、既設の心理科学部棟（6 階建：7,741.71 m²）を改修し、講義室・実習室を整備する。本学部校舎 2 階には 172 名が収容できる大講義室を 1 室、80 名収容規模の講義室を 3 室、同 5 階には 90 名収容可能な講義室を 1 室整備する。各講義室にはマルチメディアシステムを整備し、大講義室および 5 階講義室の机上には LAN 配線・個別電源を整備する。

また、同 5 階には主に形態学的な検査を行う実習（臨床血液学実習、臨床細胞病理学実習、医動物学演習、微生物学実習、臨床検査学総論実習等）に使用する実習室 A を整備する。室内には定員 60 名の学生が十分な余裕を持って実習可能な実習台、双眼顕微鏡を設けるほか、マルチメディアシステムを整備し精巧な実習を補完する。また、自動血球計数装置、実体顕微鏡、安全キャビネット、孵卵器等を配備する。同 4 階には主に生化学的な検査を行う実習（生化学実習、臨床化学実習、遺伝子検査学実習、輸血・移植学演習等）に使用する実習室 B を整備する。室内には実習室 A と同様に学生が余裕を持って実習可能な実習台を設けるほか、マルチメディアシステムを整備し、実習中の細微な手技を修得することを可能とする。また、分光光度計、遠心機、マイクロプレート用リーダー、恒温装置、遺伝子増幅装置等を配備する。同 2 階には主に生理機能学的な検査を行う実習（臨床生理学実習、画像検査学演習）を行う実習室 C を整備する。室内には男女別の検査ブースを 9 か所、防音室を 1 か所設けるほか心電計、筋電計、脳波計、呼吸機能測定装置、超音波検査装置等を整備し、学生数に対応した機器・備品を配備する。また、マルチメディアシステムを整備し小規模なレクチャー等を可能とする。

なお、当該講義棟の改修工事は 2 期に分けて実施し、2018 年 5 月に 1 期工事着工、2019 年 4 月までに 2 期工事が竣工する予定である。

また、専任教員の研究室については、教授及び准教授は個室、講師及び助教は共同研究室を基本とし、上記改修工事に併せて整備する予定である。

ウ 図書等の資料及び図書館の整備計画

① 図書等の整備計画について

図書館は、「図書館資料の収集・選定申合せ」に則り、本学の教育理念・教育目標に基づき、調和のとれた蔵書を計画的に構築している。学術情報の整備状況は、表1に示すとおりであり、本学が所蔵している資料のうち、医学および関連分野の資料は半数以上を占めている。図書については、シラバスに掲載された全資料を整備しているほか、本学に所蔵を希望する資料の申込を随時受け付けている。学術雑誌については、1996年度から電子化推進を目標に冊子体から電子版へ積極的に移行している。所蔵数には含まれないが、エルゼビア社のペイ・パー・ビューを購入しており、1人あたり年間100件まで電子ブック約36,300冊、電子ジャーナル約2,300種の論文等が利用可能である。

表1 学術情報の整備状況（2016年度）（冊/種/点）

	冊子体		電子版			視聴覚資料
	図書	学術雑誌	電子ブック	電子ジャーナル	データベース	
全体の所蔵数	241,772	2,408	138,802	8,080	22	6,606
うち医学系	135,365	1,652	32,152	7,507	16	3,990
全体に対する割合	55.99%	68.60%	23.16%	92.91%	72.73%	60.40%

臨床検査学における基礎分野および専門基礎分野の資料は、既存学科との重複により十分に整備されているため、専門分野の資料を中心に整備する（表2）。なお、学術雑誌については、既所蔵分を含めたタイトルリストを別添資料に示す。データベースについては、既に整備されている製品を活用する（表3）。完成年度以降も、既存学科と同様に計画的予算に基づき、継続的に資料を整備していく。

－資料12－ 既所蔵分を含めた学術雑誌タイトルリスト

表2 図書等の整備計画（冊/種/点）

	開設 前年度	開設年度	開設 2年目	計
図書	275(25)	194(18)	191(17)	660(60)
学術雑誌	5(0)	5(0)	5(0)	5(0)
視聴覚資料	9	6	6	21

（ ）は外国書の内数

表3 主なデータベース一覧

No	データベース名
1	Cochrane Library

2	Essential Science Indicators
3	Journal Citation Reports
4	MEDLINE
5	SciFinder
6	Scopus
7	JDream
8	医中誌 Web
9	医薬サーチ
10	今日の診療 Web

② 図書館の機能等について

図書館の施設・設備、職員数、開館状況は、表4に示すとおりである。本学部の完成年度を迎えても、あいの里キャンパスにある図書館の閲覧座席数の割合は、当該キャンパス所属の学生および大学院生の収容定員に対して約23%である。各キャンパスの資料は、学内便により他キャンパスでも利用可能であり、オンラインもしくは各館のカウンターにおいて一定時刻前に申し込んだ場合、当日中に利用者へ当該資料を受け渡し可能となっている。

2014年度に導入したディスカバリーサービスでは、本学契約資料やオープンアクセス誌等の書誌情報15億9千9百万件以上を一括検索できるほか、リンクリゾルバとの連携により、本文または文献複写申込画面まで利用者をナビゲート可能である。また、学内ネットワークへのアクセスを可能とするVPN接続サービスにより、本学が契約する大部分の電子資料は学外から利用可能である。このように、膨大化・複雑化する学術情報への効率的なアクセスを可能とし、学術情報サービスの利便性向上に努めている。

他の大学図書館等との協力については、国立情報学研究所の目録所在情報サービスに参加し、目録業務の省略化や相互貸借による迅速な資料提供等、全国の図書館と相互協力を行っている。また、39大学が加盟する北海道地区大学図書館協議会の相互利用サービスにより、学生や教職員は他大学の図書館を簡便な手続きで利用可能である。

表4 施設・設備、職員数、開館状況（2017年5月1日現在）

館名	総合図書館 (当別キャンパス)	総合図書館分館 (札幌あいの里キャンパス)
総面積	4,573.96 m ² (5階建独立棟)	293 m ² (心理学部棟2階)
座席数	422 席	65 席
主な 設置機器	蔵書検索用パソコン 3 台 情報検索用パソコン 24 台 貸出用ノートパソコン 7 台 無線 LAN アクセスポイント 4 箇所 自動貸出装置 1 台 視聴覚ブース 7 席 学生用コピー機 2 台 教員用コピー機 2 台	蔵書検索用パソコン 1 台 情報検索用パソコン 3 台 無線 LAN アクセスポイント 1 箇所 情報コンセント 29 口 視聴覚ブース 2 席 学生用コピー機 2 台 教員用コピー機 1 台
職員数	12 名	5 名
2016 年度 開館日	321 日	318 日
開館時間	・月曜日～金曜日 9:00～21:30	

	・土曜日、特定*の日曜日 10：00～16：30 *6月、7月、9～2月
--	---

8. 入学者選抜の概要

① 入学者受入についての基本方針

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づく教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を遂行する上で、医療人としての基礎知識、意欲や目的意識を有する学生を受け入れるべく以下のとおり、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を定める。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

北海道医療大学は、「21世紀の新しい健康科学の構築」を追究し、社会の要請と期待に応えるため、保健と医療と福祉に関する高度な研究に裏打ちされた良質な教育を行います。その教育を通して、チーム医療をはじめ地域社会や国際社会に貢献できる自立した専門職業人を育成することを目指しています。

そのため、本学では次のような人材を広く求めています。

1. 入学後の修学に必要な基礎的学力を有していること。
2. 協調性や基礎的コミュニケーション能力を有していること。
3. 生命を尊重し、他者を大切に思う心があること。
4. 保健・医療・福祉に関心があり、地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという目的意識を持っていること。
5. 生涯にわたって学習を継続し、自己を磨く意欲を持っていること。

② 入学者選抜の方法・体制

入学者選抜の方法は、学力試験により知識・技能等を重視する一般選抜及び面接や小論文等により表現力、能力・適正、意欲態度等を重視する特別選抜を実施することで、多様な学生の受け入れを行う。選抜方法の概要は以下のとおりである。

1) 一般選抜

一般選抜は、一般入学試験（前期・後期）、大学入試センター試験利用入学試験（前期A・B、後期）とする。一般入学試験、大学入試センター試験利用入学試験ともに、入学志願者の基礎的学力を測ることを重視する選抜方法とする。なお、一般入学試験においては、思考力を評価するため、記述式問題を導入する。また、協調性やコミュニケーション能力を測るため、面接試験を実施する。面接方法はグループ面接とする。

2) 特別選抜

特別選抜は、AO方式入学試験と推薦入学試験（一般推薦・指定校特別推薦）とする。

AO方式入学試験、推薦入学試験ともに、入学志願者のコミュニケーション能力をはじめとする能力、適正・学習に対する意欲・目的意識等を重視する選抜方法とし、調査書等の提出書類、面接、小論文・課題レポートにより総合して判定する。なお、指定校特別推薦に、地域医療特別枠を設ける。地域医療特別枠は、北海道内において人口10万人当たりの臨床検査技師数が全国平均を下回る地域（9つの振興局）に所在する高等学校または中等教育学校の中から、本学が指定する。出願要件は、卒業後、当該地域の医療に貢献することを強く志望する者とする。

一般選抜（一般入学試験、大学入試センター試験利用入学試験）の募集定員は約60%、特別選抜（AO方式入学試験、指定校特別推薦入学試験、一般推薦入学試験）の募集定員は約40%とする。

入学者選抜の実施に当たっては、大学入学試験委員会（全学）の下、教員候補者からなる医療技術学部入学試験委員会を設置し、大学設置基準第2条の2及び大学入学者選抜実施要領の規定に従い、公正かつ妥当な方法により厳正な入学者選抜を実施する。

選抜試験の概要は以下のとおりである。

1) 一般入学試験

前期と後期の2回実施する。試験科目は①「英語（コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現Ⅰ）」、②「数学Ⅰ・A」、③「化学基礎」、「生物基礎」、「物理基礎」から1科目選択の計3科目及び面接試験（グループ面接試験）とし、3科目の筆記試験結果、面接試験結果及び調査書を総合して合格者を決定する。なお、筆記試験の各科目には、思考力・判断力・表現力等を適切に判断するため、記述式問題を導入する。

前期入試では試験日自由選択制を導入し、2日間設定されている試験日のいずれかを自由に選択、または2日間とも受験することを可能とする。

2) 大学入試センター試験利用入学試験

前期A、前期B、後期の3回実施する。試験科目は前期Aが①「英語」、②「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ・A」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅱ・B」から1科目選択、③「化学基礎」、「生物基礎」、「物理基礎」から2科目選択、または「化学」、「生物」、「物理」から1科目選択の計3科目、前期B及び後期が①「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ・A」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅱ・B」から1科目選択、②「化学基礎」、「生物基礎」、「物理基礎」から2科目選択、または「化学」、「生物」、「物理」から1科目選択の計2科目とする。また、個別試験として面接試験（グループ面接試験）を実施し、センター試験結果、面接試験結果及び調査書を総合して合格者を決定する。

3) AO方式入学試験

AO方式入学試験は、第一志望として本学への入学を志す者で、本学の教育理念に共感し、本学に入学後の学習目標が明確であり、それを実現するに十分な意欲、適性及び能力を有し、かつ、本学を卒業後、地域社会ならびに国際社会に貢献することを希望する者を対象として行う。選抜は2段階で行い、1次選抜では、志願者調査書、志望理由書、志願者評価書、調査書による書類審査、2次選抜では課題レポートと面接を実施し、1次と2次の合計で合格者を決定する。

4) 推薦入学試験

推薦入学試験は、第一志望として本学への入学を志す者で出身学校長が推薦した者を対象とし、一般推薦、指定校特別推薦の2つの推薦入学試験制度を実施する。

一般推薦入学試験では、小論文、調査書及び面接の結果を総合して合格者を決定する。

指定校特別推薦入学試験では、本学が予め指定した高校から推薦があった者に対し、出願書類及び面接結果を総合して合格者を決定する。

なお、本学では2017年4月、アドミッションセンター（センター長：副学長）を設置し、入試制度改革の取り組みを開始した。

9. 取得可能な資格

本学部において、取得可能な資格は下表のとおりである。

学部学科名	取得可能な資格	国家資格・民間資格等の別	資格取得可能、受験資格取得の別	備考
医療技術学部 臨床検査学科	臨床検査技師	国家資格	受験資格	卒業要件に含まれる科目の履修に加え、所定の関連科目の履修により任用資格又は受験資格を得る。
	食品衛生管理者	国家資格	任用資格	
	食品衛生監視員	国家資格	任用資格	
	健康食品管理士	民間資格	受験資格	

10. 実習の具体的計画

臨床実習の概要

本学部の臨床実習は、医療人を志す学生として良識とモラルを身につけるとともに、臨床検査技師として不可欠な基本技能を修得し、また、医療チームの一員として臨床検査技師の役割と責任を持たせることを到達目標とする。3年次後期に8週間の臨床実習を実施するほか、1年次前期の臨床検査学入門Ⅰで1日間、2年次前期の臨床検査学入門Ⅱで1日間の見学実習を実施する。

臨床実習：総合臨床実習

学内で学んだ臨床検査に関する知識と技術を基に、医療機関において臨床検査の全分野の業務を見学、体験し、診療やチーム医療における臨床検査および臨床検査技師の役割や重要性を深く理解することを目的とする。

臨床検査学入門Ⅰ、Ⅱ：見学実習

専門科目を学びはじめた1年次前期および2年次前期に、実際の医療現場を見学することで臨床検査技師の業務や役割、他職種やチーム医療との関わりについての基本的理解を得る。そして、これから学ぶ専門科目の講義、実習が実際の医療現場でどのように役立つのかを理解することで学習意欲の向上へ繋げる。

ア 実習先の確保の状況

北海道札幌市で臨床実習を実施するために必要な施設数の医療機関から承諾を得ている。それに加え、札幌市近郊及び北海道内の主要都市（苫小牧市、旭川市、函館市、帯広市、釧路市、北見市）の医療機関からも承諾を得ている。また、北海道に限らず、学生の希望する地域や専門病院等があれば適宜増やしていく予定である。

イ 実習先との契約内容

臨床実習を実施するにあたり、前年度の実習で挙げられた問題点の検証および解決策を講じ、加えて、臨地実習ガイドライン（日本臨床衛生検査技師会）のコアカリキュラムへの対応を考慮し当該年度の臨地実習計画を立案する。その後、臨床実習施設の担当者と実習内容等に関する協議をおこない、それに基づいた「臨床実習マニュアル」を作成する。臨床実習実施に先立ち、学生には本学部臨床実習担当教員より「臨床実習マニュアル」の利用方法の説明、「臨床実習をおこなう上での心得」や「個人情報の取り扱いについて」の説明を行い、「秘密保持に関する誓約書」への署名によ

り「対象者の個人情報の保護に関する施設規則を遵守すること」ならびに「実習終了後においても実習で知り得た対象者の情報を決して漏洩しないこと」について誓約させる。【資料 15】また、実習期間中に事故および事故に至らないインシデントが発生した場合、学生に「インシデント報告書」の作成と報告を義務づけることで医療過誤やヒヤリハットの意識づけを行う。

ウ 実習水準の確保の方策

臨床実習を開始する前に、実習を行う上での最低限必要な知識や技術を事前評価・確認したうえで実習を開始する。実習期間中に本学部教員が臨床実習施設へ訪問し、「臨床実習マニュアル」に記載された実習内容の遂行の有無、および配属学生の実習遂行能力の確認を行う。また、臨床実習終了後には学生および臨床実習施設の担当者を対象としたアンケート調査を実施し、臨床実習の問題点について本学部教員と実習施設の担当者との協議会を実施することで、翌年度の実習の質の向上が得られるよう調整を図る。

エ 実習先との連携体制

臨床実習実施時には、本学部教員が実習施設の担当者との連絡先および連絡手段（電話や電子メール）を相互に確認する。事前に臨床実習の目的や方法に関して意見交換を行った後、適宜調整を図りながら実習の目標達成に向けた実習計画を立案し「臨床実習マニュアル」に反映させる。臨床実習実施期間中にあたっては、本学部教員は担当実習施設を訪問し、実習状況の把握と実習施設との連絡調整にあたる。

オ 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

学生の臨床実習に際しては、事前準備として、本大学において次の通り体制を整えている。学生の健康管理については、本大学で全学生対象に年 1 回実施している定期健康診断を受診させ、学生の健康状況を把握し、必要により個別の健康相談等を行っていく。また、学生教育研究災害傷害保険および学生教育研究賠償責任保険へ入学と同時に全員加入している。その他、感染予防対策として、臨床実習前に、B 型肝炎（HBs 抗原、HBs 抗体）、C 型肝炎（抗体）、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎の抗体価検査を臨床実習へ行くまでに実施（大学費用にて負担）する。また、実習施設においてノロウイルス感染やインフルエンザの流行などによる臨床実習の計画変更に対しては、実習施設との個別対応によって実習時期等を変更するように配慮する。

カ 事前・事後における指導計画

学生に対する事前指導として、臨床実習開始前には学生全員を対象としたオリエンテーションを実施し、臨床実習の意義や目的の説明、実習全般に関わる注意事項と心構え、挨拶や態度などについて指導する。また、臨床実習終了後には、臨床実習担当教員と学生との間で反省会を持ち、学生に対してフィードバックを行う。

キ 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

本学部の全教員（教授・准教授・講師・助教）を臨床実習施設の巡回指導担当として配置し、臨床実習施設と大学との連絡を密にすることに努める。また、巡回指導の方法については実習施設担当者との事前相談によって決定するが、原則として各施設に対して実習期間中に最低 1 回以上の巡回指導を行い、学生の実習進捗状況ならびに問題点の有無を確認する。確認した状況から必要に応じ、複数回の巡回指導を行う。また、臨床実習施設が遠隔地にある場合においても、原則として実習期間中に最低 1 回以上の巡回指導を行う。

ク 実習施設における指導者の配置計画

実習施設では、臨床実習指導経験を持つ指導者が日常検査業務と平行し学生の指導に当たっている。そのため、各実習施設の業務体制に応じ日常検査業務への支障がない範囲で指導者を配置していただくことを要請する。

ケ 成績評価体制及び単位認定方法

学生の臨床実習状況について、各施設の臨床実習指導者の意見を参考に、本学部臨床実習担当教員が成績評価を行い、教授会において単位認定を行う。

コ 実習先が遠隔地にある場合の巡回指導を実施する上での配慮

札幌市内および近郊の実習施設を中心に臨床実習を行う計画であるが、学生の出身地や将来進みたい専門領域を考慮し、遠隔地での実習施設に配置することもある。なお、実習施設が遠隔地であっても、札幌市内での臨床実習施設と同様に巡回指導は原則として1回以上行い、学生の実習進捗状況に応じ、必要に応じて巡回指導回数を増やすなど、万全の体制で指導する。

－資料 14－ 実習施設一覧

－資料 15－ 実習受入承諾書（写）

－資料 16－ 医療技術学部臨床検査学科臨床実習マニュアル

1 1. 企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

海外語学研修の概要

アメリカでの臨床検査技師資格が日本で取得可能となったことで、国際的な活躍の場が広がり、今後、臨床検査技師を志す学生は海外での活動や研究を視野に入れることが必要となる。本学部の海外語学研修は国際的視点を身につけ、英語をコミュニケーションの手段として活用する能力を得ることを到達目標としている。本学が企画している語学研修を活用し、夏季休暇等を実施する。

海外語学研修の実施について

語学研修において、英語の授業を受けるほか、施設見学や色々な課外活動の体験を通じて、現地の人々との積極的に交流を行い、外国人の考え方や日本とは異文化を学ぶことで、国際的な感覚を身に付けさせることを目的とする。

- ① 15名程度を1クラスとする講義
- ② 近郊への日帰りまたは、宿泊旅行
- ③ アウトドアアクティビティ
- ④ 施設見学
- ⑤ フェアウェルパーティー

研修受け入れ先としては、本学の姉妹校であるアルバータ大学（カナダ）を予定している。研修実施に当たっては、本学教員が同行することとし、現地コーディネーターと連携しながら研修を進める。

成績評価及び単位認定方法

海外語学研修の成績評価は、事前研修、現地研修とテスト、事後研修において一定の基準を満たしたものとし、第3学年前期に開講される英語Ⅱ（英語ⅡB）を振り替えてその単位が認定される。

評価方法は事前研修、現地研修での研修、事後研修での出席と参加態度が10%、現地での小テスト及び最終テストが80%、提出レポートを10%とする。

1 2. 編入学定員を設定する場合の具体的計画

本学部は編入学定員を定めないが、編入学を希望する者がいて、かつ1年次学生に欠員が生じた場合、定員の範囲内で2年次編入学生を受け入れる。対象とする学生は、医学や臨床検査に強い興味を持ち、その知識と技術の修得に熱意を示す以下の出願資格に該当する者とする。

出願資格

次のいずれかに該当する者

- (1) 学校教育法による大学、短期大学、高等専門学校を卒業した者又は入学する前年度の3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法による大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した者又は入学する前年度の3月31日までに修得見込みの者
- (3) 学校教育法による専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準（注1）を満たすものを卒業（修了）した者又は入学する前年度の3月31日までに卒業（修了）見込みの者

注1. 文部科学大臣の定める専修学校専門課程の基準は、修業年限が2年以上で、課程の修了に必要な総時間数が1700時間以上で、かつ、高等学校卒業又は高等学校卒業程度認定試験合格者（大学入学資格検定合格者を含む）など大学入学資格を有すること。

出願要件

- (1) 事前に行われる出願資格審査（注2）を通過した者のみ出願許可。

注2. 現在履修している科目の単位取得見込みを含め、これまで取得した単位により出願の可否を審査する。

試験科目

英語、数学、化学、生物、小論文、面接

編入学する学年

第2学年

募集人員

若干名

修業年限及び卒業の要件

修業年限は3年とし、卒業の要件は、3年以上在学し、入学時に認定された単位と合わせて本学部所定の単位を修得すること。

既修得単位の認定

編入学生は基本的に1年次に配当されている専門教育科目、及び2年次以上に配当されている専門教育科目ならびに全学教育科目を履修するものとし、これ以外の単位を実際の編入学前の大学等での履修状況を勘案しながら個別に既修得単位として認定する方針である（既修得単位の読替表）。また、認定する単位は上限を37単位とする。

教育上の配慮

編入学運営委員会のもとに、編入学コーディネーターを配置し、編入学生一人ひとりに対し、本学部の卒業認定に必要な全学教育科目並びに専門教育科目の不足分の単位を、3年間で修得するよ

う指導する。編入学生の履修モデル（資料 17）に示すように個別の履修計画を作成し、これに従い教育・指導を行う。

－資料 17－ 既修得単位の読替表

－資料 18－ 編入学生の履修モデル

1 3. 2 以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

第 1 学年については、全学教育の一部講義を当別キャンパスにおいて開講する。当別キャンパスにおいて開講する科目は他学部の学生と合同により行う「多職種連携入門」や、体育館、情報処理教室、実験室（化学・生物）等、施設設備を他学部と共同で利用するものとしている。また、第 2 学年については、「解剖学実習」のうち一部（人体解剖見学）を当別キャンパスにおいて実施する。

当別キャンパスでの講義は、第 1 学年は週 1 日とし、前期は月曜日、後期は火曜日の I 講時から V 講時に集中して開講し、第 2 学年は開講期間中の 1 日のみとすることで学生の移動への配慮を行っている。

当別キャンパスとあいの里キャンパス間は JR が運行されており「北海道医療大学駅」と「あいの里教育大駅」間は 18 分で移動することができ、両キャンパスで講義を担当する教員の移動等を考慮しても教育研究上支障はない。

1 4. 管理運営

教員役職者としては、学部運営の最高責任者として学部長を置く。その他、学生部長、教務部長の責任者を置く。

教授会の構成員は教授とするが、学部長は、必要と認める時に、教授会の議を経て、教授以外の教員を教授会に出席させることができるとしている。

教授会は、月 1 回以上の定例開催とし、(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了その他学生の身分取扱いに関する事項、(2) 学位の授与に関する事項、(3) 学生の学修評価に関する事項、(4) 教育課程の編成に関する事項、(5) 教員の教育研究業績の審査等に関する事項、(6) その他学部長が必要と定める事項及び学長から諮問のあった事項など本学部の教育・研究及び運営等に関する事項を審議し、学長に意見を述べるものとしている。また上述した事項の他、学部長が統括する教育研究に関する事項について審議し、学部長の求めに応じ、意見を述べるができるとしている。

学部長が必要と認めたときは、教授会の議を経て、各種委員会を置くことができるとしている。

15. 自己点検・評価

① 実施方法

本学は、学則第2条において「教育研究活動の状況について自ら自己点検評価を行い、その結果を公表するものとする」と定め、1992年3月に制定した「点検評価規程」に基づき、点検評価活動の全学的組織として組成する「点検評価全学審議会（以下、「全学審議会」という。）」の下、点検評価規程第6条に定める評価委員会との連携により自己点検評価を実施している。

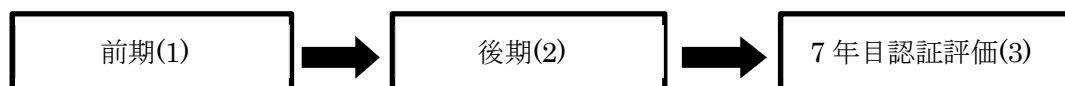
さらに2015年2月19日開催の全学審議会において、教育・研究の質の保証・向上を目的として本学独自の内部質保証制度の確立を目指し、自己点検・評価に関する基本方針を策定した。

現在はこの基本方針に基づき、点検評価規程第2条第2項に定める大項目（後段④評価項目を参照）から、公益財団法人大学基準協会（以下、「大学基準協会」という。）の点検・評価項目に準拠した各部局における課題に独自の視点を加えた自己点検・評価のテーマを設定し実施している。

実施においては点自己検・評価の実施部局（各学部・研究科等）の課題を5月末までに設定し、11月末（前半）までに進捗状況の中間報告を、翌年4月末（後半）までに最終報告を全学審議会に提出し、その結果を全学審議会で協議するシステムとしている。

また、大学基準協会の点検・評価（認証評価）は7年毎に実施されるため、認証評価に向けた自己点検・評価については、基本方針に基づき以下のサイクルによって進めることとしている。

- (1) 前期3年：3年サイクルで全学審議会が定める大学基準協会の項目について、点検評価を実施する。
- (2) 後期3年：4年目に認証評価機構からの改善事項に対し、改善報告書を提出する。6年目に認証評価申請用の点検評価を実施する。
- (3) 7年目：大学基準協会の認証評価実地調査が行われる。



② 実施体制

自己点検・評価の実施にあたっては、「点検評価全学審議会」において点検評価及び評価の基本方針並びに実施基準を設定している。「点検評価全学審議会」は学長を長として、副学長、各学部長、総合図書館長、大学病院長、歯科衛生士専門学校長、予防医療科学センター長、健康科学研究所長と事務局長で構成し、事務は総務企画課が所轄している。「点検評価全学審議会」の下には、実施部局ごとに「評価委員会」を置き、点検と評価を行っている。また、「点検評価全学審議会」が行う点検評価に対して、本学職員からの質疑・異議の申し立て受理機関として「審査委員会」を置き、申し立てがあった場合に、当該事項の資料収集、調査を行い、是正措置を講ずる体制を整備している。

③ 結果の公表・活用

自己点検・評価結果は、報告書として取り纏めホームページを通じて学内外に広く公表し、積極的な情報公開に努めている。

また、7年周期で実施される外部評価の他、その間に大学独自の点検・評価活動を行い、改善に向けた努力を行っている。

④ 評価項目

評価項目は「点検評価規程」第2条第2項において以下のとおり定めている。

- (1) 教育理念・目的に関する事項
- (2) 教育研究組織に関する事項
- (3) 教員・教員組織に関する事項
- (4) 教育内容・方法・成果に関する事項
- (5) 学生の受け入れに関する事項
- (6) 学生支援に関する事項
- (7) 教育研究環境に関する事項
- (8) 診療及び臨床教育に関する事項
- (9) 社会連携・社会貢献に関する事項
- (10) 管理運営・財務に関する事項
- (11) 内部質保証に関する事項
- (12) その他全学審議会が必要と認める事項

⑤ 外部評価

本学は、1994年4月に、大学基準協会の加盟判定審査を受け、維持会員校（現在は「正会員」と呼称）となり、その後、以下のとおり外部評価を行っている。

- | | | |
|---------|-----------------------------------|-----------|
| 1996年8月 | 大学基準協会第1回大学評価（相互評価） | 申請（本学1回目） |
| 1997年3月 | 大学基準協会第1回大学評価（相互評価） | 認定（本学1回目） |
| 2003年4月 | 大学基準協会第8回大学評価（相互評価） | 申請（本学2回目） |
| 2004年3月 | 大学基準協会第8回大学評価（相互評価） | 認定（本学2回目） |
| 2006年 | 財団法人日本高等教育評価機構＜私立大学協会加盟大学対象機関＞へ入会 | |
| 2007年 | 大学基準協会第8回相互評価に係る「改善報告書」提出 | |
| 2010年4月 | 大学基準協会第15回大学評価（認証評価） | 申請（本学3回目） |
| 2011年3月 | 大学基準協会第15回大学評価（認証評価） | 認定（本学3回目） |
| 2017年4月 | 大学基準協会2017年度大学評価（認証評価） | 申請（本学4回目） |
| 2018年3月 | 大学基準協会2017年度大学評価（認証評価） | 認定（本学4回目） |

16. 情報の公表

本学では、教育および研究活動の状況を明らかにし、それらの成果が広く社会で活用されることが社会に対する使命であると考え、また、社会的存在として大学を広く認知してもらうことも必要であることからさまざまな情報の公表を積極的に推し進めている。

大学ホームページによる情報公開に加えて、毎年8月に大学の自己点検・評価概要データ集として「Message」を発刊している。ここには上述の教育や研究にかかわる活動と実績、財務状況も含めた管理運営体制などを掲載し、加えて教育改革の取り組み、大学の施設と設備、履修と生活にかかわる学生相談の体制、学生生活の現況、社会貢献の実績などについて自己点検評価の概要を毎年更新して公表している。

また、大学の管理運営的側面の情報公表に関しては、各年度の財務状況（予算及び決算）及び事業報告を公表し、さらに2011年3月に財団法人大学基準協会より認証評価を受けたことについて、評価報告書も併せて掲載している。

（情報の公表 <http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/summary/disclosure.html>）

ア 大学の教育研究上の目的に関すること

大学のホームページにおいては、建学の理念から教育の理念、教育目標、ならびに北海道医療大学 三方針（ポリシー）である、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）、教育課程編

成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、学位授与の方針（デュプロマ・ポリシー）など、大学および各学部等の基盤となる考え方を示している。

内容	URL (http://www.hoku-iryo-u.ac.jp ・・・)	サイト (トップ>情報の公表)
建学の理念・行動指針・三方針	/summary/rinen.html	大学の教育研究上の目的に関すること
大学院三方針	/summary/in-policy.html	
薬学部 教育理念・教育目標	/~pharm/rinen.html	
大学院薬学研究科 教育理念・教育目標	/~pharm/in/rinen.html	
歯学部 教育理念・教育目標	/~dental/rinen.html	
大学院歯学研究科 教育理念・教育目標	/~dental/in/rinen.html	
看護福祉学部 教育理念・教育目標	/~nss/rinen.html	
大学院看護福祉学研究科 教育理念・教育目標	/~nss/in/rinen.html	
心理科学部 教育理念・教育目標	/~shinri/rinen.html	
大学院心理科学研究科 教育理念・教育目標	/~shinri/in/rinen.html	
リハビリテーション科学部 教育理念・教育目標	/~rehabili/rinen.html	
大学院リハビリテーション科学研究科 教育理念・教育目標	/~rehabili/in/rinen.html	

イ 教育研究上の基本組織に関すること

本学の沿革及び大学の現在の各学部、学科に関する基本組織についてホームページで公表している。

内容	URL (http://www.hoku-iryo-u.ac.jp ・・・)	サイト (トップ>情報の公表)
組織・沿革	/summary/soshiki.html	教育研究上の基本組織に関すること

ウ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

教職員組織、教員役職者等一覧、年齢構成、専任教員の学位及び主な研究内容、研究活動について公表している。

内容	URL (http://www.hoku-iryo-u.ac.jp ・・・)	サイト (トップ>情報の公表)
教職員組織について	/summary/faculty-org.html	教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
教員役職者等一覧	/summary/disc_data/2017_yakusyoku.pdf	
年齢構成	/summary/faculty-org.html	
専任教員の学位及び主な研究内容について	/summary/faculty-staff.html	
研究活動について	http://gyoseki.hoku-iryo-u.ac.jp/huhhp/KgApp	

エ 入学者に関する受け入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）、入学者数、収容定員・在籍学生数・収容定員比率、編入学定員・編入学者数、大学の卒業者数・就職者数、就職状況、大学院の学位授与状況・就職状況を公表している。

内容	URL (http://www.hoku-iryo-u.ac.jp ・・・)	サイト (トップ>情報の公表)
入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)	/summary/policy.html	入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業（修了）者数、進学者数、就職者数
入学者数	/summary/disc_data/nyugaku.pdf	
収容定員・在籍学生数・収容定員比率	/summary/disc_data/zaiseki.pdf	
編入学定員・編入学者数	/summary/disc_data/hennyu.pdf	
大学 卒業者数・就職者数	/summary/disc_data/sotu-syu-data.pdf	
大学 就職状況	/~syusyoku/jokyo.html	
大学院 学位授与状況・就職状況	/summary/disc_data/2017_gakui_juyo.pdf	

オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

北海道医療大学は、「保健と医療と福祉の連携・統合」をめざす教育理念を基本として、広く社会に貢献できる確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成するために、「全学教育科目」と各学部・学科の「専門教育科目」からなる学士課程教育を組んでいる。それらは、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」に基づいて構築される、大学の根幹をなす4年間（あるいは6年間）の教育課程については、全体像を示したうえで教務日程、授業時間割、さらに授業内容の詳細に至るまで公表し、各学部、学科の特色も明らかにしている。

内容	URL (http://www.hoku-iryo-u.ac.jp ・・・)	サイト (トップ>情報の公表)
教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	/summary/policy.html	授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること
シラバス	/for/student/syllabus.html	

カ 学習の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

学習の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関しては、履修カリキュラム、各学部履修規程、学位規程等定め、公表している。

内容	URL (http://www.hoku-iryo-u.ac.jp ・・・)	サイト (トップ>情報の公表)
学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	/summary/policy.html	学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
履修カリキュラム	/for/student/syllabus.html	
薬学部履修規程	/summary/disc_data/pharm-kitei.pdf	
歯学部履修規程	/summary/disc_data/dental-kitei.pdf	
看護福祉学部履修規程	/summary/disc_data/nss-kitei.pdf	
心理科学部履修規程	/summary/disc_data/shinri-kitei.pdf	
リハビリテーション科学部履修規程	/summary/disc_data/riha-kitei.pdf	
学位規程	/summary/disc_data/gakui.pdf	

キ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

アクセス・マップ、キャンパス・マップ、キャンパス・アメニティ、施設・設備紹介、施設・設備整備状況、クラブ紹介（体育局・文化局）、総合図書館等についてホームページに公表している。

内容	URL (http://www.hoku-iryo-u.ac.jp・・・)	サイト (トップ>情報の公表)
アクセス・マップ	/summary/map.html	校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
キャンパス・マップ	/~koho/faci/sogo.html	
キャンパス・アメニティ	/summary/disc_data/amenity.pdf	
施設・設備紹介	/~koho/faci/sogo.html	
施設・設備 整備状況	/summary/disc_data/shisetu.pdf	
クラブ紹介 体育局	/~koho/life/taiku_index.html	
クラブ紹介 文化局	/~koho/life/bunka_index.html	
総合図書館	http://library.hoku-iryo-u.ac.jp/	

ク 授業料・入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

冊子媒体においては、学生便覧、受験生向け入試要項において明示公表している。またホームページにおいては以下のページにおいて、各学部の学費及び各種奨学制度に関して公表している。

内容	URL (http://www.hoku-iryo-u.ac.jp・・・)	サイト (トップ>情報の公表)
学費について	/~koho/youkou/gakuhi_index.html	授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
編入学・大学院の学費について	/~koho/youkou/gakuhi_02.html	
薬学部「特待奨学生」制度	/~koho/yaku_syougaku/index.html	
歯学部「特待奨学生」制度	/~koho/tokubetu/index.html	
看護福祉学部臨床福祉学科「福祉・介護人材育成奨学生」制度	/~koho/fuku_syougaku/index.html	
夢つなぎ入試	/~koho/yume/index.html	
学生生活 アパートマンションのご案内	/~koho/life/apa.html	

ケ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

修学支援は各学部課において、また、進路選択、就職支援については学生支援課がその役割を担っている。なお、ホームページにおいては以下の項目について対応状況について公表している。

内容	URL (http://www.hoku-iryo-u.ac.jp・・・)	サイト (トップ>情報の公表)
学生生活について	/for/student/seikatu.html	大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
各種証明書について	/for/student/shoumei.html	
学生相談について	/for/student/soudan.html	
健康管理について	/for/student/kenkou.html	
学生援助金貸付制度	/for/student/enjyo.html	
本学奨学制度	/~koho/youkou/syougaku_index.html	
ハラスメントの防止への対策について	/~jinji/haras/index.html	
就職支援	/~syusyoku/	

- コ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況報告書、自己点検・評価報告書、認定評価の結果 等
教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関しては、学部ごとにその特色や取得資格に応じて以下のコンテンツによりホームページにおいて公表している。

内容	URL (http://www.hoku-iryo-u.ac.jp・・・)	サイト (トップ>情報の公表)
薬学部 特色	/~pharm/yaku/tokusyoku.html	教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関すること
薬学部 資格・国家試験	/~pharm/yaku/sikaku.html	
歯学部 特色	/~dental/den/tokusyoku.html	
歯学部 資格・国家試験	/~dental/den/sikaku.html	
看護福祉学部看護学科 特色	/~nss/kan/tokusyoku.html	
看護福祉学部看護学科 資格・国家試験	/~nss/kan/sikaku.html	
看護福祉学部臨床福祉学科 特色	/~nss/fuku/tokusyoku.html	
看護福祉学部臨床福祉学科 資格・国家試験	/~nss/huku/sikaku.html	
心理科学部臨床心理学科 特色	/~shinri/shin/tokusyoku.html	
心理科学部臨床心理学科 資格	/~shinri/shin/sikaku.html	
心理科学部言語聴覚療法学科 特色	/~shinri/gen/tokusyoku.html	
心理科学部言語聴覚療法学科 資格・国家資格	/~shinri/gen/sikaku.html	
リハビリテーション学部理学療法学科 特色	/~rehabili/riga/tokusyoku.html	
リハビリテーション学部理学療法学科 資格・国家資格	/~rehabili/riga/sikaku.html	
リハビリテーション学部作業療法学科 特色	/~rehabili/sagyo/tokusyoku.html	
リハビリテーション学部作業療法学科 資格・国家資格	/~rehabili/sagyo/sikaku.html	
学校法人東日本学園財務状況	/summary/zaimu.html	財務に関する状況
北海道医療大学学則	/summary/gakusoku.html	トップ>情報の公表>大学概要>学則
設置認可・届出及び履行状況報告	/summary/torikumi/ninka/	トップ>情報の公表>大学概要>設置認可・届出及び履行状況報告
自己点検評価	/summary/tenken.html	トップ>情報の公表>大学概要>大学評価
認証評価結果	/summary/tenken.html	トップ>情報の公表>大学概要>大学評価

17. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学では、全学的見地から教育内容及び教育方法の改善を図るとともに教員の教育方法等にかかわる能力開発を推進するため全学FD委員会を置いている。また各学部、研究科ごとにFD委員会を設置しており、全学FD委員会の基本方針に基づき、FDの具体的計画の立案と実施を担当している。

全学FD委員会が実施している主な取り組みとしては、全学FD研修<基本編/テーマ編>（各年1回）及び全学FD講演会・セミナーの開催、学外の各種FD研修等への教員派遣、学生による授業評価アンケートおよび授業公開（参観）の実施、FDハンドブックの作成、FDニュースレターの発行（年1回）などがある。また、各学部、研究科のFD委員会において、各々年間3～10回のFD研修を実施し、教育方法の改善を図っている。

全学FD研修<基本編/テーマ編>については、いずれもワークショップ形式による実効性の高いものとなっている。授業評価アンケートについては、毎年度前期・後期に各1回実施しており、評価結果は担当教員にフィードバックされるとともに学内向けホームページに公開している。また、評価結果が複数年度にわたって低位と認められる教員に対しては、資質改善に向けた取り組み等について指導が行われている。一例として、授業公開（参観）を行い、参観した教員から授業担当教員（公開教員）へのコメントのフィードバックを行っている。

18. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1) 教育課程内の取組について

教育課程内においては、社会的・職業的自立を図るために、高度専門医療人としての専門知識および技術の修得に加え、学生が自ら考え自分自身の将来像を描き、それを実現するための具体的な行動を取ることが出来る力を涵養することが必要である。

そのために、各学年とも担任制をとり、教員や仲間とのふれあいの中で医療人として重要な要素である「人と関わる力」を育んでいく。1年次には大学生活や将来像を学ぶために「文章指導」「臨床検査学入門」を設ける。また、医療系総合大学の強みを最大限発揮できるよう、他学部学生と合同で実施される「多職種連携（多職種連携入門）」において、チーム医療に携わる体験学習を行う。3年次の臨床実習では、臨床現場で患者や医療従事者と接することにより、臨床検査技師としての使命や責任の重さを体験し、さらに、4年次には臨床検査についてより専門的に研究する「臨床検査研究セミナー」を設けることで、学生の就職意識の向上に繋がるものと考えている。加えて、食品衛生管理者、食品衛生監視員の任用資格、健康食品管理士の受験資格を取得するための選択科目を設けることで新たな分野への就職を支援する。これらの取組により、学生のチームワーク・考える力・行動力等の社会人としての基礎力を涵養していくことで、社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培っていく。

2) 教育課程外の取組について

教育課程外においては、低学年次より段階的に職業観・社会人基礎力の涵養及び、学生の主体的で自主的な進路選択行動の修得を目的とした取組を実施する。2年次には自己分析・仕事への理解・自己表現・コミュニケーションを中心としたグループワーク型の特別キャリアデザイン集中講座を、3年次以降は教員および事務担当者による、定期的な就職ガイダンスや個別面談の実施、4年次には併せて学生が主体的に参加する病院・施設見学の促進も行っていくなど、学生が自主的に具体的な就職活動を行うことができるよう支援を強化する。

3) 適切な体制の整備について

卒業までの4年間で学生の社会的及び職業的自立を図るために、学部内に就職委員会を設置し事務担当者との綿密な連携のもと、学生の就職活動やキャリア形成に向けた助言・相談・指導にあたる。学生の就職支援を効率的に行うために、就職委員会および事務担当者が中心となり、医療機関や関連の事業所、産業界等とも密接な連携を図り、就職相談会などの各種施策の企画・運営等をコーディネートする。なお、就職委員会においては定期的に各種施策の協議と情報共有を行い、教授会等で各教員へ向けて、支援の方向性と具体的な施策を逐次フィードバックすることで、学部学科教員が一体となった支援体制を整備する。

都道府県別人口10万人対比臨床検査技師数

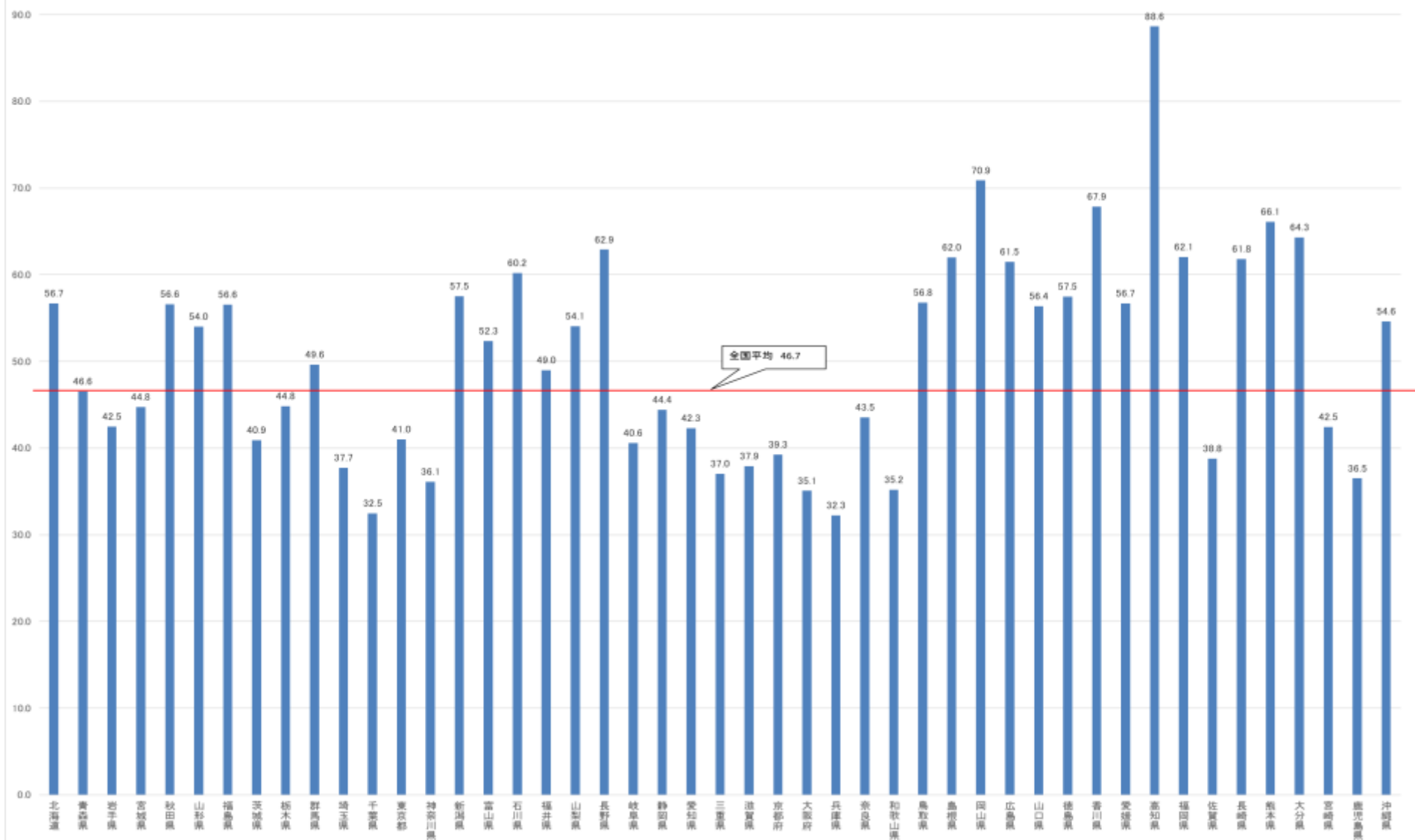
資料 1

		人 口		入金会員		人口10万人 対比（人）
		人	%	人	%	
北海道		5,400,120	4.2	3,062	5.2	56.7
東北	青森県	1,321,083	1.0	615	1.0	46.6
	岩手県	1,284,426	1.0	546	0.9	42.5
	宮城県	2,327,700	1.8	1,042	1.8	44.8
	秋田県	1,036,982	0.8	587	1.0	56.6
	山形県	1,130,724	0.9	611	1.0	54.0
	福島県	1,935,456	1.5	1,095	1.8	56.6
	計	9,036,371	7.1	4,496	7.6	49.8
関東	茨城県	2,918,710	2.3	1,195	2.0	40.9
	栃木県	1,980,077	1.6	888	1.5	44.8
	群馬県	1,976,029	1.6	981	1.7	49.6
	埼玉県	7,238,933	5.7	2,732	4.6	37.7
	千葉県	6,197,218	4.9	2,013	3.4	32.5
	東京都	13,389,725	10.5	5,493	9.2	41.0
	神奈川県	9,096,022	7.2	3,287	5.5	36.1
	計	42,796,714	33.7	16,589	27.9	38.8
中部	新潟県	2,312,973	1.8	1,331	2.2	57.5
	富山県	1,069,796	0.8	560	0.9	52.3
	石川県	1,155,720	0.9	696	1.2	60.2
	福井県	789,604	0.6	387	0.7	49.0
	山梨県	841,224	0.7	455	0.8	54.1
	長野県	2,109,418	1.7	1,327	2.2	62.9
	岐阜県	2,041,207	1.6	829	1.4	40.6
	静岡県	3,705,352	2.9	1,646	2.8	44.4
	愛知県	7,455,351	5.9	3,154	5.3	42.3
	計	21,480,645	16.9	10,385	17.5	48.3

		人 口		入金会員		人口10万人 対比（人）
		人	%	人	%	
近畿	三重県	1,825,377	1.4	676	1.1	37.0
	滋賀県	1,415,515	1.1	537	0.9	37.9
	京都府	2,609,693	2.1	1,025	1.7	39.3
	大阪府	8,835,525	7.0	3,100	5.2	35.1
	兵庫県	5,541,074	4.4	1,787	3.0	32.3
	奈良県	1,375,783	1.1	599	1.0	43.5
	和歌山県	971,165	0.8	342	0.6	35.2
	計	22,574,132	17.8	8,066	13.6	35.7
中国	鳥取県	573,940	0.5	326	0.5	56.8
	島根県	696,516	0.5	432	0.7	62.0
	岡山県	1,924,147	1.5	1,364	2.3	70.9
	広島県	2,833,320	2.2	1,743	2.9	61.5
	山口県	1,408,178	1.1	794	1.3	56.4
	計	7,436,101	5.9	4,659	7.8	62.7
四国	徳島県	763,864	0.6	439	0.7	57.5
	香川県	981,082	0.8	666	1.1	67.9
	愛媛県	1,395,483	1.1	791	1.3	56.7
	高知県	737,737	0.6	654	1.1	88.6
	計	3,878,166	3.1	2,550	4.3	65.8
九州・沖縄	福岡県	5,091,106	4.0	3,160	5.3	62.1
	佐賀県	835,040	0.7	324	0.5	38.8
	長崎県	1,386,468	1.1	857	1.4	61.8
	熊本県	1,794,091	1.4	1,186	2.0	66.1
	大分県	1,171,061	0.9	753	1.3	64.3
	宮崎県	1,114,109	0.9	473	0.8	42.5
	鹿児島県	1,667,830	1.3	609	1.0	36.5
	沖縄県	1,420,865	9.8	776	9.5	54.6
	計	14,480,570	11.4	8,138	13.7	56.2
その他(日臨技)		—	—	1,443	2.4	—
合 計		127,082,819	—	59,388	—	46.7

- ・都道府県別人口は、総務省統計局「人口推計」による(外国人を含む総人口)(2014年10月1日現在)
- ・都道府県別臨床検査技師数は、日本臨床衛生検査技師会の入金会員数(平成28年(2016.9.30)現在)

人口10万人対比臨床検査技師数(都道府県別)



北海道内市町村別臨床検査技師数(振興局別)(人口10万人対比)

		人口		技師数		10万人 対比
		人	%	人	%	
石狩振興局	札幌市	1,936,016	35.6	1,460	49.9	75.4
	江別市	120,225	2.2	20	0.7	16.6
	千歳市	95,532	1.8	10	0.3	10.5
	恵庭市	68,956	1.3	6	0.2	8.7
	北広島市	59,629	1.1	3	0.1	5.0
	石狩市	59,362	1.1	3	0.1	5.1
	当別町	17,251	0.3	3	0.1	17.4
	新篠津村	3,333	0.1	1	0.0	30.0
	小 計	2,360,304	43.5	1,506	51.5	63.8
空知総合振興局	夕張市	9,440	0.2	0	0.0	0.0
	岩見沢市	86,054	1.6	39	1.3	45.3
	美唄市	23,984	0.4	11	0.4	45.9
	芦別市	15,404	0.3	7	0.2	45.4
	赤平市	11,383	0.2	6	0.2	52.7
	三笠市	9,519	0.2	6	0.2	63.0
	滝川市	41,924	0.8	19	0.6	45.3
	砂川市	18,112	0.3	27	0.9	149.1
	歌志内市	3,833	0.1	1	0.0	26.1
	深川市	22,278	0.4	13	0.4	58.4
	南幌町	8,155	0.2	1	0.0	12.3
	奈井江町	5,850	0.1	1	0.0	17.1
	上砂川町	3,498	0.1	0	0.0	0.0
	由仁町	5,624	0.1	0	0.0	0.0
	長沼町	11,489	0.2	3	0.1	26.1
	栗山町	12,689	0.2	2	0.1	15.8
	月形町	3,577	0.1	0	0.0	0.0
	浦臼町	2,078	0.0	0	0.0	0.0
	新十津川町	6,929	0.1	0	0.0	0.0
	妹背牛町	3,241	0.1	0	0.0	0.0
	秩父別町	2,614	0.0	0	0.0	0.0
	雨竜町	2,682	0.0	0	0.0	0.0
	北竜町	2,041	0.0	0	0.0	0.0
	沼田町	3,334	0.1	1	0.0	30.0
	小 計	315,732	5.8	137	4.7	43.4
後志総合振興局	小樽市	125,028	2.3	68	2.3	54.4
	島牧村	1,631	0.0	0	0.0	0.0
	寿都町	3,258	0.1	0	0.0	0.0
	黒松内町	3,097	0.1	2	0.1	64.6
	蘭越町	5,030	0.1	0	0.0	0.0
	二セコ町	4,983	0.1	0	0.0	0.0
	真狩村	2,156	0.0	0	0.0	0.0
	留寿都村	1,886	0.0	0	0.0	0.0
	喜茂別町	2,401	0.0	0	0.0	0.0
	京極町	3,215	0.1	0	0.0	0.0
	倶知安町	15,825	0.3	8	0.3	50.6
	共和町	6,352	0.1	0	0.0	0.0
	岩内町	13,770	0.3	6	0.2	43.6
	泊村	1,765	0.0	0	0.0	0.0
	神恵内村	946	0.0	0	0.0	0.0
	積丹町	2,334	0.0	0	0.0	0.0
	古平町	3,431	0.1	0	0.0	0.0
	仁木町	3,518	0.1	0	0.0	0.0
	余市町	20,152	0.4	0	0.0	0.0
	赤井川村	1,139	0.0	0	0.0	0.0
	小 計	221,917	4.1	84	2.9	37.9
胆振総合振興局	室蘭市	89,799	1.7	87	3.0	96.9
	苫小牧市	174,064	3.2	92	3.1	52.9
	登別市	50,571	0.9	8	0.3	15.8
	伊達市	35,802	0.7	12	0.4	33.5
	豊浦町	4,306	0.1	1	0.0	23.2
	壮瞥町	2,705	0.0	1	0.0	37.0
	白老町	18,378	0.3	1	0.0	5.4
	厚真町	4,711	0.1	0	0.0	0.0
	洞爺湖町	9,508	0.2	6	0.2	63.1
	安平町	8,555	0.2	0	0.0	0.0
	むかわ町	8,997	0.2	1	0.0	11.1
	小 計	407,396	7.5	209	7.1	51.3

		人口		技師数		10万人 対比
		人	%	人	%	
日高振興局	日高町	12,913	0.2	2	0.1	15.5
	平取町	5,416	0.1	1	0.0	18.5
	新冠町	5,735	0.1	1	0.0	17.4
	浦河町	13,289	0.2	7	0.2	52.7
	様似町	4,703	0.1	0	0.0	0.0
	えりも町	5,153	0.1	1	0.0	19.4
	新ひだか町	24,295	0.4	11	0.4	45.3
	小 計	71,504	1.3	23	0.8	32.2
渡島総合振興局	函館市	271,479	5.0	191	6.5	70.4
	北斗市	47,967	0.9	0	0.0	0.0
	松前町	8,251	0.2	4	0.1	48.5
	福島町	4,669	0.1	0	0.0	0.0
	知内町	4,797	0.1	0	0.0	0.0
	木古内町	4,683	0.1	3	0.1	64.1
	七飯町	28,785	0.5	2	0.1	6.9
	鹿部町	4,237	0.1	0	0.0	0.0
	森町	17,004	0.3	2	0.1	11.8
	八雲町	17,852	0.3	16	0.5	89.6
	長万部町	5,972	0.1	2	0.1	33.5
	小 計	415,696	7.7	220	7.5	52.9
檜山振興局	江差町	8,466	0.2	4	0.1	47.2
	上ノ国町	5,443	0.1	0	0.0	0.0
	厚沢部町	4,258	0.1	1	0.0	23.5
	乙部町	4,059	0.1	1	0.0	24.6
	奥尻町	2,939	0.1	1	0.0	34.0
	今金町	5,730	0.1	3	0.1	52.4
	せたな町	8,845	0.2	4	0.1	45.2
	小 計	39,740	0.7	14	0.5	35.2
上川総合振興局	旭川市	347,207	6.4	230	7.9	66.2
	士別市	20,676	0.4	9	0.3	43.5
	名寄市	29,099	0.5	19	0.6	65.3
	富良野市	23,324	0.4	12	0.4	51.4
	鷹栖町	7,264	0.1	0	0.0	0.0
	東神楽町	10,237	0.2	0	0.0	0.0
	当麻町	6,834	0.1	0	0.0	0.0
	比布町	3,924	0.1	0	0.0	0.0
	愛別町	3,106	0.1	0	0.0	0.0
	上川町	4,012	0.1	1	0.0	24.9
	東川町	7,994	0.1	0	0.0	0.0
	美瑛町	10,593	0.2	2	0.1	18.9
	上富良野町	11,263	0.2	2	0.1	17.8
	中富良野町	5,272	0.1	1	0.0	19.0
	南富良野町	2,650	0.0	0	0.0	0.0
	占冠村	1,218	0.0	0	0.0	0.0
	和寒町	3,699	0.1	2	0.1	54.1
	剣淵町	3,359	0.1	0	0.0	0.0
	下川町	3,494	0.1	2	0.1	57.2
	美深町	4,727	0.1	0	0.0	0.0
	音威子府村	800	0.0	0	0.0	0.0
	中川町	1,708	0.0	0	0.0	0.0
	幌加内町	1,620	0.0	0	0.0	0.0
	小 計	514,080	9.5	280	9.6	54.5
留萌振興局	留萌市	22,957	0.4	15	0.5	65.3
	増毛町	4,893	0.1	0	0.0	0.0
	小平町	3,394	0.1	0	0.0	0.0
	苫前町	3,390	0.1	0	0.0	0.0
	羽幌町	7,552	0.1	3	0.1	39.7
	初山別村	1,283	0.0	0	0.0	0.0
	遠別町	2,901	0.1	1	0.0	34.5
	天塩町	3,324	0.1	1	0.0	30.1
	小 計	49,694	0.9	20	0.7	40.2
宗谷総合振興局	稚内市	36,827	0.7	19	0.6	51.6
	猿払村	2,783	0.1	1	0.0	35.9
	浜頓別町	3,933	0.1	1	0.0	25.4
	中頓別町	1,863	0.0	1	0.0	53.7
	枝幸町	8,722	0.2	3	0.1	34.4
	豊富町	4,172	0.1	1	0.0	24.0
	礼文町	2,726	0.1	0	0.0	0.0
	利尻町	2,236	0.0	1	0.0	44.7
	利尻富士町	2,749	0.1	0	0.0	0.0
	幌延町	2,501	0.0	0	0.0	0.0
	小 計	68,512	1.3	27	0.9	39.4

北海道内市町村別臨床検査技師数(振興局別)(人口10万人対比)

		人口		技師数		10万人 対比
		人	%	人	%	
オホーツク総合振興局	北見市	122,198	2.2	65	2.2	53.2
	網走市	37,740	0.7	22	0.8	58.3
	紋別市	23,644	0.4	5	0.2	21.1
	美幌町	20,851	0.4	5	0.2	24.0
	津別町	5,231	0.1	1	0.0	19.1
	斜里町	12,186	0.2	3	0.1	24.6
	清里町	4,380	0.1	0	0.0	0.0
	小清水町	5,227	0.1	3	0.1	57.4
	訓子府町	5,323	0.1	0	0.0	0.0
	置戸町	3,138	0.1	4	0.1	127.5
	佐呂間町	5,644	0.1	0	0.0	0.0
	遠軽町	21,432	0.4	10	0.3	46.7
	湧別町	9,535	0.2	2	0.1	21.0
	滝上町	2,847	0.1	2	0.1	70.2
	興部町	4,106	0.1	1	0.0	24.4
	西興部村	1,147	0.0	0	0.0	0.0
	雄武町	4,700	0.1	0	0.0	0.0
	大空町	7,708	0.1	1	0.0	13.0
	小 計	297,037	5.5	124	4.2	41.7
十勝総合振興局	帯広市	168,753	3.1	112	3.8	66.4
	音更町	45,391	0.8	6	0.2	13.2
	士幌町	6,395	0.1	0	0.0	0.0
	上士幌町	4,924	0.1	1	0.0	20.3
	鹿追町	5,603	0.1	1	0.0	17.8
	新得町	6,455	0.1	0	0.0	0.0
	清水町	9,896	0.2	2	0.1	20.2
	芽室町	19,218	0.4	3	0.1	15.6
	中札内村	4,080	0.1	0	0.0	0.0
	更別村	3,334	0.1	0	0.0	0.0
	大樹町	5,845	0.1	1	0.0	17.1
	広尾町	7,468	0.1	3	0.1	40.2
	幕別町	27,660	0.5	0	0.0	0.0
	池田町	7,231	0.1	3	0.1	41.5
	豊頃町	3,359	0.1	0	0.0	0.0
	本別町	7,733	0.1	3	0.1	38.8
	足寄町	7,376	0.1	2	0.1	27.1
	陸別町	2,596	0.0	0	0.0	0.0
	浦幌町	5,257	0.1	0	0.0	0.0
	小 計	348,574	6.4	137	4.7	39.3
釧路総合振興局	釧路市	178,394	3.3	122	4.2	68.4
	釧路町	20,329	0.4	0	0.0	0.0
	厚岸町	10,173	0.2	3	0.1	29.5
	浜中町	6,282	0.1	0	0.0	0.0
	標茶町	8,007	0.1	1	0.0	12.5
	弟子屈町	7,877	0.1	2	0.1	25.4
	鶴居村	2,532	0.0	0	0.0	0.0
	白糠町	8,638	0.2	0	0.0	0.0
	小 計	242,232	4.5	128	4.4	52.8
根室振興局	根室市	28,050	0.5	5	0.2	17.8
	別海町	15,847	0.3	3	0.1	18.9
	中標津町	24,205	0.4	7	0.2	28.9
	標津町	5,460	0.1	2	0.1	36.6
	羅臼町	5,678	0.1	0	0.0	0.0
	小 計	79,240	1.5	17	0.6	21.5
合 計		5,431,658	—	2,926	—	53.9

市町村別人口
総務省自治行政局「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」(2015.1.1現在)による。(データでみる県勢 公益財団法人矢野恒太記念会編集・出版より。)

臨床検査技師数
一般財団法人北海道臨床衛生検査技師会会員名簿による。(2016.10現在の会員名簿から 市町村別氏名を拾い出してカウント。)

 : 臨床検査技師がゼロの市町村
(179市町村中72市町村 40.2%)

在学生の出身地分布および卒業生居住分布(都道府県別)

都道府県	H30.2.1現在																					
	薬学部		歯学部		看護学科		臨床福祉学科		臨床心理学科		(心理)言語聴覚療法学科		理学療法学科		作業療法学科		(リハ)言語聴覚療法学科		計		卒業生居住地	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
北海道	909	88.4	257	62.2	458	97.7	201	92.6	224	85.8	52	72.2	331	94.3	174	96.1	179	94.2	2,785	87.5	10,721	72.4
青森県	36	3.5	6	1.5	4	0.9	6	2.8	8	3.1	2	2.8	8	2.3	3	1.7	3	1.6	76	2.4	244	1.6
岩手県	5	0.5	1	0.2			1	0.5	7	2.7	5	6.9	3	0.9	1	0.6			23	0.7	172	1.2
宮城県	8	0.8	5	1.2	2	0.4	2	0.9	2	0.8	1	1.4							20	0.6	155	1.0
秋田県	10	1.0	4	1.0			2	0.9	2	0.8	3	4.2	2	0.6	2	1.1			25	0.8	146	1.0
山形県	5	0.5							2	0.8	1	1.4					1	0.5	9	0.3	73	0.5
福島県	4	0.4	2	0.5					2	0.8			1	0.3			1	0.5	10	0.3	110	0.7
東北計	68	6.6	18	4.4	6	1.3	11	5.1	23	8.8	12	16.7	14	4.0	6	3.3	5	2.6	163	5.1	900	6.1
茨城県	2	0.2	3	0.7	1	0.2							1	0.3					7	0.2	148	1.0
栃木県	1	0.1	3	0.7													1	0.5	5	0.2	85	0.6
群馬県	1	0.1	7	1.7							1	1.4							9	0.3	86	0.6
埼玉県	3	0.3	6	1.5			1	0.5	1	0.4	2	2.8							13	0.4	187	1.3
千葉県	2	0.2							2	0.8	1	1.4							5	0.2	226	1.5
東京都	3	0.3	11	2.7	1	0.2											1	0.5	16	0.5	454	3.1
神奈川県	2	0.2	3	0.7					3	1.1	2	2.8	1	0.3			2	1.1	13	0.4	302	2.0
関東計	14	1.4	33	8.0	2	0.4	1	0.5	6	2.3	6	8.3	2	0.6	0	0.0	4	2.1	68	2.1	1,488	10.0
新潟県			3	0.7															3	0.1	86	0.6
富山県	2	0.2																	2	0.1	31	0.2
石川県			1	0.2					1	0.4									2	0.1	24	0.2
福井県			2	0.5															2	0.1	15	0.1
北陸計	2	0.2	6	1.5	0	0.0	0	0.0	1	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	9	0.3	156	1.1
山梨県									1	0.4									1	0.0	27	0.2
長野県	5	0.5	3	0.7					1	0.4	1	1.4							10	0.3	74	0.5
岐阜県	1	0.1	2	0.5	2	0.4	1	0.5			1	1.4							7	0.2	43	0.3
静岡県			8	1.9					1	0.4									9	0.3	96	0.6
愛知県	2	0.2	6	1.5									1	0.3			1	0.5	10	0.3	137	0.9
中部計	8	0.8	19	4.6	2	0.4	1	0.5	3	1.1	2	2.8	1	0.3	0	0.0	1	0.5	37	1.2	377	2.5
三重県			2	0.5	1	0.2	1	0.5											4	0.1	41	0.3
滋賀県	1	0.1	2	0.5					1	0.4									4	0.1	34	0.2
京都府	2	0.2	4	1.0					1	0.4					1	0.6			8	0.3	52	0.4
大阪府	3	0.3	12	2.9					1	0.4									16	0.5	174	1.2
兵庫県			12	2.9			2	0.9	1	0.4									15	0.5	113	0.8
奈良県			1	0.2															1	0.0	32	0.2
和歌山県	1	0.1																	1	0.0	18	0.1
関西計	7	0.7	33	8.0	1	0.2	3	1.4	4	1.5	0	0.0	0	0.0	1	0.6	0	0.0	49	1.5	464	3.1
鳥取県																			0	0.0	14	0.1
島根県																			0	0.0	5	0.0
岡山県	2	0.2	1	0.2															3	0.1	38	0.3
広島県	3	0.3	7	1.7									1	0.3					11	0.3	77	0.5
山口県			2	0.5									1	0.3					3	0.1	32	0.2
中国計	5	0.5	10	2.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.6	0	0.0	0	0.0	17	0.5	166	1.1
徳島県																			0	0.0	11	0.3
香川県	2	0.2	1	0.2															3	0.1	12	0.2
愛媛県			1	0.2															1	0.0	17	0.4
高知県			2	0.5															2	0.1	26	1.2
四国計	2	0.2	4	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	6	0.2	66	0.4
福岡県	1	0.1	10	2.4															11	0.3	91	0.3
佐賀県	2	0.2	1	0.2															3	0.1	10	0.2
長崎県	1	0.1	1	0.2															2	0.1	23	0.4
熊本県	2	0.2	1	0.2															3	0.1	40	1.2
大分県			2	0.5															2	0.1	27	0.8
宮崎県			1	0.2															1	0.0	20	0.2
鹿児島県			2	0.5															2	0.1	30	0.1
沖縄県	7	0.7	7	1.7									1	0.3			1	0.5	16	0.5	221	0.1
九州・沖縄計	13	1.3	25	6.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.3	0	0.0	1	0.5	40	1.3	462	3.1
外国			8	1.9															8	0.3	10	0.1
合 計	1,028	－	413	－	469	－	217	－	261	－	72	－	351	－	181	－	190	－	3,182	－	14,810	－

卒業生の進路状況（学部別）

各年5月1日現在

薬学部

年度 職種別進路先	2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
病院薬剤師	55	40.7%	46	32.9%	55	37.4%	57	39.3%	67	32.8%
調剤薬局	50	37.0%	41	29.3%	33	22.4%	43	29.7%	46	22.5%
一般薬局	7	5.2%	11	7.9%	6	4.1%	9	6.2%	15	7.4%
製薬	1	0.7%	1	0.7%	1	0.7%	3	2.1%	4	2.0%
医薬品卸		0.0%	1	0.7%	1	0.7%	1	0.7%	1	0.5%
行政機関	1	0.7%		0.0%		0.0%	3	2.1%	2	1.0%
大学院進学	1	0.7%	3	2.1%	4	2.7%	2	1.4%	1	0.5%
その他・不明	20	14.8%	37	26.4%	47	32.0%	27	18.6%	68	33.3%
計	135	100.0%	140	100.0%	147	100.0%	145	100.0%	204	100.0%

歯学部

年度 職種別進路先	2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
歯科臨床研修医	69	84.1%	57	77.0%	46	62.2%	21	41.2%	32	69.6%
その他・不明	13	15.9%	17	23.0%	28	37.8%	30	58.8%	14	30.4%
計	82	100.0%	74	100.0%	74	100.0%	51	100.0%	46	100.0%

看護福祉学部 看護学科

年度 職種別進路先	2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
病院看護師	96	85.0%	93	85.3%	103	88.0%	112	94.1%	97	92.4%
その他看護師		0.0%	1	0.9%		0.0%		0.0%		0.0%
市町村保健師	2	1.8%	4	3.7%	4	3.4%	2	1.7%	1	1.0%
その他保健師	1	0.9%		0.0%		0.0%	1	0.8%	1	1.0%
大学院進学	6	5.3%	5	4.6%	6	5.1%		0.0%	1	1.0%
その他進学（専攻科等）		0.0%	2	1.8%		0.0%		0.0%	2	1.9%
その他・不明	8	7.1%	4	3.7%	4	3.4%	4	3.4%	3	2.9%
	113	100.0%	109	100.0%	117	100.0%	119	100.0%	105	100.0%

看護福祉学部 臨床福祉学科

年度 職種別進路先	2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
病院	9	16.1	15	25.0	18	27.7	16	22.9	31	29.2
社会福祉施設	27	48.2	27	45.0	31	47.7	36	51.4	35	33.0
介護老人保健施設	1	1.8		0.0	2	3.1		0.0	3	2.8
社会福祉協議会	1	1.8	1	1.7		0.0	2	2.9	3	2.8
行政機関		0.0	1	1.7	4	6.2	8	11.4	7	6.6
一般企業	1	1.8	4	6.7	4	6.2	5	7.1	13	12.3
教員	3	5.4	6	10.0	3	4.6	2	2.9	5	4.7
大学院進学		0.0	2	3.3		0.0	1	1.4	2	1.9
その他・不明	14	25.0	4	6.7	3	4.6		0.0	7	6.6
計	56	100.0	60	100.0	65	100.0	70	100.0	106	100.0

心理学部 臨床心理学科

年度 職種別進路先	2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
病院	1	1.8%	2	3.0%	2	2.9%		0.0%	3	4.5%
社会福祉施設	8	14.5%	6	9.1%	8	11.4%	8	11.8%	6	9.1%
一般企業	21	38.2%	23	34.8%	30	42.9%	31	45.6%	31	47.0%
行政機関	3	5.5%	5	7.6%	4	5.7%	6	8.8%	5	7.6%
大学院進学	8	14.5%	8	12.1%	10	14.3%	10	14.7%	10	15.2%
その他・不明	14	25.5%	22	33.3%	16	22.9%	13	19.1%	11	16.7%
計	55	100.0%	66	100.0%	70	100.0%	68	100.0%	66	100.0%

心理学部 言語聴覚療法学科

年度 職種別進路先	2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
病院	33	71.7%	43	71.7%	48	77.4%	37	80.4%	45	81.8%
社会福祉施設	1	2.2%	2	3.3%	2	3.2%	1	2.2%	3	5.5%
一般企業	1	2.2%	1	1.7%		0.0%		0.0%		0.0%
行政機関	3	6.5%	1	1.7%	2	3.2%	1	2.2%	3	5.5%
大学院進学		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%
その他・不明	8	17.4%	13	21.7%	10	16.1%	7	15.2%	4	7.3%
計	46	100.0%	60	100.0%	62	100.0%	46	100.0%	55	100.0%

リハビリテーション科学部 理学療法学科

年度 職種別進路先	2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
病院									68	93.2%
社会福祉施設									4	5.5%
一般企業									1	1.4%
行政機関										0.0%
大学院進学										0.0%
その他・不明										0.0%
計									73	100.0%

リハビリテーション科学部 作業療法学科

[illegible]

卒業生の国家資格取得状況

資料 4

薬剤師

年	卒業期	卒業者数(人)	取得者数(人)	取得率(%)
H29	40	141	118	83.7
総計		5,582	5,375	96.3

歯科医師

年	卒業期	卒業者数(人)	取得者数(人)	取得率(%)
H29	34	46	33	71.7
総計		3,168	3,103	97.9

看護師

年	卒業期	卒業者数(人)	取得者数(人)	取得率(%)
H29	21	105(104)	102(101)	97.1(97.1)
総計		2,185(1,977)	2,160(1,950)	98.9(98.6)

※:卒業者数には既に看護師免許を有する編入学生が含まれるため、編入学生以外の卒業者数、合格者数、取得率を()で表示した。

保健師

年	卒業期	卒業者数(人)	取得者数(人)	取得率(%)
H29	21	15	15	100.0
総計		1,995	1,844	92.4

社会福祉士

年	卒業期	卒業者数(人)	取得者数(人)	取得率(%)
H29	21	105	44	41.9
総計		1,621	837	51.6

精神保健福祉士

年	卒業期	卒業者数(人)	取得者数(人)	取得率(%)
H29	21	28	24	85.7
総計		358	268	74.9

理学療法士

年	卒業期	卒業者数(人)	取得者数(人)	取得率(%)
H29	1	73	73	100.0
総計		73	73	100.0

作業療法士

年	卒業期	卒業者数(人)	取得者数(人)	取得率(%)
H29	1	40	40	100.0
総計		40	40	100.0

言語聴覚士

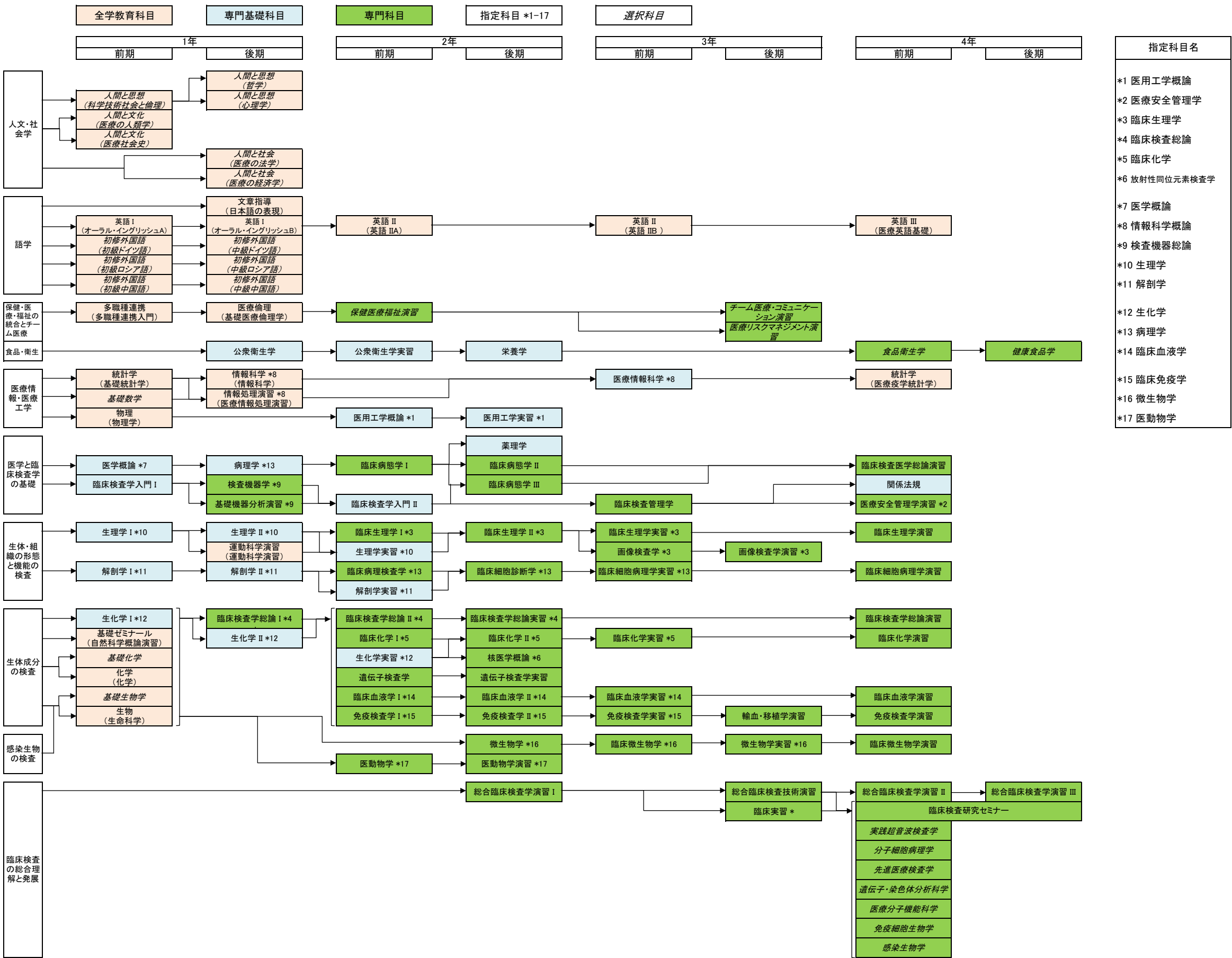
年	卒業期	卒業者数(人)	取得者数(人)	取得率(%)
H29	12	49	49	100.0
総計		660	639	96.8

各資格の総計は、当該学科卒業生の第1期から2017年3月までの卒業者の状況を示す。

医療技術学部 臨床検査学科 カリキュラムマップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）							
	生命の尊重を基盤とした豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を身につけている。	臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。	保健・医療・福祉の各分野の役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚とそれを実践するための専門性と協調性を身につけている。	臨床検査のスペシャリストとして、進歩や変化に常に関心を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。	臨床検査学領域における様々な問題や研究課題の発見と、解決に向けた科学的思考と的確な判断ができる能力を身につけている。	多様な文化や価値観を尊重し、地域的・国際的な視野で活躍できる能力を身につけている。	教育課程編成・実施の方針 [カリキュラム・ポリシー（CP）]
1年次履修	文章指導（日本語の表現）（1,5）	基礎ゼミナール（自然科学概論演習）（1）	文章指導（日本語の表現）（1,5）	多職種連携（多職種連携入門）（1）	多職種連携（多職種連携入門）（1）	文章指導（日本語の表現）（1,5）	CP-1 1年次には、医療人としての豊かな人間性と幅広い教養を養う全学教育科目、さらに、チーム医療に求められるコミュニケーション能力を養い、多職種連携に関する理解を深めることを目的とした全学部学生が合同でおこなう科目を配当する。また、人体の構造や機能を学ぶ基礎医学科目や早期に臨床検査分野に対する動機付けを図るための臨床検査学の基礎に関する専門科目を配当する。 CP-2 2年次には、臨床検査に対する理解を深め、専門知識を豊富にすることを目的とした臨床検査学の講義および実習科目を配当する。 CP-3 3年次には、臨床検査技師に必要な技術を修得することを目的とした臨床検査学及び関連する実習科目、さらに医療現場での臨床検査に関する知識を深め、臨床検査技師としての自覚を培うことを目的とした臨床実習を配当する。また、臨床の現場で実際に臨床検査技師が関わるチーム医療や在宅医療の理解、患者への接遇、リスクマネジメントの重要性を学ぶことを目的とした科目を配当する。 CP-4 4年次には、研究を通して、科学的な思考による問題解決能力やプレゼンテーション能力を養うことを目的とした卒業研究を配当する。さらに、創造性、思考力、生涯にわたり自己研鑽する意欲を備え、指導的役割や教育・研究を担う臨床検査技師としての能力、同時に、先進・高度化する医療に対応できる能力を養うことを目的とした科目を配当する。 CP-5 国際的な視野で活躍できる力の育成に向けて、1～4年次にわたって英語の科目、そして1年次に初修外国語（ドイツ語、中国語、ロシア語）を配当し、さらに、英米哲学の問題理解（人間と思想）、グローバルな観点からの自然環境・社会経済の変化と感染症（医療社会史）、欧米の医療保険制度（医療の経済学）などの異文化理解に関する科目を配当する。
	人間と思想（哲学）（1,5）	物理学（物理学）（1）	人間と思想（心理学）（1,5）	基礎ゼミナール（自然科学概論演習）（1）	情報科学（情報科学）（1）	人間と思想（哲学）（1,5）	
	人間と思想（科学技術社会と倫理）（1,5）	化学（化学）（1）	人間と文化（医療社会史）（1,5）	人間と思想（哲学）（1,5）	情報処理演習（医療情報処理演習）（1）	人間と思想（科学技術社会と倫理）（1,5）	
	人間と思想（心理学）（1,5）	生物学（生命科学）（1）	人間と思想（科学技術社会と倫理）（1,5）	人間と思想（科学技術社会と倫理）（1,5）	統計学（基礎統計学）（1）	人間と思想（心理学）（1,5）	
	人間と文化（医療の人類学）（1,5）	解剖学Ⅰ・Ⅱ（1）	多職種連携（多職種連携入門）（1）	英語Ⅰ（オーラル・イングリッシュA・B）（1,5）	人間と思想（哲学）（1,5）	人間と文化（医療の人類学）（1,5）	
	人間と社会（医療の法学）（1,5）	生理学Ⅰ・Ⅱ（1）	医療倫理（基礎医療倫理学）（1）	初修外国語（初級・中級ドイツ語）（1,5）	人間と思想（科学技術社会と倫理）（1,5）	人間と文化（医療社会史）（1,5）	
	人間と社会（医療の経済学）（1,5）	生化学Ⅰ・Ⅱ（1）	医学概論（1）	初修外国語（初級・中級ロシア語）（1,5）	医学概論（1）	人間と社会（医療の法学）（1,5）	
	英語Ⅰ（オーラル・イングリッシュA・B）（1,5）	病理学（1）	臨床検査学入門Ⅰ（1）	初修外国語（初級・中級中国語）（1,5）	公衆衛生学（1）	人間と社会（医療の経済学）（1,5）	
	初修外国語（初級・中級ドイツ語）（1,5）	臨床検査学入門Ⅰ（1）		基礎数学（1）		英語Ⅰ（オーラル・イングリッシュA・B）（1,5）	
	初修外国語（初級・中級ロシア語）（1,5）	臨床検査学総論Ⅰ（1,2）		基礎化学（1）		初修外国語（初級・中級ドイツ語）（1,5）	
	初修外国語（初級・中級中国語）（1,5）	検査機器学（1,2）		基礎生物学（1）		初修外国語（初級・中級ロシア語）（1,5）	
	運動科学演習（運動科学演習）（1）	基礎機器分析演習（1,2）				初修外国語（初級・中級中国語）（1,5）	
	多職種連携（多職種連携入門）（1）	公衆衛生学（1）					
	医療倫理（基礎医療倫理学）（1）						
	医学概論（1）						
2年次履修	英語Ⅱ（英語ⅡA）（1,5）	公衆衛生学実習（1,2）	臨床検査学入門Ⅱ（1,2）	英語Ⅱ（英語ⅡA）（1,5）	公衆衛生学実習（1,2）	英語Ⅱ（英語ⅡA）（1,5）	
	保健医療福祉演習（1,2,3）	解剖学実習（1,2）	保健医療福祉演習（1,2,3）	公衆衛生学実習（1,2）	解剖学実習（1,2）		
	薬理学（1,2）	生理学実習（1,2）		解剖学実習（1,2）	生理学実習（1,2）		
	栄養学（1,2）	生化学実習（1,2）		生理学実習（1,2）	生化学実習（1,2）		
	臨床病態学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（1,2）	薬理学（1,2）		生化学実習（1,2）	医用工学実習（2,3）		
		栄養学（1,2）		医用工学実習（2,3）	臨床検査学総論実習（2,3）		
		臨床検査学入門Ⅱ（1,2）		臨床検査学総論実習（2,3）	遺伝子検査学実習（2,3）		
		医用工学概論（2）		遺伝子検査学実習（2,3）	医動物学演習（2,3）		
		医用工学実習（2,3）		医動物学演習（2,3）	総合臨床検査学演習Ⅰ（2）		
		臨床病態学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（1,2）		総合臨床検査学演習Ⅰ（2）			
		臨床血液学Ⅰ・Ⅱ（2）					
		臨床病理検査学（2）					
		臨床細胞診断学（2）					
		臨床化学Ⅰ・Ⅱ（2）					
		臨床検査学総論Ⅱ（2）					
		臨床検査学総論実習（2,3）					
		核医学概論（2）					
		遺伝子検査学（2）					
		遺伝子検査学実習（2,3）					
		免疫検査学Ⅰ・Ⅱ（2）					
		微生物学（2）					
		医動物学（2）					
		医動物学演習（2,3）					
		臨床生理学Ⅰ・Ⅱ（2）					
		総合臨床検査学演習Ⅰ（2）					
3年次履修	英語Ⅱ（英語ⅡB）（1,5）	医療情報科学（2）	チーム医療・コミュニケーション演習（1,2,3）	英語Ⅱ（英語ⅡB）（1,5）	総合臨床検査技術演習（3）	英語Ⅱ（英語ⅡB）（1,5）	
	チーム医療・コミュニケーション演習（1,2,3）	臨床血液学実習（2,3）	医療リスクマネジメント演習（1,2,3）	臨床実習（3）	臨床実習（3）		
	医療リスクマネジメント演習（1,2,3）	臨床細胞病理学実習（2,3）	臨床検査管理学（2）	臨床血液学実習（2,3）	医療情報科学（3）		
	臨床実習（3）	臨床化学実習（2,3）	臨床実習（3）	臨床細胞病理学実習（2,3）	臨床血液学実習（2,3）		
	医療安全管理学演習（2,3）	免疫検査学実習（2,3）		臨床化学実習（2,3）	臨床細胞病理学実習（2,3）		
		輸血・移植学演習（2,3）		免疫検査学実習（2,3）	臨床化学実習（2,3）		
		臨床微生物学（2）		輸血・移植学演習（2,3）	免疫検査学実習（2,3）		
		微生物学実習（2,3）		微生物学実習（2,3）	輸血・移植学演習（2,3）		
		臨床生理学実習（2,3）		臨床生理学実習（2,3）	微生物学実習（2,3）		
		画像検査学（2）		画像検査学演習（2,3）	臨床生理学実習（2,3）		
		画像検査学演習（2,3）		総合臨床検査技術演習（3）	画像検査学演習（2,3）		
		臨床検査管理学（2）		医療安全管理学演習（2,3）	医療安全管理学演習（2,3）		
		総合臨床検査技術演習（3）					
		臨床実習（3）					
		医療安全管理学演習（2,3）					
4年次履修	英語Ⅲ（医療英語基礎）（1,5）	臨床検査研究セミナー（4）	臨床検査研究セミナー（4）	英語Ⅲ（医療英語基礎）（1,5）	臨床検査研究セミナー（4）	英語Ⅲ（医療英語基礎）（1,5）	
	臨床検査研究セミナー（4）	臨床検査医学総論演習（3）	関係法規（2）	臨床検査研究セミナー（4）	統計学（医療疫学統計学）（3）		
	関係法規（2）	臨床血液学演習（3）	食品衛生学（4）	臨床検査医学総論演習（3）	医療分子機能科学（4）		
	食品衛生学（4）	医療分子機能科学（4）	健康食品学（4）	臨床血液学演習（3）	分子細胞病理学（4）		
	健康食品学（4）	臨床細胞病理学演習（3）		臨床細胞病理学演習（3）	先進医療検査学（4）		
		分子細胞病理学（4）		臨床化学演習（3）	遺伝子・染色体分析科学（4）		
		臨床化学演習（3）		臨床検査学総論演習（3）	免疫細胞生物学（4）		
		先進医療検査学（4）		免疫検査学演習（3）	感染生物学（4）		
		臨床検査学総論演習（3）		臨床微生物学演習（3）	実践超音波検査学（4）		
		遺伝子・染色体分析科学（4）		臨床生理学演習（3）	総合臨床検査学演習Ⅱ・Ⅲ（5）		
		免疫検査学演習（3）		総合臨床検査学演習Ⅱ・Ⅲ（3）			
		免疫細胞生物学（4）					
		臨床微生物学演習（3）					
		感染生物学（4）					
		臨床生理学演習（3）					
		実践超音波検査学（4）					
		総合臨床検査学演習Ⅱ・Ⅲ（3）					

医療技術学部 臨床検査学科 履修系統図



定年規程

昭和55年4月1日制定

(目的)

第1条 この規程は、学校法人東日本学園就業規則第24条の規定に基づく職員の定年に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(定年)

第2条 職員の定年は、次のとおりとする。

(1) 教育職員 年齢満65歳

(2) 事務職員、技術職員及び医療職員 年齢満60歳

(定年による退職)

第3条 職員は、定年に達したときは、定年に達した日以後における最初の3月31日に退職する。

(特例措置)

第4条 次の各号に掲げる者は、この規程によらない。

(1) 学長

(2) 副学長

2 学部、学科を増設するときに任用しようとする教育職員が、既に第2条第1号に規定する年齢を超えているとき、又はその増設が完了する前に第2条第1号に規定する年齢を超えているとき、当該学部、学科が完了する年度末を定年年齢に読み変える。

(改廃)

第5条 この規程の改廃は、理事会が決定する。

附 則

この規程は、昭和55年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

医療技術学部 時間割

前期							
曜日	学年	講時					キャンパス
		I	II	III	IV	V	
月	1年	多職種連携（多職種連携入門） 教員：安部，等 C22		基礎ゼミナール（自然科学概論演習） 教員：鈴木，等 C21 実習室（化学） 実習室（生物・物理）		自然科学入門 （基礎数学） 教員：原田 C41	当別
		人間と文化（医療社会史） 教員：千葉 C31					
		人間と文化（医療の人類学） 教員：花渕 C32					
		人間と思想（科学技術社会と倫理） 教員：磯部 C33					
火	2年	遺伝子検査学 教員：吉田 講義室2	臨床血液学Ⅰ 教員：田中 講義室2		臨床化学Ⅰ 教員：遠藤，高橋祐司 講義室2	保健医療福祉演習 教員：黒澤，等 講義室2	あいの里
	3年		臨床検査管理学 教員：遠藤 講義室3	臨床細胞病理学実習 教員：近藤，丸川 実習室A			
	4年	先進医療検査学 教員：遠藤 講義室4	分子細胞病理学 教員：丸川 講義室4	臨床血液学演習 教員：田中，高橋祐輔 講義室4	臨床検査学総論演習 教員：吉田 講義室4	実践超音波検査学 教員：沖野 講義室4	
水	1年	初修外国語（初級ロシア語） 教員：オレーヤージュ シルヴィア＝マリア 講義室1	医学概論 教員：幸村，等 講義室1		自然科学入門 （基礎化学） 教員：鈴木 講義室1	生化学Ⅰ 教員：藏満 講義室1	あいの里
	2年	生化学実習 教員：藏満，遠藤，高橋祐司 実習室B		解剖学実習 教員：丸川，近藤，藏満，江本，高橋祐輔 実習室A			
	3年		画像検査学 教員：沖野，等 講義室3	臨床生理学実習 教員：小野，幸村，沖野 実習室C			
	4年	統計学（医療疫学統計学） 教員：江本 講義室4	臨床微生物学演習 教員：松尾，山崎 講義室4	臨床検査研究セミナー 教員：全教員 研究室1,2	臨床検査研究セミナー 教員：全教員 研究室1,2	免疫検査学演習 教員：坊垣 講義室4	
木	1年	英語Ⅰ（オーラル・イングリッシュA） 教員：Howard N. Tarnoff, Benjamin Cheng 講義室1，演習室1	物理学（物理学） 教員：長谷川 講義室1	生物学（生命科学） 教員：近藤 講義室1	統計学（基礎統計学） 教員：江本 講義室1		あいの里
	2年	臨床病態学Ⅰ 教員：幸村，等 講義室2	臨床病理検査学 教員：近藤，等 講義室2	生理学実習 教員：小野，幸村，沖野 実習室C			
	3年		医療情報科学 教員：高橋祐司，等 講義室3	臨床血液学実習 教員：高橋祐輔，田中，坊垣 実習室A			
	4年	臨床細胞病理学演習 教員：丸川，近藤 講義室4	英語Ⅲ（医療英語基礎） 教員：江本，等 講義室4		食品衛生学 教員：和田 講義室4	遺伝子・染色体分析科学 教員：吉田 講義室4	
金	1年	初修外国語（初級中国語） 教員：呉秀娟 講義室1	解剖学Ⅰ 教員：田中 講義室1	生理学Ⅰ 教員：幸村，等 講義室1	自然科学入門Ⅱ （基礎生物学） 教員：松尾 講義室1		あいの里
	2年	臨床検査学総論Ⅱ 教員：吉田 講義室2	免疫検査学Ⅰ 教員：坊垣 講義室2	英語Ⅱ（英語ⅡA） 教員：白鳥 講義室2	医用工学概論 教員：江本 講義室2		
	3年		臨床微生物学 教員：松尾，等 講義室3	臨床化学実習 教員：高橋祐司，遠藤，吉田 実習室B			
	4年	臨床検査医学総論演習 教員：幸村 講義室4	関係法規 教員：遠藤，等 講義室4	医療分子機能科学 教員：田中 講義室4	医療安全管理学演習 教員：高橋祐輔，田中，坊垣 講義室4，実習室A	免疫細胞生物学 教員：坊垣 講義室4	
土	1年	化学（化学） 教員：鈴木 講義室1	臨床検査学入門Ⅰ 教員：近藤，等 講義室1	初修外国語（初級ドイツ語） 教員：阿部 講義室1			あいの里
	2年	医動物学 教員：松尾 講義室2	臨床生理学Ⅰ 教員：幸村 講義室2	公衆衛生学実習 教員：山崎，松尾 実習室B			
				臨床検査学入門Ⅱ 教員：丸川，等 講義室2			
	3年	英語Ⅱ（英語ⅡB） 教員：白鳥 講義室3		免疫検査学実習 教員：高橋祐輔，坊垣，田中 実習室A			
日	4年	臨床化学演習 教員：遠藤，等 講義室4	臨床生理学演習 教員：沖野 講義室4	総合臨床検査学演習Ⅱ 教員：全教員 講義室4		感染生物学 教員：松尾 講義室4	

グループ分けを行い，複数教員が担当する全学教育科目

グループ分けを行い，複数教員が担当する専門実習科目

後期								
曜日	学年	講時					キャンパス	
		I	II	III	IV	V		
月	1年	初修外国語（中級中国語） 教員：呉秀娟 講義室1	解剖学Ⅱ 教員：田中，等 講義室1	検査機器学 教員：松尾，山崎，吉田，高橋祐司，高橋祐輔，小野 講義室1	基礎機器分析演習 教員：山崎，松尾， 実習室A		あいの里	
	2年	臨床病態学Ⅱ 教員：坊垣 講義室2	臨床生理学Ⅱ 教員：小野 講義室2	臨床血液学Ⅱ 教員：田中 講義室2				
	3年		総合臨床検査技術演習 教員：全教員 講義室3，実習室A,C	画像検査学演習 教員：沖野 実習室C				
		臨床実習 教員：吉田，等						
	4年	総合臨床検査学演習Ⅲ 教員：全教員 講義室4	総合臨床検査学演習Ⅲ 教員：全教員 講義室4	臨床検査研究セミナー 教員：全教員 研究室1,2				
火	1年	人間と思想（哲学） 教員：森元 C41	運動科学演習（運動科学演習） 教員：森田 アリーナ	人間と思想（心理学） 教員：安倍 C41	情報科学（情報科学） 教員：二瓶 C51	情報処理演習（医療情報処理演習） 教員：二瓶 情報処理実習室	当別	
		人間と社会（医療の法学） 教員：姫嶋 C42		人間と社会（医療の経済学） 教員：櫻井 C42				
	2年	臨床病態学Ⅲ 教員：幸村 講義室2	臨床細胞診断学 教員：丸川，等 講義室2	臨床検査学総論実習 教員：高橋祐司，吉田，遠藤 実習室A			あいの里	
	3年		総合臨床検査技術演習 教員：全教員 講義室3，実習室A,C	画像検査学演習 教員：沖野 実習室C				
		臨床実習 教員：吉田，等						
4年	総合臨床検査学演習Ⅲ 教員：全教員 講義室4	健康食品学 教員：吉田，等 講義室4	臨床検査研究セミナー 教員：全教員 研究室1,2	臨床検査研究セミナー 教員：全教員 研究室1,2				
水	1年	英語Ⅰ（オーラル・イングリッシュB） 教員：Howard N. Tarnoff, Benjamin Cheng 講義室1，演習室1	医療倫理（基礎医療倫理学） 教員：磯部 講義室1	初修外国語（中級ドイツ語） 教員：阿部 講義室1			あいの里	
	2年	核医学概論 教員：北浦 講義室2		遺伝子検査学実習 教員：吉田，高橋祐司 実習室B		免疫検査学Ⅱ 教員：坊垣 講義室2		
	3年	医療リスクマネジメント演習 教員：小野，等 講義室3，実習室C		微生物学実習 教員：山崎，松尾 実習室A				
		臨床実習 教員：吉田，等						
	4年	総合臨床検査学演習Ⅲ 教員：全教員 講義室4		臨床検査研究セミナー 教員：全教員 研究室1,2	臨床検査研究セミナー 教員：全教員 研究室1,2			
木	1年	初修外国語（中級ロシア語） 教員：オレーヤージュ シルヴィア＝マリア 講義室1	生理学Ⅱ 教員：幸村 講義室1	公衆衛生学 教員：和田 講義室1			あいの里	
	2年	臨床化学Ⅱ 教員：高橋祐司，等 講義室2	薬理学 教員：岩尾 講義室2	医用工学実習 教員：江本，小野 実習室B				
	3年		総合臨床検査技術演習 教員：全教員 講義室3，実習室A,C	微生物学実習 教員：山崎，松尾 実習室A				
		臨床実習 教員：吉田，等						
	4年	総合臨床検査学演習Ⅲ 教員：全教員 講義室4		臨床検査研究セミナー 教員：全教員 研究室1,2	臨床検査研究セミナー 教員：全教員 研究室1,2			
金	1年	臨床検査学総論Ⅰ 教員：吉田 講義室1	病理学 教員：藏満，等 講義室1	生化学Ⅱ 教員：藏満 講義室1	文章指導（日本語の表現） 教員：井上 講義室1		あいの里	
	2年	栄養学 教員：荒川 講義室2	微生物学 教員：山崎，等 講義室2	医動物学演習 教員：松尾，山崎 実習室A		総合臨床検査学演習Ⅰ 教員：全教員 講義室2		
	3年	チーム医療・コミュニケーション演習 教員：遠藤，等 講義室3		輸血・移植学演習 教員：遠藤，高橋祐司 実習室B				
		臨床実習 教員：吉田，等						
	4年	臨床検査研究セミナー 教員：全教員 研究室1,2	臨床検査研究セミナー 教員：全教員 研究室1,2					

グループ分けを行い，複数教員が担当する全学教育科目

グループ分けを行い，複数教員が担当する専門実習科目

【臨床検査学科 個別履修モデル】 臨床検査技師を希望する学生の履修例

区分			授業科目	1年		2年		3年		4年		単位計	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
全学教育科目	教養教育	導入科目	基礎ゼミナール(自然科学概論演習)	1								6	
		教養科目	文章指導(日本語の表現)		1								
			人間と思想(哲学)		2								
			人間と文化(医療の人類学)	2									
	基礎教育	外国語科目	英語 I(オーラル・イングリッシュA)	1									20
			英語 I(オーラル・イングリッシュB)		1								
			英語 II(英語 IIA)			1							
			英語 II(英語 IIB)				1						
			英語 III(医療英語基礎)						1				
			初修外国語(初級ドイツ語)	1									
			初修外国語(中級ドイツ語)		1								
			運動科学演習(運動科学演習)		1								
		情報科学科目	情報科学(情報科学)		2								
			情報処理演習(医療情報処理演習)		1								
			統計学(基礎統計学)	1									
			統計学(医療疫学統計学)							2			
			物理学(物理学)	2									
		自然科学科目	化学(化学)	2									
			生物学(生命科学)	2									
	医療基盤教育		医療基盤科目	多職種連携(多職種連携入門)	2								3
	医療倫理(基礎医療倫理学)		1										
	専門基礎科目	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	1									9
			解剖学Ⅱ		1								
解剖学実習					1								
生理学Ⅰ			1										
生理学Ⅱ				1									
生理学実習					1								
生化学Ⅰ			1										
生化学Ⅱ				1									
医学検査の基礎とその疾病との関連		生化学実習			1							6	
		医学概論	1										
		病理学		1									
		薬理学				1							
		栄養学				1							
		臨床検査学入門Ⅰ	1										
保健医療福祉と医学検査		臨床検査学入門Ⅱ			1							3	
		公衆衛生学		1									
		公衆衛生学実習			1								
医療工学及び情報科学		関係法規							1			3	
		医療情報科学					1						3
		医用工学概論			1								
医用工学実習					1								
専門科目		臨床病態学	臨床病態学Ⅰ			1						4	
			臨床病態学Ⅱ				1						
	臨床病態学Ⅲ					1							
	臨床検査医学総論演習								1				
	形態検査学	臨床血液学Ⅰ			1						11		
		臨床血液学Ⅱ				1							
		臨床血液学実習					2						
		臨床血液学演習							1				
		医療分子機能科学							1				
		臨床病理検査学			1								
		臨床細胞診断学				1							
		臨床細胞病理学実習					2						
		臨床細胞病理学演習							1				
	生物化学分析検査学	臨床化学Ⅰ			1						13		
		臨床化学Ⅱ				1							
		臨床化学実習					2						
		臨床化学演習							1				
		臨床検査学総論Ⅰ		1									
		臨床検査学総論Ⅱ			1								
		臨床検査学総論実習				2							
		臨床検査学総論演習							1				
		核医学概論				1							
		遺伝子検査学			1								
	病因・生体防御検査学	遺伝子検査学実習				1					13		
		免疫検査学Ⅰ			1								
		免疫検査学Ⅱ				1							
		免疫検査学実習					2						
		免疫検査学演習							1				
		輸血・移植学演習						1					
		微生物学				1							
		臨床微生物学					1						
		微生物学実習						2					
		臨床微生物学演習							1				
生理機能検査学	医動物学			1							8		
	医動物学演習				1								
	臨床生理学Ⅰ			1									
	臨床生理学Ⅱ				1								
	臨床生理学実習					2							
検査総合管理学	画像検査学					1					13		
	画像検査学演習						2						
	臨床生理学演習								1				
	検査機器学		1										
	基礎機器分析演習		1										
	臨床検査管理学					1							
	保健医療福祉演習			1									
	チーム医療・コミュニケーション演習						1						
	医療リスクマネジメント演習						1						
	総合臨床検査学演習Ⅰ				1								
総合臨床検査学演習Ⅱ							1						
総合臨床検査学演習Ⅲ								1					
総合臨床検査技術演習							1		4				
医療安全管理学	医療安全管理学演習							1		1			
臨地実習	臨床実習						7			7			
卒業研究	臨床検査研究セミナー								6	6			
合計			19	18	17	17	15	15	25	126			

【臨床検査学科 個別履修モデル】健康食品管理士を希望する学生の履修例

区分			授業科目	1年		2年		3年		4年		単位計
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
全学教育科目	教養教育	導入科目	基礎ゼミナール(自然科学概論演習)	1								6
			文章指導(日本語の表現)		1							
		教養科目	人間と思想(哲学)		2							
			人間と文化(医療の人類学)	2								
	基礎教育	外国語科目	英語Ⅰ(オーラル・イングリッシュA)	1								20
			英語Ⅰ(オーラル・イングリッシュB)		1							
			英語Ⅱ(英語ⅡA)			1						
			英語Ⅱ(英語ⅡB)				1					
			英語Ⅲ(医療英語基礎)						1			
			初修外国語(初級ドイツ語)	1								
			初修外国語(中級ドイツ語)		1							
			運動科学演習(運動科学演習)		1							
		情報科学科目	情報科学(情報科学)		2							
			情報処理演習(医療情報処理演習)		1							
			統計学(基礎統計学)	1								
			統計学(医療疫学統計学)						2			
		自然科学科目	物理学(物理学)	2								
			化学(化学)	2								
			生物学(生命科学)	2								
		医療基盤教育	医療基盤科目	多職種連携(多職種連携入門)	2							
			医療倫理(基礎医療倫理学)		1							
	専門基礎科目	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	1								
解剖学Ⅱ				1								
解剖学実習					1							
生理学Ⅰ			1									
生理学Ⅱ				1								
生理学実習					1							
生化学Ⅰ			1									
生化学Ⅱ				1								
生化学実習				1								
医学検査の基礎とその疾病との関連		医学概論	1									6
		病理学		1								
		薬理学				1						
		栄養学				1						
		臨床検査学入門Ⅰ	1									
		臨床検査学入門Ⅱ			1							
保健医療福祉と医学検査		公衆衛生学		1								3
		公衆衛生学実習			1							
		関係法規							1			
医療工学及び情報科学		医療情報科学					1					3
		医用工学概論			1							
		医用工学実習				1						
専門科目		臨床病態学	臨床病態学Ⅰ			1						4
			臨床病態学Ⅱ				1					
			臨床病態学Ⅲ				1					
			臨床検査医学総論演習						1			
		形態検査学	臨床血液学Ⅰ			1						11
			臨床血液学Ⅱ				1					
	臨床血液学実習						2					
	臨床血液学演習								1			
	医療分子機能科学								1			
	臨床病理検査学				1							
	臨床細胞診断学					1						
	臨床細胞病理学実習						2					
	臨床細胞病理学演習							1				
	生物化学分析検査学	臨床化学Ⅰ			1						13	
		臨床化学Ⅱ				1						
		臨床化学実習					2					
		臨床化学演習							1			
		臨床検査学総論Ⅰ		1								
		臨床検査学総論Ⅱ			1							
		臨床検査学総論実習				2						
臨床検査学総論演習								1				
核医学概論					1							
遺伝子検査学				1								
遺伝子検査学実習				1								
病因・生体防御検査学	免疫検査学Ⅰ			1						13		
	免疫検査学Ⅱ				1							
	免疫検査学実習					2						
	免疫検査学演習							1				
	輸血・移植学演習						1					
	微生物学				1							
	臨床微生物学					1						
	微生物学実習						2					
	臨床微生物学演習							1				
	医動物学			1								
医動物学演習				1								
生理機能検査学	臨床生理学Ⅰ			1						8		
	臨床生理学Ⅱ				1							
	臨床生理学実習					2						
	画像検査学					1						
	画像検査学演習						2					
	臨床生理学演習							1				
検査総合管理学	検査機器学		1							13		
	基礎機器分析演習		1									
	臨床検査管理学					1						
	保健医療福祉演習			1								
	チーム医療・コミュニケーション演習						1					
	医療リスクマネジメント演習						1					
	総合臨床検査学演習Ⅰ				1							
	総合臨床検査学演習Ⅱ							1				
	総合臨床検査学演習Ⅲ								4			
	総合臨床検査技術演習						1					
医療安全管理学	医療安全管理学演習							1		1		
	臨地実習	臨床実習					7			7		
	卒業研究	臨床検査研究セミナー						6		6		
		健康食品学							1	1		
		合計	19	18	17	17	15	15	26		127	

【臨床検査学科 個別履修モデル】 食品衛生管理者、食品衛生監視員を希望する学生の履修例

区分			授業科目	1年		2年		3年		4年		単位計
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
全学教育科目	教養教育	導入科目	基礎ゼミナール(自然科学概論演習)	1								6
			文章指導(日本語の表現)		1							
		教養科目	人間と思想(哲学)		2							
			人間と文化(医療の人類学)	2								
	基礎教育	外国語科目	英語 I(オーラル・イングリッシュA)	1								20
			英語 I(オーラル・イングリッシュB)		1							
			英語 II(英語 IIA)			1						
			英語 II(英語 IIB)				1					
			英語 III(医療英語基礎)						1			
			初修外国語(初級ドイツ語)	1								
			初修外国語(中級ドイツ語)		1							
			運動科学演習(運動科学演習)		1							
		情報科学科目	情報科学(情報科学)		2							
			情報処理演習(医療情報処理演習)		1							
			統計学(基礎統計学)	1								
			統計学(医療疫学統計学)						2			
		自然科学科目	物理学(物理学)	2								
			化学(化学)	2								
			生物学(生命科学)	2								
	医療基盤教育	医療基盤科目	多職種連携(多職種連携入門)	2								3
			医療倫理(基礎医療倫理学)		1							
専門基礎科目	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	1								9	
		解剖学Ⅱ		1								
		解剖学実習			1							
		生理学Ⅰ	1									
		生理学Ⅱ		1								
		生理学実習			1							
		生化学Ⅰ	1									
		生化学Ⅱ		1								
		生化学実習			1							
	医学検査の基礎とその疾病との関連	医学概論	1								6	
		病理学		1								
		薬理学				1						
		栄養学				1						
		臨床検査学入門Ⅰ	1									
		臨床検査学入門Ⅱ			1							
	保健医療福祉と医学検査	公衆衛生学		1							3	
		公衆衛生学実習			1							
		関係法規							1			
	医療工学及び情報科学	医療情報科学					1				3	
		医用工学概論			1							
		医用工学実習				1						
	専門科目	臨床病態学	臨床病態学Ⅰ			1						4
			臨床病態学Ⅱ				1					
			臨床病態学Ⅲ				1					
			臨床検査医学総論演習							1		
		形態検査学	臨床血液学Ⅰ			1						11
			臨床血液学Ⅱ				1					
臨床血液学実習							2					
臨床血液学演習									1			
医療分子機能科学									1			
臨床病理検査学					1							
臨床細胞診断学						1						
臨床細胞病理学実習							2					
生物化学分析検査学		臨床細胞病理学演習							1		13	
		臨床化学Ⅰ				1						
		臨床化学Ⅱ					1					
		臨床化学実習						2				
		臨床化学演習								1		
		臨床検査学総論Ⅰ		1								
		臨床検査学総論Ⅱ				1						
		臨床検査学総論実習					2					
		臨床検査学総論演習								1		
		核医学概論					1					
		遺伝子検査学				1						
病因・生体防御検査学		遺伝子検査学実習				1						14
		免疫検査学Ⅰ			1							
		免疫検査学Ⅱ				1						
		免疫検査学実習					2					
	免疫検査学演習								1			
	輸血・移植学演習							1				
	微生物学				1							
	臨床微生物学					1						
	微生物学実習						2					
	臨床微生物学演習								1			
生理機能検査学	医動物学			1							8	
	医動物学演習				1							
	食品衛生学								1			
	臨床生理学Ⅰ				1							
	臨床生理学Ⅱ					1						
	臨床生理学実習						2					
検査総合管理学	画像検査学					1					12	
	画像検査学演習						2					
	臨床生理学演習								1			
	検査機器学		1									
	基礎機器分析演習		1									
	臨床検査管理学					1						
医療安全管理学	チーム医療・コミュニケーション演習							1			1	
	医療リスクマネジメント演習							1				
	総合臨床検査学演習Ⅰ					1						
	総合臨床検査学演習Ⅱ								1			
	総合臨床検査学演習Ⅲ									4		
	総合臨床検査技術演習							1				
	医療安全管理学演習							1				
臨地実習	臨床実習						7			7		
卒業研究	臨床検査研究セミナー							6		6		
	健康食品学								1	1		
	合計		19	18	16	17	15	16	26		127	

既所蔵分を含めた学術雑誌タイトルリスト

【新規】

No	分野	誌名	和洋区分	形態
1	専門	Medical Technology	和	冊子
2	専門	検査と技術	和	冊子
3	専門	心エコー	和	冊子
4	専門	医療と検査機器・試薬	和	冊子
5	専門	実験医学	和	冊子

【既所蔵】

No	分野	誌名	和洋区分	形態
1	基礎	医療情報学	和	冊子
2	基礎	救急医学	和	冊子
3	基礎	教育と医学	和	冊子
4	基礎	厚生指標	和	冊子
5	基礎	最新医学	和	冊子
6	基礎	細胞	和	冊子
7	基礎	週刊医学のあゆみ	和	冊子
8	基礎	地域保健	和	冊子
9	基礎	保健の科学	和	冊子
10	基礎	医療	和	電子
11	基礎	生物試料分析	和	電子
12	基礎	Biochemistry	洋	電子
13	基礎	Harvard Health Letter	洋	電子
14	基礎	Healthcare Informatics	洋	電子
15	基礎	Journal of applied biomechanics	洋	電子
16	基礎	Journal of Proteome Research	洋	電子
17	基礎	Science online	洋	電子
18	基礎	Sociology of health & illness : a journal of medical sociology	洋	電子
19	基礎	World Health Organization technical report series	洋	電子
20	専門基礎	月刊薬事	和	冊子
21	専門基礎	公衆衛生情報	和	冊子
22	専門基礎	公衆衛生	和	冊子
23	専門基礎	新薬と臨牀	和	冊子
24	専門基礎	日本臨牀	和	冊子
25	専門基礎	日本醫事新報	和	冊子
26	専門基礎	膜	和	冊子
27	専門基礎	薬局	和	冊子
28	専門基礎	JSBMS Letters	和	電子
29	専門基礎	Monthlyミクス : medical information express	和	電子
30	専門基礎	解剖学雑誌	和	電子
31	専門基礎	食品衛生学雑誌	和	電子
32	専門基礎	日本栄養・食糧学会誌	和	電子
33	専門基礎	栄養学雑誌	和	電子
34	専門基礎	American journal of health-system pharmacy : AJHP	洋	冊子
35	専門基礎	ACS Photonics	洋	電子
36	専門基礎	ACS Sensors	洋	電子
37	専門基礎	American journal of physiology	洋	電子
38	専門基礎	Analytical Chemistry	洋	電子
39	専門基礎	Analytical Methods	洋	電子
40	専門基礎	Anatomical science international	洋	電子
41	専門基礎	Applied and environmental microbiology	洋	電子
42	専門基礎	Archives of toxicology	洋	電子
43	専門基礎	Biochemical Society transactions	洋	電子
44	専門基礎	Biomacromolecules	洋	電子
45	専門基礎	British journal of clinical pharmacology	洋	電子
46	専門基礎	British journal of pharmacology	洋	電子
47	専門基礎	Bulletin of the World Health Organization	洋	電子
48	専門基礎	Development	洋	電子
49	専門基礎	Developmental dynamics : an official publication of the American Association of Anatomists	洋	電子
50	専門基礎	Environmental health perspectives	洋	電子
51	専門基礎	European Journal of Nutrition	洋	電子
52	専門基礎	FEBS Journal	洋	電子
53	専門基礎	Food & Function	洋	電子
54	専門基礎	Histochemistry and cell biology	洋	電子
55	専門基礎	JAMA	洋	電子

56	専門基礎	Journal of Agricultural and Food Chemistry	洋	電子
57	専門基礎	Journal of anatomy	洋	電子
58	専門基礎	Journal of applied physiology	洋	電子
59	専門基礎	Journal of Biological Chemistry	洋	電子
60	専門基礎	Journal of experimental medicine	洋	電子
61	専門基礎	Journal of medicinal chemistry	洋	電子
62	専門基礎	Journal of pharmacokinetics and pharmacodynamics	洋	電子
63	専門基礎	Journal of pharmacy and pharmacology	洋	電子
64	専門基礎	Nature	洋	電子
65	専門基礎	Nature medicine	洋	電子
66	専門基礎	Naunyn-Schmiedeberg's archives of pharmacology	洋	電子
67	専門基礎	Pflügers Archiv : European journal of physiology	洋	電子
68	専門基礎	Pharmacological reviews	洋	電子
69	専門基礎	Physiological reviews	洋	電子
70	専門基礎	The journal of biochemistry	洋	電子
71	専門基礎	The journal of biological chemistry	洋	電子
72	専門基礎	The journal of general physiology	洋	電子
73	専門基礎	The Journal of physiology	洋	電子
74	専門	Brain and nerve: 脳と神経	和	冊子
75	専門	Clinical neuroscience : 月刊臨床神経科学	和	冊子
76	専門	Infection control	和	冊子
77	専門	感染症学雑誌	和	冊子
78	専門	日本内科学会雑誌	和	冊子
79	専門	病理と臨床	和	冊子
80	専門	臨床化学	和	冊子
81	専門	臨床血液	和	冊子
82	専門	臨床検査	和	冊子
83	専門	MHC	和	電子
84	専門	医学検査	和	電子
85	専門	心電図	和	電子
86	専門	診断病理	和	電子
87	専門	超音波医学	和	電子
88	専門	超音波検査技術	和	電子
89	専門	電気泳動	和	電子
90	専門	日赤検査	和	電子
91	専門	日本染色体遺伝子検査学会雑誌	和	電子
92	専門	日本造血細胞移植学会雑誌	和	電子
93	専門	日本輸血細胞治療学会誌	和	電子
94	専門	日本臨床検査自動化学会誌	和	電子
95	専門	日本臨床腎移植学会雑誌	和	電子
96	専門	日本臨床生理学会雑誌	和	電子
97	専門	臨床病理	和	電子
98	専門	ACS Infectious Diseases	洋	電子
99	専門	American journal of clinical pathology	洋	電子
100	専門	Archives of pathology and laboratory medicine	洋	電子
101	専門	Blood : journal of hematology	洋	電子
102	専門	CA: A Cancer Journal for Clinicians	洋	電子
103	専門	Cancer : a journal of the American Cancer Society	洋	電子
104	専門	Clinical and experimental immunology	洋	電子
105	専門	Clinical Diabetes	洋	電子
106	専門	Clinical Laboratory Science	洋	電子
107	専門	Current microbiology	洋	電子
108	専門	Diabetes/Metabolism Research & Reviews	洋	電子
109	専門	European journal of clinical investigation : the journal of the European Society for Clinical Investigation	洋	電子
110	専門	Hematological Oncology	洋	電子
111	専門	Infection	洋	電子
112	専門	Infection and immunity	洋	電子
113	専門	International journal of experimental pathology	洋	電子
114	専門	International Journal of Laboratory Hematology	洋	電子
115	専門	Journal of bacteriology	洋	電子
116	専門	Journal of Clinical Laboratory Analysis	洋	電子
117	専門	Journal of Digital Imaging	洋	電子
118	専門	Journal of immunology	洋	電子
119	専門	Journal of lipid research	洋	電子
120	専門	Microbiology	洋	電子
121	専門	Microbiology and immunology	洋	電子
122	専門	Neurology	洋	電子
123	専門	The journal of clinical investigation	洋	電子
124	専門	Virchows Archiv : an international journal of pathology	洋	電子

医療技術学部 臨床検査学科 募集要項概要

一般入学試験、大学入試センター試験利用入学試験における面接試験について、受験生等への周知内容、周知方法については以下のとおりとする。

【1】募集要項概要：試験科目・時間・選抜方法等

(1) 一般入学試験（一般前期・一般後期）

学力試験、面接試験（グループ面接試験）の結果、及び調査書を総合して合格者を決定する。

試験科目は下表のとおりとする。

試験科目	時間
「英語(コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現Ⅰ)」	9:30-10:30
「化学基礎」、「生物基礎」、「物理基礎」から1科目選択	11:00-12:00
「数学Ⅰ・A」	13:00-14:00
「面接試験(グループ面接試験)」	14:30-16:00

(2) 大学入試センター試験利用入学試験（センター前期A・前期B・後期）

本学が指定する大学入試センター試験の教科・科目、面接試験（グループ面接試験）の結果、及び調査書を総合して合格者を決定する。

試験科目は下表のとおりとする。

	センター前期A	センター前期B	センター後期
指定教科・科目	「英語（リスニングは含まない）」	「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ・A」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅱ・B」から1科目選択	
	「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ・A」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅱ・B」から1科目選択		
	「化学基礎」、「生物基礎」、「物理基礎」から2科目選択、または「化学」、「生物」、「物理」から1科目選択	「化学基礎」、「生物基礎」、「物理基礎」から2科目選択、または「化学」、「生物」、「物理」から1科目選択	
個別試験	・面接試験(グループ面接試験) ※一般前期入試の試験日に、同試験会場で実施 ※一般前期入試と併願の場合は、一般前期入試の面接試験の結果を合否判定に利用 ※センター前期B入試において、センター前期A入試と併願の場合は、センター前期A入試の面接試験の結果を合否判定に利用		・面接試験(グループ面接試験) ※一般後期入試の試験日に、同試験会場で実施 ※一般後期入試と併願の場合は、一般後期入試の面接試験の結果を合否判定に利用

【2】受験生への周知について

学生募集要項、本学ホームページに記載する他、高校訪問、オープンキャンパス、進学相談会等において周知・説明を行う。

また、大学入試センター試験利用入学試験においては、①入学志願票に個別試験「面接試験希望会場」の記載欄を設け、受験生に希望会場を記載してもらい、②受験票に個別試験「面接試験会場及び面接試験実施日時」を記載し、受験生に返送する（郵便事情による配達遅延が生じる場合、電話連絡等で対応）。

以上

医療技術学部 臨床検査学科 面接試験実施要領

一般前期入試、一般後期入試において、面接試験（グループ面接試験）を実施する。また、大学入試センター試験利用入試前期 A・B 及び後期において、個別試験として面接試験（グループ面接試験）を実施する。

【1】一般入学試験（一般前期・一般後期）

一般前期入試、一般後期入試では学科試験終了後、14:30 から面接試験を実施する（表 1）。ただし、一般前期入試において、2 日間とも受験する場合、1 日目に面接試験を実施する。面接試験の結果は両日の合否判定に利用するものとする。

表 1 一般前期・後期入試 時間割

9:10	受験生集合
9:30-10:30	英語
11:00-12:00	理科
13:00-14:00	数学
14:15-14:30	面接要領説明
14:30-16:00	面接試験

【2】大学入試センター試験利用入学試験（センター前期 A・前期 B・後期）

個別試験として、面接試験を実施する。面接試験は、センター前期 A・B 入試においては一般前期入試の試験日・試験会場、センター後期入試においては一般後期入試の試験日・試験会場に合わせて実施する（表 2、表 3）。

受験生は、センター前期 A・B 入試またはセンター後期入試に出願する際、志願票の希望面接試験会場に○を付けるものとする。大学は、受験票に面接試験日時を記載し返送する。面接試験会場は、センター前期 A・B 入試では全国 12 会場、センター後期入試では全国 3 会場を設定する。

センター前期 A・B 入試の受験者が一般前期入試を併願している場合、一般前期入試の面接試験結果をセンター前期 A・B の合否判定に利用する。同様に、センター後期入試の受験生が一般後期入試を併願している場合、一般後期入試の面接試験結果をセンター後期入試の合否判定に利用する。

また、センター前期 A 入試とセンター前期 B 入試を併願している場合、センター前期 A 入試の面接試験結果をセンター前期 B 入試の合否判定に利用するものとする。

表 2 センター前期 A・B 入試 面接試験時間割

ア. 一般前期入試試験日 (1 日目) 午前	イ. 一般前期入試試験日 (1 日目) 午後	ウ. 一般前期入試試験日 (2 日目) 午前	エ. 一般前期入試試験日 (2 日目) 午後
9:30 受験生集合	14:00 受験生集合	9:30 受験生集合	14:00 受験生集合
9:45-10:00 面接要領説明	14:15-14:30 面接要領説明	9:45-10:00 面接要領説明	14:15-14:30 面接要領説明
10:00-12:00 面接試験	14:30-16:00 面接試験	10:00-12:00 面接試験	14:30-16:00 面接試験

（面接会場） 札幌、旭川、帯広、北見、函館、青森、秋田、仙台、東京、名古屋、大阪、福岡

表 3 センター後期入試 面接試験時間割

ア. 一般後期入試試験日 午前	イ. 一般後期入試試験日 午後
9:30 受験生集合	14:00 受験生集合
9:45-10:00 面接要領説明	14:15-14:30 面接要領説明
10:00-12:00 面接試験	14:30-16:00 面接試験

（面接会場） 札幌、東京、大阪

以上

実習施設一覧

No.	実習施設名	所在地	授業科目	受入れ可能人数
1	北海道医療大学病院	札幌	臨床検査学入門I	70
	計			70

No.	実習施設名	所在地	授業科目	受入れ可能人数
1	北海道大学病院 検査・輸血部	札幌	臨床検査学入門II	40
2	札幌医科大学付属病院 検査部	札幌	臨床検査学入門II	30
3	市立札幌病院 検査部	札幌	臨床検査学入門II	8
	計			78

No.	実習施設名	所在地	授業科目	受入れ可能人数
1	JCHO札幌北辰病院 検査部	札幌	臨床実習	2
2	JCHO北海道病院 検査部	札幌	臨床実習	2
3	KKR札幌医療センター	札幌	臨床実習	4
4	NTT東日本札幌病院 臨床検査科	札幌	臨床実習	2
5	カレスサッポロ 北光記念病院	札幌	臨床実習	2
6	札幌医科大学付属病院 検査部	札幌	臨床実習	24
7	札幌禎心会病院 臨床検査部	札幌	臨床実習	4
8	札幌徳洲会病院 臨床検査室	札幌	臨床実習	3
9	札幌東徳洲会病院 中央検査部	札幌	臨床実習	2
10	市立札幌病院 検査部	札幌	臨床実習	8
11	手稲溪仁会病院 臨床検査部	札幌	臨床実習	2
12	北海道医療大学病院 検査部	札幌	臨床実習	4
13	北海道がんセンター 臨床検査科	札幌	臨床実習	2
14	北海道循環器病院 臨床検査科	札幌	臨床実習	6
15	北海道大学病院 検査・輸血部	札幌	臨床実習	32
16	北海道対がん協会 細胞診センター 臨床検査部	札幌	臨床実習	4
17	岩見沢市立総合病院 臨床検査科	空知	臨床実習	1
18	江別市立病院 臨床検査科	空知	臨床実習	4
19	滝川市立病院 臨床検査科	空知	臨床実習	1
20	市立旭川病院 中央検査科	道北	臨床実習	4
21	旭川医科大学病院 臨床検査・輸血部	道北	臨床実習	4
22	市立函館病院 中央検査部	道南	臨床実習	4
23	函館五稜郭病院 検査部	道南	臨床実習	2
24	市立釧路総合病院 検査科	道東	臨床実習	2
25	北海道社会事業協会 帯広病院 臨床検査科	十勝	臨床実習	2
26	帯広厚生病院 医療技術部 臨床検査技術科	十勝	臨床実習	2
27	小樽市立病院 医療技術部 検査科	小樽	臨床実習	3
28	北見赤十字病院 検査部	北見	臨床実習	3
29	苫小牧市立病院 臨床検査科	道央	臨床実習	2
	計			137

臨床実習マニュアル

平成31年度



北海道医療大学

医療技術学部

臨床検査学科

建学の理念

知育・徳育・体育 三位一体による医療人としての全人格の完成

本学の教育理念

生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって、地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。

本学の教育目標

1. 幅広く深い教養と豊かな人間性の涵養
2. 確かな専門の知識および技術の修得
3. 自主性・創造性および協調性の確立
4. 地域社会ならびに国際社会への貢献

目 次

1.教育理念、教育目標と三方針	5
1.1 医療技術学部教育理念	
1.2 医療技術学部教育目標	
1.3 三方針	
2.臨床検査学科における臨床実習の体系について	8
2.1 臨床実習の目的	
2.2 臨床実習の一般目標	
2.3 実習の総合的体系	
3.臨床検査学入門Ⅰ・Ⅱ（見学実習）について	9
3.1 臨床検査学入門Ⅰ・Ⅱ（見学実習）の実施日程	
3.2 臨床検査学入門Ⅰ・Ⅱ（見学実習）の目的	
3.3 臨床検査学入門Ⅰ・Ⅱ（見学実習）の到達目標	
3.4 学生の課題および提出物	
3.5 学内報告会	
3.6 成績評価	
4.臨床実習（総合臨床実習）について	12
4.1 臨床実習（総合臨床実習）の実施日程	
4.2 臨床実習（総合臨床実習）の目的	
4.3 臨床実習（総合臨床実習）の到達目標	
4.4 学生の課題および提出物	
4.5 成績評価	
5.実習指導者の方へ	14
5.1 臨床実習の指導上のお願い	
6.実習生の心得	34
6.1 一般的心得	
6.2 患者・施設利用者に対する心得	
6.3 実習指導者および実習施設に対する心得	
7.個人情報の取り扱いについて	36
7.1 実習記録などの取扱いに関する注意事項	
7.2 匿名化の方法	
7.3 臨床実習施設において別途規定を定めている場合の対応	
7.4 本学と臨床実習施設間における取り決め	
7.5 SNS等の利用に関する注意事項	

7.6	罰則の適用と公表	
7.7	個人情報等に関する緊急時の連絡体制	
8.	出欠席について	39
8.1	出欠席	
9.	臨床実習中の事故対応マニュアル	41
9.1	実習期間中の事故とは	
9.2	事故に対する保険について	
9.3	事故発生時の対応手順	
9.4	その他の留意点	
[資料]		
・	秘密保持に関する誓約書	43

1. 教育理念、教育目標と三方針

1.1 医療技術学部教育理念

本学の教育理念に基づき、臨床検査学科では学問としての臨床検査とその技術を発展させ、保健・医療・福祉の向上を推進することで、地域社会ならびに人類の健康と幸福に貢献することを教育理念とする。

1.2 医療技術学部の教育目標

1. 医療人としての豊かな人間性と高い倫理観を育てる全人教育

医療人として求められる礼節と幅広い教養、他者を思いやる豊かな人間性と高い倫理観を身につける教育を行う。

2. 高い専門知識と技術を身につける教育

めまぐるしく進歩する臨床検査に対応すべく、臨床検査専門職には高度な専門的知識と確かな技術の習得が求められる。したがって、先進・高度化する医療に対応できる実践力を身につける教育を行う。

3. 生涯にわたり自ら研鑽し向上する意欲を身につける教育

医学・医療にとどまらず、様々な学問分野に接し、新たな知識・技術を生涯にわたり自ら学習し、向上する意欲と積極性を身につける教育を行う。

4. チーム医療の一員として協調性を持って職責を果たす力を身につける教育

医療の高度化・専門化など、医療情勢の変化により、多職種との連携により質の高い医療を患者に提供する「チーム医療」が求められている。したがって、チーム医療の一員として、多職種との円滑なコミュニケーションと協調性を持って、専門性を発揮できる能力を身につける教育を行う。

5. 問題提起と解決能力を身に付ける教育

多様化・複雑化する保健医療の課題を見だし、その本質を理解したうえで、情報収集と論理的思考に基づき課題を解決できる能力を身につける教育を行う。

1.3 三方針

1.3.1 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

北海道医療大学は、「21世紀の新しい健康科学の構築」を追究し、社会の要請と期待に応えるため、保健と医療と福祉に関する高度な研究に裏打ちされた良質な教育を行います。その教育を通して、チーム医療をはじめ地域社会や国際社会に貢献できる自立した専門職業人を育成することを目標としています。

そのため、本学では次のような人材を広く求めています。

1. 入学後の修学に必要な基礎的学力を有していること。
2. 協調性や基礎的コミュニケーション能力を有していること。
3. 生命を尊重し、他者を大切に思う心があること。
4. 保健・医療・福祉に関心があり、地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという目的意識を持っていること。
5. 生涯にわたって学習を継続し、自己を磨く意欲を持っていること。

1.3.2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した身に付けるべき能力を修得するために、医療技術学部へ入学した学生に対し、医療技術学部の教育理念・目標に基づき、以下の方針のもとで教育を実施する。

1. 1年次には、医療人としての豊かな人間性と幅広い教養を養う全学教育科目、さらに、チーム医療に求められるコミュニケーション能力を養い、多職種連携に関する理解を深めることを目的とした全学部学生が合同でおこなう科目を配当する。また、人体の構造や機能を学ぶ基礎医学科目や早期に臨床検査分野に対する動機付けを図るための臨床検査学の基礎に関する専門科目を配当する。
2. 2年次には、臨床検査に対する理解を深め、専門知識を豊富にすることを目的とした臨床検査学の講義および実習科目を配当する。
3. 3年次には、臨床検査技師に必要な技術を修得することを目的とした臨床検査学及び関連する実習科目、さらに医療現場での臨床検査に関する知識を深め、臨床検査技師としての自覚を培うことを目的とした臨床実習を配当する。また、臨床の現場で実際に臨床検査技師が関わるチーム医療や在宅医療の理解、患者への接遇、リスクマネジメントの重要性を学ぶことを目的とした科目を配当する。

4. 4年次には、研究を通して、科学的な思考による問題解決能力やプレゼンテーション能力を養うことを目的とした卒業研究を配当する。さらに、創造性、思考力、生涯にわたり自己研鑽する意欲を備え、指導的役割や教育・研究を担う臨床検査技師としての能力、同時に、先進・高度化する医療に対応できる能力を養うことを目的とした科目を配当する。
5. 国際的な視野で活躍できる力の育成に向けて、1～4年次にわたって英語の科目、そして1年次に初修外国語（ドイツ語、中国語、ロシア語）を配当し、さらに、英米哲学の問題理解（人間と思想）、グローバルな観点からの自然環境・社会経済の変化と感染症（医療社会史）、欧米の医療保険制度（医療の経済学）などの異文化理解に関する科目を配当する。

1.3.3 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学医療技術学部卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 生命の尊重を基盤とした豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を身につけている。
2. 臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。
3. 保健・医療・福祉の各分野の役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚とそれを実践するための専門性と協調性を身につけている。
4. 臨床検査のスペシャリストとして、進歩や変化に常に関心を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。
5. 多様な文化や価値観を尊重し、地域的・国際的な視野で活躍できる能力を身につけている。
6. 臨床検査学領域における様々な問題や研究課題に対し、解決に向けた情報の適切な分析、科学的思考と的確な判断ができる能力を身につけている。

2. 臨床検査学科における臨床実習の体系について

2.1 臨床実習の目的

本学部の実習は、医療人を志す学生として良識とモラルを身につけるとともに、臨床検査技師として不可欠な基本技能を修得し、また、医療チームの一員として臨床検査技師の役割と責任を持たせることを到達目的とする。

2.2 臨床実習の一般目標

1. 社会人としての良識を身につけるとともに、医療人としての倫理感を身につける。
2. 臨床検査の現場に身を置き、臨床検査技師として不可欠な臨床検査の基本的な実践技術を習得する（技能）。
3. 提供する臨床検査情報の意義、精度管理の必要性、そして検査研究の重要性を認識するために、疾患へ興味を持ち、検査情報より病態解析へのアプローチを身につける（認知）。
4. 医学・医療の専門職として医療チームの一員として積極的に取り組むために、医療の中における臨床検査および臨床検査技師の役割と責任を知り、医療人としての自覚を持つ（情意）

2.3 実習の総合的体系

上記の到達目標を達成するため、本学科では、学年進行状況に対応した臨床実習を以下のように計画しています。

臨床検査学入門Ⅰ（見学実習）	1年次前期（1日間）、医療機関
臨床検査学入門Ⅱ（見学実習）	2年次後期（1日間）、医療機関
臨床実習（総合臨床実習）	3年次後期（8週間）、医療機関

3.臨床検査学入門I・II（見学実習）について

3.1 臨床検査学入門I・II（見学実習）の実施日程

臨床検査学入門I : 平成31年〇月〇日（〇）

臨床検査学入門II : 平成32年〇月〇日（〇）

3.2 臨床検査学入門I・II（見学実習）の目的

医療人としての基礎を形成する1年次前期、および専門科目を学びはじめた2年次前期に、実際の医療現場を見学することで臨床検査技師の業務や医療チームの一員としての役割の基本的理解を得る。そして、これから学ぶ専門科目の講義、実習が実際の医療現場でどのように役立つのかを理解することで学習意欲の向上へ繋げる。

3.3 臨床検査学入門I・II（見学実習）の到達目標

- 1) 医療機関の業務内容や社会的機能を理解する。
- 2) 医療機関における臨床検査部門の位置づけを理解する。
- 3) 臨床検査技師の基本的な業務内容を理解する。
- 4) 医療機関やチーム医療における関連職種との連携体制について、その概要を理解する。
- 5) 社会人としてふさわしい言動や態度を身につける。

3.4 学生の課題および提出物

3.4.1 実習前の課題

臨床検査学入門I・II（見学実習）報告書の記載項目を参考にしながら、実習施設の概要を調べる。

3.4.2 臨床検査学入門I・II（見学実習）報告書

報告書は基本的に実習終了後に記入して大学へ提出する。この報告書は、実習を通して学んだことを他者と共有し学びを深めるためのものなので、他者に伝わるよう工夫しながら記入する。

3.4.3 提出物

臨床検査学入門Ⅰ・Ⅱ（見学実習）終了にあたって、大学に以下を提出する。

- ・ 臨床検査学入門Ⅰ・Ⅱ（見学実習）報告書

提出期限：臨床検査学入門Ⅰ 平成31年○月○日（○）○○：○○

臨床検査学入門Ⅱ 平成32年○月○日（○）○○：○○

注）提出期限以降は受理しない

3.5 学内報告会

学内報告会は、それぞれが見学実習で学んだことを共有し、ディスカッションを通して学びを深めるために実施する。

3.5.1 内容および形式

臨床検査学入門Ⅰ・Ⅱ（見学実習）報告書に沿って、少人数グループでディスカッションする。

3.5.2 実施日

臨床検査学入門Ⅰ 平成31年〇月〇日（〇）

臨床検査学入門Ⅱ 平成32年〇月〇日（〇）

3.6 成績評価

成績は、臨床検査学入門Ⅰ・Ⅱ（見学実習）報告書、学内報告会を総合的に判断し、評価する。

4.臨床実習（総合臨床実習）について

4.1 臨床実習（総合臨床実習）の実施日程

平成34年1月10日（月）～3月4日（金）

4.2 臨床実習（総合臨床実習）の目的

学内で学んだ臨床検査に関する知識と技術を基に、医療機関において臨床検査の全分野の業務を見学、体験し、診療における臨床検査および臨床検査技師の役割や重要性を深く理解することを目的とする。

4.3 臨床実習（総合臨床実習）の到達目標

- 1) 医療機関における臨床検査技師の検査業務内容を理解し、その知識・技術および意義を理解する。
- 2) 患者への接遇や適切な対応を身につける。
- 3) 信頼できる正確な検査データのための精度管理や試薬、検体の管理などの重要性を理解する。
- 4) 臨床検査技師のチーム医療への役割と意義を理解する。
- 5) 医療人としてのふさわしい言動を認識し、マナーを身につける。

4.4 学生の課題および提出物

4.4.1 実習前の課題

臨床実習（総合臨床実習）報告書の記載項目を参考にしながら、実習施設の概要を調べる。

4.4.2 実習記録

科目実習終了認定書、出席状況、実習日誌の3つをまとめて実習記録とする。

実習日誌：毎日のスケジュールや実習を通しての疑問点、自身で学習したこと等を記載し実習指導者に適宜提出して指導を受ける。

4.4.3 臨床実習（総合臨床実習）報告書

報告書は基本的に実習終了後に記入して大学へ提出する。この報告書は、実習を通して学んだことを他者と共有し学びを深めるためのものなので、他者に伝わるよう工夫しながら記入する。

4.4.3 提出物

臨床実習（総合臨床実習）終了にあたって、大学に以下の3点を提出する。

- ・実習記録（科目実習終了認定書、出席状況、実習日誌）
- ・臨床実習（総合臨床実習）報告書
- ・臨床実習（総合臨床実習）評価表

指導者による内容記載、署名、捺印また必要に応じて、事故報告書を提出する

提出期限：平成34年3月〇日（〇）〇〇：〇〇

注）提出期限以降は受理しない

4.5 成績評価

成績は、以下を総合的に判断し、評価する。

実習記録、臨床実習（総合臨床実習）報告書、臨床実習（総合臨床実習）評価表

5.実習指導者の方へ

北海道医療大学医療技術学部臨床検査学科の臨床実習をお引き受けいただき、誠に有難うございます。臨床実習に関しまして、以下お願い申し上げます。

5.1 臨床実習指導上のお願い

- 1) 臨床実習開始前に学生が貴施設の概要や臨床検査部門の概要等を調べていきますので、補足の説明をお願い致します。また、実習終了時に学生が作成する臨床実習報告書の「施設の概要」部分について、内容のご確認をお願い致します。
- 2) 学生の休日は臨床実習施設の規則に準じますので、実習開始時に学生へ説明をお願い致します。
- 3) 臨床検査技師と患者の関わりを見学できるよう、可能な範囲で場面設定をお願い致します。
- 4) 臨床検査部門と他部門との関わりやチーム医療について理解が深まるよう、可能な限りカンファレンス等の見学場面を設けていただきますようお願い致します。
- 5) 臨床実習中、学生は実習日誌を作成します。実習日誌にはスケジュールや学習内容、疑問点等を記入して提出しますので、ご確認と指導をお願い致します。
- 6) 個人情報の取扱いについて（本臨床実習マニュアルにも記載しております）、事前に大学で指導しておりますが、各施設において規定を定めている場合にはそれに準じてご指導いただきますようお願い致します。
- 7) 学生がやむを得ない理由で欠席・遅刻・早退する場合、所定の様式に理由等を記入して提出しますので、確認の後押印をお願い致します。
- 8) 実習終了時に、臨床実習評価表への記入をお願い致します。記入後は、記載内容について学生に説明し、内容を共有していただけますようお願い致します。
- 9) 学生が何らかの事故に関わった場合、原則として学生自身が大学へ報告することになっていますが、万が一、学生が対応不可能な場合には、実習指導者から大学への連絡をお願い致します。また、事故報告書の内容をご確認のうえ、各施設で定められた事故レベルの記入および署名、捺印をお願い致します。
- 10) 実習施設のある地域、または学生の現在地において、特に気象条件が悪化した場合、また公共交通機関が運休している場合は、状況に応じて帰宅または避難させるようお願い致します。また、翌日の気象状況悪化が想定される場合は、可能な限り前日に学生への指示をお願い致します。実習当日に該当の条件になった場合は、自宅待機等の指示をお願い致します。

します。原則として上記の理由での欠席は公欠席扱いと致します。

- 1 1) 学生紹介書は実習終了後、適切に処分いただきますよう、お願い致します。
- 1 2) 学生の実習に臨む姿勢や行動に問題が散見され、指導にも関わらず改善の様子が認められない場合は、大学へご連絡をお願い致します。
- 1 3) 課題・提出物は以下の通りです（表1）。実習終了時に学生に持ち帰らせていただきますようお願い致します。また、別途、実習ご施設さまが設ける課題・レポートの提出を課して頂いても結構です。

表1.臨床実習（総合臨床実習）における課題・提出物一覧表

課題・提出物一覧	作成者	確認事項
科目実習終了認定書	学生	実習指導者および検査室責任者の印
出席状況	学生	実習指導者の確認
実習日誌	学生	実習指導者の印
臨床実習（総合臨床実習） 報告書	学生	「施設の概要」についてのみ実習指導者の確認
臨床実習学生評価表	実習指導者	実習指導者の署名捺印
インシデントおよび事故 報告書（*）	学生	実習指導者の署名捺印

（*）は必要に応じて提出

科目実習終了認定書

実習病院名

学校名

学生番号

氏名

科目	期間	指導者印	病院印	学校印	備考
	自 年 月 日 至 年 月 日	月 日 印	月 日 印	月 日 印	
	自 年 月 日 至 年 月 日	月 日 印	月 日 印	月 日 印	
	自 年 月 日 至 年 月 日	月 日 印	月 日 印	月 日 印	
	自 年 月 日 至 年 月 日	月 日 印	月 日 印	月 日 印	
	自 年 月 日 至 年 月 日	月 日 印	月 日 印	月 日 印	
	自 年 月 日 至 年 月 日	月 日 印	月 日 印	月 日 印	
	自 年 月 日 至 年 月 日	月 日 印	月 日 印	月 日 印	
	自 年 月 日 至 年 月 日	月 日 印	月 日 印	月 日 印	
	自 年 月 日 至 年 月 日	月 日 印	月 日 印	月 日 印	
	自 年 月 日 至 年 月 日	月 日 印	月 日 印	月 日 印	
	自 年 月 日 至 年 月 日	月 日 印	月 日 印	月 日 印	

[備考]

1. 指導者印は、科目実習終了時の検査室の主任または責任者の確認印を受けること。
2. 病院印は、技師長または検査部（室、科、所）長の確認印を受けること。
3. 学校印は、上記 1. 2 の確認印を受けた後、学校印をうけること。
4. この修了書は指定規則上の臨床実習終了の証明になるので大切に扱うこと。

出席状況

実習病院名 _____ 学校名 _____ 学生番号 _____ 氏名 _____

科目	期間	実習予定 日数	出席	欠席	遅刻	早退	出席停止 忌引	
	自 年 月 日 至 年 月 日							
	自 年 月 日 至 年 月 日							
	自 年 月 日 至 年 月 日							
	自 年 月 日 至 年 月 日							
	自 年 月 日 至 年 月 日							
	自 年 月 日 至 年 月 日							
	自 年 月 日 至 年 月 日							
	自 年 月 日 至 年 月 日							
	自 年 月 日 至 年 月 日							
	自 年 月 日 至 年 月 日							
	自 年 月 日 至 年 月 日							

やむを得ない理由で欠席・遅刻・早退する場合は、速やかに実習指導者に連絡する。また、下記の該当欄に日付と理由を記入し、実習指導者の確認を受ける。併せて、授業欠席届けを大学に提出すること。

		理由
欠席	月 日	印
	月 日	印
遅刻	月 日	印
	月 日	印
早退	月 日	印
	月 日	印

実習日誌

指導者印	学校印

[illegible]

実習日誌

指導者印	学校印

[illegible]

実習日誌

指導者印	学校印

[illegible]

実習日誌

指導者印	学校印

[illegible]

実習日誌

指導者印	学校印

[illegible]

実習日誌

指導者印	学校印

[illegible]

実習日誌

指導者印	学校印

[illegible]

実習日誌

指導者印	学校印

[illegible]

実習日誌

指導者印	学校印

[illegible]

実習日誌

指導者印	学校印

[illegible]

臨床検査学入門I（見学実習）報告書

北海道医療大学 医療技術学部	臨床検査学科 1年
学生番号	氏名
	実習施設名

施設の概要（理念や方針、規模、組織概況、特記すべき設備など）：

臨床検査部門の概要：

臨床検査技師 名、 医師 名 その他（ ） 名

1 日当りの患者または利用者数：

診療科：

臨床検査技師は、患者とどのように関わっていましたか？そこから何を学びましたか？

臨床検査技師は、チーム医療など様々な場面で、他の職種とどのように関わっていましたか？なぜそのような関わりが必要だと思えますか？

臨床検査学入門II（見学実習）報告書

北海道医療大学 医療技術学部	臨床検査学科 2年
学生番号	氏名
実習施設名	

施設の概要（理念や方針、規模、組織概況、特記すべき設備など）：

臨床検査部門の概要：

臨床検査技師 名、 医師 名 その他（ ） 名

1 日当りの患者または利用者数：

診療科：

臨床検査技師は、患者とどのように関わっていましたか？そこから何を学びましたか？

臨床検査技師は、チーム医療など様々な場面で、他の職種とどのように関わっていましたか？なぜそのような関わりが必要だと思えますか？

臨床実習（総合臨床実習）報告書

北海道医療大学 医療技術学部	臨床検査学科 3年
学生番号	氏名
実習施設名	

施設の概要（理念や方針、規模、組織概況、特記すべき設備など）：

臨床検査部門の概要：

臨床検査技師 名、 医師 名 その他（ ） 名

1 日当りの患者または利用者数：

診療科：

臨床検査技師は、患者とどのように関わっていましたか？そこから何を学びましたか？

臨床検査技師は、チーム医療など様々な場面で、他の職種とどのように関わっていましたか？なぜそのような関わりが必要だと思えますか？

臨床実習学生評価表

北海道医療大学医療技術学部

臨床検査学科 3年

学生氏名

実習施設		実習指導者	
実習期間	自・平成 年 月 日 ～ 至・平成 年 月 日 日間		

成績評価基準 A：自主的に実践できる
 B：適切な助言・指導によりほぼ実践できる
 C：しばしば助言・指導を要するが、何とか実践できる
 D：繰り返し助言・指導をしても実践が難しい
 N：体験の機会なし

総合評価

1	相手にとって気持ちの良い挨拶	A	・	B	・	C	・	D	・	N
2	実習施設における規則の遵守	A	・	B	・	C	・	D	・	N
3	実習生としてふさわしい整容	A	・	B	・	C	・	D	・	N
4	礼儀を重んじる態度・言動	A	・	B	・	C	・	D	・	N
5	実習に関する予備知識	A	・	B	・	C	・	D	・	N
6	意欲的な実習への取り組み	A	・	B	・	C	・	D	・	N
7	適切な連絡・報告・相談	A	・	B	・	C	・	D	・	N
8	課題・レポートの内容	A	・	B	・	C	・	D	・	N
9	提出物の期限遵守	A	・	B	・	C	・	D	・	N
10	適切な個人情報の取り扱い	A	・	B	・	C	・	D	・	N

実習を通じた学生の取り組みで、優れていた点や実習中に目立って向上したことについてご記入ください

特に強調して指導した点や、特徴的に経験させ得たことがあればご記入ください

今後改善が必要な点、さらなる努力を期待する点についてご記入ください

平成 年 月 日

実習指導者氏名 印

学部長	教務部長	学生部長	実習担当	学生支援課

インシデントおよび事故報告書

発生日時	平成 年 月 日 時 分 ころ			
実習場所				
事故の種類	1 医療事故 2 物損・損壊事故 3 情報漏洩・人格権侵害 4 感染事故 5 傷害事故 6 暴力・ハラスメント			
事故発生状況				
発生後の対応				
報告者	所 属	北海道医療大学 医療技術学部 臨床検査学科 年		
	氏 名			
	作成日	平成 年 月 日		
事故レベル* _____ 実習指導者署名： _____ 印				

*各施設で定められている事故レベルの記入をお願い致します（例 ヒヤリハット、インシデント、アクシデント等）

6. 実習生の心得

臨床実習は、実習に協力してくださる患者さんや、その家族の方々、臨床実習施設の御好意のうえに成り立っていることを十分に理解して実習に臨む。

6.1 一般的心得

- 1) 実習に関することは、実習指導者の指示に従う。
- 2) 積極的な姿勢で実習に臨む。
- 3) 適切な言葉遣いを心がける。
- 4) 一日のタイムスケジュールを把握し、時間を厳守する。
- 5) 実習中は常に自らの所在を明らかにする。
- 6) 提出物の期限を厳守する。
- 7) 学校指定または実習施設指定のユニフォームを着用し、常に清潔な服装でいる。社会人、医療者としての身だしなみを心がける。
- 8) 自身の健康管理をしっかり行う。
- 9) やむを得ない理由で欠席・遅刻・早退する場合は、速やかに実習指導者へ電話で直接連絡し許可を得る。
- 10) 万一、事故が発生した場合は速やかに適切な処置を行い、実習指導者と大学に報告する。
- 11) 手洗いを徹底し、感染予防に努める。
- 12) 貴重品等は自己の責任において管理する。
- 13) 印鑑と健康保険証のコピー並びに学生証を携帯する。

6.2 患者・施設利用者に対する心得

- 1) 患者・施設利用者やその家族に対して、誠意をもって接する。慣れ慣れしい態度は慎み、適切な関係性を保つ。
- 2) 医療者としての守秘義務を遵守する。
- 3) 患者・施設利用者に検査結果・診断名・予後等を尋ねられた場合は即答せず、実習指導者に相談する。

6.3 実習指導者および実習施設に対する心得

- 1) 実習を受け入れくださった実習施設への感謝を忘れない。
- 2) 施設内における組織系統や決まり事を理解し、遵守する。
- 3) 実習施設全体への礼儀と配慮を欠かさない。
- 4) 適切に報告・連絡・相談をする。
- 5) 行うべきことがあらかじめ分かっている場合は、指示を待たず積極的に行動する。
- 6) 他者が求めていることを察し、積極的に援助を申し出る。
- 7) 借用品は確実に返納する。
- 8) 大学への提出物がすべて揃っていることを確認して実習を終了する。

7. 個人情報取り扱いについて

7.1 実習記録などの取扱いに関する注意事項

実習記録の紛失や個人情報が漏洩することがないように以下の項目を遵守する。

- 1) 診療記録、画像所見、血液データなどの閲覧や転記に関しては、必ず臨床実習指導者の許可を得る。
- 2) 実習日誌などの作成は、実習施設、大学、自宅および宿泊施設のみで行い、紛失することがないように保管・管理する。
- 3) 実習日誌には、対象者の個人名を用いず、匿名化して記録する。
- 4) 実習記録の作成にパソコンを使用する場合、パソコンおよびファイルにパスワード設定を行う。パソコン本体および情報記録媒体内のデータは実習終了後に削除する。
- 5) 不要となったメモ類に関してはシュレッダーで裁断する。

7.2 匿名化の方法

学習上の必要により、やむを得ず個人情報を施設外に持ち出す場合は、個人が特定されないように匿名化等の作業を徹底する。また、持ち出す情報は必要最小限とし、メモ等への記述は可能な限り抽象化する。実習記録の取扱いに当たっては、以下の事項を遵守する。

1. 氏名：対象者の姓名に関わらず「A氏」「B氏」「C氏」など意味の無いアルファベット、「×氏」「○氏」など記号で示す。「Y.S氏」など個人を特定しやすいイニシャルは用いない。
2. 年齢：原則として「50歳代前半」などとし、具体的な年齢や生年月日は記載しない。ただし、年齢や月齢が学習上きわめて重要な意味をもつ場合は実習指導者に相談する。
3. 日付：20XX年X月X日、20XX+1年X+2月X+3日などとし、具体的な年月日を記載しない。
4. 居住地：原則として記載しない。必要な場合は「石狩振興局内」などとし、具体的な市町村名は記載しない。
5. 職業：「農業」「漁業」「会社員」「医療関係」など抽象化して記載する。「医

師」「看護師」「臨床検査技師」などの具体的な職名は記載しない。

6. 家族歴：「妻（同居・通院中）」「子（1人・別居）」などとし、家族の年齢や居住地などは記載しない。

7. 遺伝情報：原則として記載しない。

7.3 臨床実習施設において別途規定を定めている場合の対応

臨床実習施設が独自に個人情報保護に関する規定を定めている場合には、臨床実習指導者の指示に従い、それを遵守する。

7.4 本学と臨床実習施設間における取り決め

臨床実習に係る個人情報保護の観点から、学生は「秘密保持に関する誓約書」を大学へ提出する。

（補足）個人情報とは

個人情報とは「生存する個人に関する情報であって、当該情報に含まれる氏名、生年月日、その他の記述等により特定の個人を識別することができるもの」をいう（個人情報保護法第2条第1項）。具体的を以下に示す。

- 1) 個人の基本的属性に関する情報：氏名、性別、生年月日、住所、本籍地、電話番号など
- 2) 家族に関する情報：家族構成、家族関係、婚姻歴など
- 3) 経歴や身分に関する情報：学業成績、学歴、職業、職歴など
- 4) 健康状態に関する情報：診断名、現病歴、既往歴、治療内容、検査データなど
- 5) 資産や経済に関する情報：収入、資産、債務など
- 6) 思想や信条に関する情報：支持政党、信仰、宗教など

さらに、これらの情報に関する事実・判断・評価、公刊物等によって公にされている情報、映像や音声による情報も個人情報に含まれ、暗号化されているか否かを問わない。

7.5 SNS等の利用に関する注意事項

SNS；social networking service（facebook、LINE、twitter、Instagram、mixi 等）、ブログ、ホームページ、掲示板、動画投稿サイト等の実習中に知り得た情報や個人の特定につながるような情報は、写真、動画等も含めて投稿してはならない。

- 1) 実習中の電子機器（iPad、携帯電話・スマートフォン、ノートパソコン等）による撮影・録画・録音は原則禁止とする。実習指導者が必要と判断した場合のみ下記の点に留意し行う。
- 2) 撮影・録画・録音の際は、記録内容から個人が特定されないように配慮する。
- 3) 電子機器は原則として施設内で持ち歩かず、指定された場所で保管、使用する。
- 4) インターネット上に格納してデータを保管するクラウドストレージサービス（Dropbox, SugarSync, Google Drive など）を利用した記録ファイルの保存や受け渡し、スマートフォン等とのファイル共有およびバックアップはしない。

7.6 罰則の適用と公表

個人情報の取り扱いに、違反した場合は、当該違反の重大性と違反時の状況に応じ、北海道医療大学学則に基づく厳重な処分が下される。

また個人情報漏えいが発生したと認定された場合、二次被害の防止や類似案件の発生回避の観点から個人情報保護法第7条に関わる政府見解に鑑み、事実関係を公表する。

7.7 個人情報等に関する緊急時の連絡体制

実習中に、実習記録（紙媒体・電子媒体）の紛失・散逸、盗難等、不都合な事態が発生した時は、事態発覚後速やかに実習指導者および、学年担当教員もしくは実習担当教員に連絡し指示を受ける。実習終了後に同じ事態が発生した場合も同様である。

8.出欠席について

8.1 出欠席

- 1) 臨床実習は全出席を原則とする。
- 2) やむを得ず欠席・遅刻する場合は始業までに学生が直接電話で実習施設に連絡し、了解を受けることを原則とする。始業に間に合わない場合でも速やかに連絡をする。
- 3) 実習を欠席した場合は、実習終了後に欠席届を当該実習担当教員に提出する。
- 4) 実習を欠席した場合は欠席届に以下の書類を添付する。
 - ①やむを得ない事情の場合（忌引き、交通障害、就職試験等）は、その旨が明記された書面または証明書
 - ②病気による場合は、医師の診断書
 - ③その他の理由の場合は、その理由が明記された書面
- 5) 臨床実習期間中の休日の取り扱いについては、各実習施設の就業規則に従う。

授 業 欠 席 届

平成 年 月 日

学 部 長 殿

医療技術学部		臨床検査学科
第 学年	学生番号	
氏 名		

<欠席月日・学科目名>

月 日	講時	学 科 目 名	月 日	講時	学 科 目 名
/			/		
/			/		
/			/		
/			/		
/			/		
/			/		

<欠席理由>

--

診断書 (有 ・ 無)

理由書 (有 ・ 無)

担任印	教務課受付印

9 .臨床実習中の事故対応マニュアル

学生は事故を防ぐため細心の注意を払うことが基本であるが、事故が発生した場合は本マニュアルに従い迅速に対応・報告すること。

9.1 実習期間中の事故とは

1) 患者や施設機器への損傷や損害

学生が施設内の患者・利用者に怪我を負わせてしまった場合

学生が施設の器物を破壊するなどの損害を与えてしまった場合

学生の過失が原因で患者・利用者・施設に何らかの不利益を与えてしまった場合

2) 学生自身に発生した事故

学生自身が怪我を負った場合（通学途中の交通事故を含む）

学生自身が感染事故や暴力・ハラスメントを受けた場合

3) その他

9.2 事故に対する保険について

本学の学生は、臨床実習中に想定しうる事故に対応できるよう保険に加入している。

9.3 事故発生時の対応手順

1) 事故や不測の事態に遭遇した際は、人命救助を最優先し対応する。

2) 学生自身で連絡が可能な場合、その状況・内容を速やかに実習指導者および本学教員に連絡し、判断・指示を仰ぎ対応する。

3) 学科の定めるインシデントおよび事故報告書を作成し、実習指導者の確認を受ける。施設の定める事故報告書を作成する場合もある。

4) 事故処理後、学科の定める「インシデントおよび事故報告書」を学内担当者（教員）へ提出する。学内担当者（教員）は報告書の内容を確認のうえ署名捺印し、報告書を学生支援課へ提出する。書類は学生支援課で保管する。

9.4 その他の留意点

学生が運転・乗車している場合の自動車事故は上記保険の補償対象外となる。

事故発生に伴い学生からの連絡が不可能な場合、実習指導者から大学にご連絡いただければ幸いです。

医療技術学部長 様

秘密保持に関する誓約書

この度、私は、臨床実習を行うにあたり、下記事項を遵守することを誓約いたします。

記

1. 北海道医療大学の諸規則及び指導を遵守し、臨床実習中に知り得た秘密情報について、臨床研修施設の許可なく、如何なる方法をもってしても、開示、遺漏もしくは使用しないことを約束いたします。
2. 秘密情報については、私がその秘密の形成に関わった場合であっても、臨床実習上作成したものであることを確認し、当該秘密の帰属が臨床実習施設にあることを確認いたします。
3. 秘密情報については、臨床実習を終了した後においても、開示、遺漏もしくは使用しないことを約束いたします。
4. 前各項に違反して、臨床研修施設の秘密情報を故意または過失により開示、遺漏もしくは使用した場合、法的な責任を負担するものであることを確認し、これにより臨床実習施設が被った損害を賠償します。

平成 年 月 日

学生番号：

氏 名：

㊞

既修得単位の読替表(一般4年制大学卒業)

区分			既修得科目				認定科目	
			科目名	年次	単位数	評価	科目名	単位数
全学教育科目	教養教育	導入科目					基礎ゼミナール(自然科学概論演習)	1
							文章指導(日本語の表現)	1
		教養科目					人間と思想(哲学)	4
							人間と思想(科学技術社会と倫理)	
							人間と思想(心理学)	
							人間と文化(医療の人類学)	
							人間と文化(医療社会史)	
							人間と社会(医療の法学)	
							人間と社会(医療の経済学)	
	基礎教育	外国語科目					英語 I(オーラル・イングリッシュA)	1
							英語 I(オーラル・イングリッシュB)	1
							初修外国語(初級ドイツ語)	2
							初修外国語(中級ドイツ語)	
							初修外国語(初級ロシア語)	
							初修外国語(中級ロシア語)	
							初修外国語(初級中国語)	
							初修外国語(中級中国語)	
		健康・運動科学科目					運動科学演習(運動科学演習)	1
		情報科学科目					情報科学(情報科学)	2
							情報処理演習(医療情報処理演習)	1
							統計学(基礎統計学)	1
		自然科学科目					物理学(物理学)	2
							化学(化学)	2
							生物学(生命科学)	2
医療 基盤 教育	医療基盤科目						多職種連携(多職種連携入門)	2
							医療倫理(基礎医療倫理学)	1

既修得単位の読替表(医療福祉系4年制大学卒業)

区分			既修得科目				認定科目	
			科目名	年次	単位数	評価	科目名	単位数
全学教育科目	教養教育	導入科目					基礎ゼミナール(自然科学概論演習)	1
							文章指導(日本語の表現)	1
		教養科目					人間と思想(哲学)	4
							人間と思想(科学技術社会と倫理)	
							人間と思想(心理学)	
							人間と文化(医療の人類学)	
							人間と文化(医療社会史)	
							人間と社会(医療の法学)	
							人間と社会(医療の経済学)	
	基礎教育	外国語科目					英語 I(オーラル・イングリッシュA)	1
							英語 I(オーラル・イングリッシュB)	1
							初修外国語(初級ドイツ語)	2
							初修外国語(中級ドイツ語)	
							初修外国語(初級ロシア語)	
							初修外国語(中級ロシア語)	
							初修外国語(初級中国語)	
							初修外国語(中級中国語)	
		健康・運動科学科目					運動科学演習(運動科学演習)	1
		情報科学科目					情報科学(情報科学)	2
							情報処理演習(医療情報処理演習)	1
							統計学(基礎統計学)	1
		自然科学科目					物理学(物理学)	2
							化学(化学)	2
							生物学(生命科学)	2
								2
専門基礎科目	医療基盤教育	医療基盤科目					多職種連携(多職種連携入門)	2
							医療倫理(基礎医療倫理学)	1
	専門基礎科目	人体の構造と機能					解剖学Ⅰ	1
							解剖学Ⅱ	1
							生理学Ⅰ	1
							生理学Ⅱ	1
							生化学Ⅰ	1
							生化学Ⅱ	1
		医学検査の基礎とその疾病との関連					医学概論	1
							病理学	1
							臨床検査学入門Ⅰ	1
		保健医療福祉					公衆衛生学	1
		生物化学分析					臨床検査学総論Ⅰ	1
	専門科目	検査総合管理学					検査機器学	1
							基礎機器分析演習	1

区分		授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年		履修モデル1 一般の4年生大学卒業	履修モデル2 医療福祉系4年生大学卒業		
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
全学教育科目	基礎教育	導入科目	基礎ゼミナール(自然科学概論演習)	1		1								①	①	
			文章指導(日本語の表現)	1			1							①	①	
		教養科目	人間と思想(哲学)		2		2								②	②
			人間と思想(科学技術社会と倫理)		2	2										
			人間と思想(心理学)		2		2									
			人間と文化(医療の人類学)		2	2									②	②
			人間と文化(医療社会史)		2	2										
			人間と社会(医療の法学)		2		2									
			人間と社会(医療の経済学)		2		2									
		外国語科目	英語Ⅰ(オーラル・イングリッシュA)	1		1									①	①
英語Ⅰ(オーラル・イングリッシュB)	1				1								①	①		
英語Ⅱ(英語ⅡA)	1					1							①	①		
英語Ⅱ(英語ⅡB)	1						1						①	①		
英語Ⅲ(医療英語基礎)	1								1				①	①		
初修外国語(初級ドイツ語)			1	1									①	①		
初修外国語(中級ドイツ語)			1		1								①	①		
初修外国語(初級ロシア語)			1	1												
初修外国語(中級ロシア語)			1		1											
初修外国語(初級中国語)			1	1												
初修外国語(中級中国語)			1		1											
情報科学科目	運動科学演習(運動科学演習)		1			1								①	①	
	情報科学(情報科学)		2			2								②	②	
	情報処理演習(医療情報処理演習)	1			1								①	①		
	統計学(基礎統計学)	1		1									①	①		
	統計学(医療疫学統計学)	2								2			②	②		
自然科学科目	物理学(物理学)	2		2									②	②		
	化学(化学)	2		2									②	②		
	生物学(生命科学)	2		2									②	②		
	多職種連携(多職種連携入門)	2		2									②	②		
医療基礎教育	医療基盤科目	医療倫理(基礎医療倫理学)	1			1							①	①		
		全学教育科目 合計29単位以上履修(うち必修23単位)												24(18)	24(18)	
														履修単位数(うち必修単位数)	5(5)	5(5)
														合計単位数(うち必修単位数)	29(23)	29(23)

区分		授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年		履修モデル1 一般の4年生大学 卒業	履修モデル2 医療福祉系4年生大学 卒業
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門基礎科目	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	1		1								①	①
		解剖学Ⅱ	1		1								①	①
		解剖学実習	1				1						①	①
		生理学Ⅰ	1		1								①	①
		生理学Ⅱ	1			1							①	①
		生理学実習	1				1						①	①
		生化学Ⅰ	1		1								①	①
		生化学Ⅱ	1			1							①	①
	医学検査の基礎とその疾病との関連	生化学実習	1				1						①	①
		医学概論	1		1								①	①
		病理学	1			1							①	①
		薬理学	1					1					①	①
		栄養学	1					1					①	①
		臨床検査学入門Ⅰ	1		1								①	①
	保健医療福祉と医学検査	臨床検査学入門Ⅱ	1				1						①	①
		公衆衛生学	1			1							①	①
	医療工学及び情報科学	公衆衛生学実習	1				1					1	①	①
		関係法規	1										①	①
		医療情報科学	1						1				①	①
		医用工学概論	1				1						①	①
	医用工学実習					1			1				①	①
専門基礎科目 合計21単位以上履修(うち必修21単位)					認定単位数(うち必修単位数)							0(0)	10(10)	
					履修単位数(うち必修単位数)							21(21)	11(11)	
					合計単位数(うち必修単位数)							21(21)	21(21)	

区分		授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年		履修モデル1 一般の4年生・大学卒業	履修モデル2 医療福祉系4年生・大学卒業
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	臨床病態学	臨床病態学Ⅰ	1				1						①	①
		臨床病態学Ⅱ	1				1						①	①
		臨床病態学Ⅲ	1				1						①	①
		臨床検査医学総論演習	1							1			①	①
	形態検査学	臨床血液学Ⅰ	1				1				1		①	①
		臨床血液学Ⅱ	1				1						①	①
		臨床血液学実習	2					2					②	②
		臨床血液学演習	1						2				①	①
		医療分子機能科学		1							1		①	①
		臨床病理検査学	1				1						①	①
		臨床細胞診断学	1				1						①	①
		臨床細胞病理学実習	2					2					②	②
		臨床細胞病理学演習	1							1			①	①
		分子細胞病理学		1							1			
	生物化学分析検査学	臨床化学Ⅰ	1				1						①	①
		臨床化学Ⅱ	1				1						①	①
		臨床化学実習	2					2					②	②
		臨床化学演習	1								1		①	①
		先進医療検査学		1								1		
		臨床検査学総論Ⅰ	1			1							①	①
		臨床検査学総論Ⅱ	1			1							①	①
		臨床検査学総論実習	2				2						②	②
		臨床検査学総論演習	1								1		①	①
		核医学概論	1				1						①	①
		遺伝子検査学	1				1						①	①
		遺伝子検査学実習	1				1						①	①
		遺伝子・染色体分析科学		1								1		
	病因・生体防御検査学	免疫検査学Ⅰ	1				1						①	①
		免疫検査学Ⅱ	1				1						①	①
		免疫検査学実習	2					2					②	②
		免疫検査学演習	1								1		①	①
		輸血・移植学演習	1							1			①	①
		免疫細胞生物学		1							1			
		微生物学	1				1						①	①
		臨床微生物学	1					1					①	①
		微生物学実習	2						2				②	②
		臨床微生物学演習	1							1			①	①
		感染制御学	1	1							1		①	①
		医動物学	1				1						①	①
		医動物学演習	1				1						①	①
		食品衛生学		1							1			
	生理機能検査学	臨床生理学Ⅰ	1				1						①	①
		臨床生理学Ⅱ	1				1						①	①
		臨床生理学実習	2					2					②	②
		画像検査学	1					1					①	①
		画像検査学演習	2						2				②	②
		臨床生理学演習	1								1		①	①
		実践超音波検査学		1							1			
	検査総合管理学	検査機器学	1			1							①	①
		基礎機器分析演習	1			1							①	①
		臨床検査管理学	1					1					①	①
		保健医療福祉演習		1			1						①	①
		チーム医療・コミュニケーション演習		1					1				①	①
		医療リスクマネジメント演習		1					1				①	①
		総合臨床検査学演習Ⅰ	1				1						①	①
		総合臨床検査学演習Ⅱ	1							1			①	①
		総合臨床検査学演習Ⅲ	4								4		④	④
		総合臨床検査技術演習	1							1			①	①
医療安全管理学		1								1		①	①	
臨地実習	臨床実習	7							7		⑦	⑦		
卒業研究	臨床検査研究セミナー	6								6	⑥	⑥		
専門科目 合計77単位以上履修(うち必修73単位)					認定単位数(うち必修単位数)							0(0)	3(3)	
					履修単位数(うち必修単位数)							77(73)	74(70)	
					合計単位数(うち必修単位数)							77(73)	77(73)	
臨床検査学科 合計126単位以上修得(必修116単位・選択10単位以上)					認定単位数(うち必修単位数)							25(19)	37(31)	
					履修単位数(うち必修単位数)							101(97)	89(85)	
					合計単位数(うち必修単位数)							126(116)	126(116)	